

授 業 概 要

科目名	キャリアプランニング	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	抜井 健之		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1、「聞く、話す」ということばを使ったコミュニケーションを上手に行うための基本的な技法を知り、それを使う「習慣」を身に付ける。 2、自分なりに問題をとらえ(自問自答)、他者との対話を通じて、自分も他者も納得できる解決策を見つける力(問題解決力)を育む。 3、自分を良く知り(自己理解)、自分と関わる他者を良く理解する(他者理解)ことを通じて、自分を支えてくれる自己信頼を守り、強化し続けられるようになる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
福祉(社会福祉・介護福祉)・医療(歯科衛生・リハビリ)分野のクラス・学科運営の経験から培われた職業人教育を実践する教員が、コミュニケーションを上手に行うだけに留まらず問題解決力を育み、自己信頼を強化し続けられるように授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
なし(オリジナルPPT)									
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1 9/25	【授業単元】 前期の振り返り 後期の学習ポイント 社会人基礎力について 前期できたこと、できなかったことを総括し、後期のスケジュールを理解した上、各々の課題を抽出する 業界で必要とされている社会人基礎力とは何かを学び、体系的に理解する。				9 11/2 7	【授業単元】 現在の自分を知る(平上) 【到達目標】 心理検査②前期の自分と比べて成長や課題点を見つける			
	【授業単元】 学園祭準備 【到達目標】 クラス内相互支援体制の確立 社会人基礎力の中で、自身の強みを生かし、また弱みを最小限に留めることを念頭に、学園祭準備の中で行動する。					【授業単元】 これからの心理師にもとめられること(平上) 【到達目標】 5領域においてどんな分野がどんな人材を求めているのかを把握し、次年度自分の自分の武器を作っていくためのヒント・課題を記述することができる。			
2 10/2	【授業単元】 学園祭準備 【到達目標】 クラス内相互支援体制の確立 社会人基礎力の中で、自身の強みを生かし、また弱みを最小限に留めることを念頭に、学園祭準備の中で行動する。				10 12/4	【授業単元】 入学前教育「在校生学校生活発表会」準備 テーマ・グループ分け 【到達目標】 1年間の自身の学びを、チームで後輩に「わかりやすく」「簡潔に」発表することにより、社会人基礎力を体現する。			
	【授業単元】 学園祭準備 【到達目標】 クラス内相互支援体制の確立 社会人基礎力の中で、自身の強みを生かし、また弱みを最小限に留めることを念頭に、学園祭準備の中で行動する。					【授業単元】 入学前教育「在校生学校生活発表会」準備 グループワーク 【到達目標】 1年間の自身の学びを、チームで後輩に「わかりやすく」「簡潔に」発表することにより、社会人基礎力を体現する。			
3 10/9	【授業単元】 学園祭準備 【到達目標】 クラス内相互支援体制の確立 社会人基礎力の中で、自身の強みを生かし、また弱みを最小限に留めることを念頭に、学園祭準備の中で行動する。				11 12/1 1	【授業単元】 入学前教育「在校生学校生活発表会」準備 グループワーク 【到達目標】 1年間の自身の学びを、チームで後輩に「わかりやすく」「簡潔に」発表することにより、社会人基礎力を体現する。			
	【授業単元】 学園祭準備 【到達目標】 クラス内相互支援体制の確立 社会人基礎力の中で、自身の強みを生かし、また弱みを最小限に留めることを念頭に、学園祭準備の中で行動する。					【授業単元】 入学前教育「在校生学校生活発表会」準備 グループワーク 【到達目標】 1年間の自身の学びを、チームで後輩に「わかりやすく」「簡潔に」発表することにより、社会人基礎力を体現する。			
4 10/16	【授業単元】 学園祭振り返り 社会人基礎力の振り返り 【到達目標】 学園祭という行事を振り返り、社会人基礎力の内、強みを存分に発揮できたか、または発揮できなかった場合は、何が阻害していたのか、を自身で振り返り、今後に繋げていく。				12 1/9	【授業単元】 入学前教育「在校生学校生活発表会」準備 グループワーク 【到達目標】 1年間の自身の学びを、チームで後輩に「わかりやすく」「簡潔に」発表することにより、社会人基礎力を体現する。			
	【授業単元】 海外文化について ①研修に参加する者(スウェーデンについての概要をまとめる) ②研修に参加しない者(興味のある国をピックアップしその国の概要をまとめる) 【到達目標】 視野を国内のみならず海外に広げ、日本と海外の違いを知り、国際的感性を養う。					【授業単元】 入学前教育「在校生学校生活発表会」準備 グループワーク 【到達目標】 1年間の自身の学びを、チームで後輩に「わかりやすく」「簡潔に」発表することにより、社会人基礎力を体現する。			
5 10/23	【授業単元】 海外文化について ①研修に参加した者(スウェーデン研修の報告書をまとめる) ②研修に参加しない者(興味のある国をピックアップしその国の概要、日本との違いをまとめる) 【到達目標】 視野を国内のみならず海外に広げ、日本と海外の違いを知り、国際的感性を養う。				13 1/16	【授業単元】 入学前教育「在校生学校生活発表会」準備 グループワーク 【到達目標】 1年間の自身の学びを、チームで後輩に「わかりやすく」「簡潔に」発表することにより、社会人基礎力を体現する。			
	【授業単元】 海外文化について ①研修に参加した者(スウェーデン研修の報告書をまとめる) ②研修に参加しない者(興味のある国をピックアップしその国の概要、日本との違いをまとめる) 【到達目標】 視野を国内のみならず海外に広げ、日本と海外の違いを知り、国際的感性を養う。					【授業単元】 入学前教育「在校生学校生活発表会」の内容のレポート試験 入学前教育「在校生学校生活発表会」リハーサル(グループごと) 【到達目標】 1年間の自身の学びを、チームで後輩に「わかりやすく」「簡潔に」発表することにより、社会人基礎力を体現する。			
6 11/3	【授業単元】 海外文化について ①研修に参加した者(スウェーデン研修の報告書をまとめる) ②研修に参加しない者(興味のある国をピックアップしその国の概要、日本との違いをまとめる) 【到達目標】 視野を国内のみならず海外に広げ、日本と海外の違いを知り、国際的感性を養う。				14 1/23	【授業単元】 入学前教育「在校生学校生活発表会」準備 グループワーク 【到達目標】 1年間の自身の学びを、チームで後輩に「わかりやすく」「簡潔に」発表することにより、社会人基礎力を体現する。			
	【授業単元】 海外文化について ①研修に参加した者(スウェーデン研修の報告書をまとめる) ②研修に参加しない者(興味のある国をピックアップしその国の概要、日本との違いをまとめる) 【到達目標】 視野を国内のみならず海外に広げ、日本と海外の違いを知り、国際的感性を養う。					【授業単元】 入学前教育「在校生学校生活発表会」の内容のレポート試験 入学前教育「在校生学校生活発表会」リハーサル(グループごと) 【到達目標】 1年間の自身の学びを、チームで後輩に「わかりやすく」「簡潔に」発表することにより、社会人基礎力を体現する。			
7 11/10	【授業単元】 海外文化について ①研修に参加した者(スウェーデン研修の報告書をまとめる) ②研修に参加しない者(興味のある国をピックアップしその国の概要、日本との違いをまとめる) 【到達目標】 視野を国内のみならず海外に広げ、日本と海外の違いを知り、国際的感性を養う。				15 1/30	【授業単元】 入学前教育「在校生学校生活発表会」の内容のレポート試験 入学前教育「在校生学校生活発表会」リハーサル(グループごと) 【到達目標】 1年間の自身の学びを、チームで後輩に「わかりやすく」「簡潔に」発表することにより、社会人基礎力を体現する。			
	【授業単元】 海外文化について ①研修に参加した者(スウェーデン研修の報告書をまとめる) ②研修に参加しない者(興味のある国をピックアップしその国の概要、日本との違いをまとめる) 【到達目標】 視野を国内のみならず海外に広げ、日本と海外の違いを知り、国際的感性を養う。					【授業単元】 入学前教育「在校生学校生活発表会」の内容のレポート試験 入学前教育「在校生学校生活発表会」リハーサル(グループごと) 【到達目標】 1年間の自身の学びを、チームで後輩に「わかりやすく」「簡潔に」発表することにより、社会人基礎力を体現する。			
8 11/20	【授業単元】 中テスト(社会人基礎力についてのレポート) 海外文化の発表会 【到達目標】 学園祭を経験し、相互支援の大切さと自身の強み・弱みを言語化することにより、キャリア形成における成長を実感する。 発表会を行い、海外と日本の違いを共有する。				16 1/27	【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験はレポート試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。			
	【履修に当たっての心構え・留意点】					【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験はレポート試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。			

授 業 概 要

科目名	文章表現	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	徳岡健男		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
わかり易い文章の書き方を学ぶ講座である。また、論説や時事ニュース等の要点を読み取るためのコツをつかむ講座である。、実習の報告書を記入する際、また、就職試験や公務員試験でおこなわれる文章理解と小論文などにおいて、効果がある講座である。具体的には、起承転結のある文章と論理的な文章を読み、その組み立てを学ぶ。 また、わかり易い文章を構成するための文法の基本を学び、表現力を豊かにするための語彙を学ぶ。									
【学習内容】									
流通業界での実務経験と社会人教育・専門学校教育での教員経験をもつ教員が、わかり易い文章の書き方を指導する。 授業実施後には、起承転結や、序論、本論、結論という、わかりやすく組み立てられた文章を書けるレベルに到達できる授業である。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
書名:「日本語練習帳」岩波新書 大野晋著					日常から文章になじんでほしい。特に新聞記事などを読むことを推奨したい。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 わかり易い文章とは①				9	【授業単元】 論理的に文章を読む。① 『はやぶさ式思考法』			
	【到達目標】 相手本位の文章を考える。 仕事に必要な文章を考える。					【到達目標】 結論に至る流れを理解する。 序論・本論・結論を意識する。			
2	【授業単元】 わかり易い文章とは②				10	【授業単元】 論理的に文章を読む② 『ローマから日本が見える』			
	【到達目標】 簡潔な文章を理解する。 一文を簡潔に。修飾の順序に気を付ける。					【到達目標】 結論に至る流れを理解する。 序論・本論・結論を意識する。			
3	【授業単元】 わかり易い文章③				11	【授業単元】 論理的に文章を読む③「下町ロケット」「小説の読み方」			
	【到達目標】 自己PRを書いてみる。 根拠を挙げ、相手に納得してもらう。					【到達目標】 描写から人物像を読み取る。 キーワードを意識して文章を読む。			
4	【授業単元】 わかり易い文章④				12	【授業単元】 小論文を書いてみる①			
	【到達目標】 志望動機を書いてみる。 なぜ社会福祉士になりたいのか。					【到達目標】 作文と小論文の違いを理解する。 情緒が中心文章と理性的な文章の違いを知る。			
5	【授業単元】 語彙力を高める①				13	【授業単元】 小論文を書いてみる②			
	【到達目標】 熟語を学ぶ。 三字熟語と四字熟語					【到達目標】 書き方の手順を知る。 小論文の評価のポイントを知る。			
6	【授業単元】 語彙力を高める②				14	【授業単元】 小論文を書いてみる③テーマを設定し、課題作文を書く。			
	【到達目標】 故事成語ととわざを学ぶ。 慣用句を学ぶ。					【到達目標】 小論文(課題作文)の提出。			
7	【授業単元】 語彙力を高める③ 同訓異字、同音異字、四字熟語などを学ぶ。				15	【授業単元】 定期試験(小論文試験)			
	【到達目標】 同訓異字、同音異字、対義語を学ぶ。					【到達目標】 試験終了後に解答・解説			
8	【授業単元】 1～7回目までの授業で学習した範囲から出題。				【成績評価の方法と基準】 評価は筆記試験と小論文の提出で行なう。筆記試験は授業で確認した知識の定着度(1回～7回)を確認する。8回目～14回については、小論文試験とする。小論文の評価基準については、わかり易い文章の授業の中で伝える。また、各授業の中で小テストを実施し、小テスト40点・定期試験60点、合計100点満点で評価する。評価は学則の規定に準ずる。				
	【到達目標】 解答・解説								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
文章に親しむ。まず、文章を読み、内容を理解することが大切です。									

授業概要

科目名	チャレンジプログラム指導	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	抜井 健之		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
様々な現場での専門職員や利用者を知ることを通して、自分の将来像を明確にすることを目的とする。 この授業においては、チャレンジプログラムにおける現場体験をもとに、振り返りを実施し、自己の体験・意見と他者の体験・意見を共有する中で、自分の価値観の幅を広げること。また、理想の職業像と自己において乖離がみられる部分はどのようにして自己研鑽していくのか計画を立てていく。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
福祉専門職育成に携わる教員が、当プログラムの目的及び実習に関する基本的なマナーについて指導をする。合わせて、各事業所における現場職員が、実習機会を提供し、利用者理解と事業所理解に資する技術・知識について指導を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教材：資料の配布					自己研鑽が必要な部分は自ら調べ、体験していくこと。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1 9/28	【授業単元】 授業スケジュールの説明 チャレンジ前プログラム① 【到達目標】 実習の目的を理解し、自分の目標を説明することができる。 実習マナーを実践することができる				9 11/30	【授業単元】 4日体験プログラム①振り返り 【到達目標】 個人・グループにおける振り返りを実施し、気づきを得ることができる			
	【授業単元】 チャレンジ前プログラム② 実習先紹介・実習日誌・チャレンジの目標作成 【到達目標】 実習日誌に自分の目標、考察が書けるようになる					【授業単元】 4日体験プログラム②振り返り 【到達目標】 個人・グループにおける振り返りを実施し、気づきを得ることができる			
2 10/5	【授業単元】 チャレンジ前プログラム③ 実習先調査 【到達目標】 様々な施設の働きや役割について調べ、説明することができる。				11 12/14	【授業単元】 4日体験プログラム③振り返り 【到達目標】 個人・グループにおける振り返りを実施し、気づきを得ることができる			
	【授業単元】 1日体験プログラム①振り返り 実習先調査 【到達目標】 個人・グループにおける振り返りを実施し、気づきを得ることができる					【授業単元】 4日体験プログラム④振り返り 講演概要調査 【到達目標】 個人・グループにおける振り返りを実施し、気づきを得ることができる 講演者が勤める施設における支援者の働きや役割について調べ、説明することができる			
3 10/12	【授業単元】 1日体験プログラム②振り返り 実習先調査 【到達目標】 様々な施設において対象者と主体的にコミュニケーションをとることができる 施設の働き・役割について説明することができる				12 1/11	【授業単元】 1日体験プログラム④振り返り 実習先調査 【到達目標】 様々な施設において対象者と主体的にコミュニケーションをとることができる 施設の働き・役割について説明することができる			
	【授業単元】 1日体験プログラム③振り返り 実習先調査 【到達目標】 様々な施設において対象者と主体的にコミュニケーションをとることができる 施設の働き・役割について説明することができる					【授業単元】 1日体験プログラム⑤振り返り 実習先調査 【到達目標】 様々な施設において対象者と主体的にコミュニケーションをとることができる 施設の働き・役割について説明することができる			
4 10/19	【授業単元】 1日体験プログラム④振り返り 実習先調査 【到達目標】 様々な施設において対象者と主体的にコミュニケーションをとることができる 施設の働き・役割について説明することができる				13 1/18	【授業単元】 講演概要調査 【到達目標】 講演者が勤める施設における支援者の働きや役割について調べ、説明することができる			
	【授業単元】 1日体験プログラム⑤振り返り 実習先調査 【到達目標】 様々な施設において対象者と主体的にコミュニケーションをとることができる 施設の働き・役割について説明することができる					【授業単元】 プレゼン準備 定期試験① 【到達目標】 チャレンジプログラムの内容について自己で振り返ることができる			
5 10/26	【授業単元】 1日体験プログラム⑥振り返り 実習先調査 【到達目標】 様々な施設において対象者と主体的にコミュニケーションをとることができる 施設の働き・役割について説明することができる				14 1/25	【授業単元】 プレゼン準備 定期試験② 【到達目標】 チャレンジプログラムの内容について自己で振り返ることができる			
	【授業単元】 振り返りプレゼン 実習先調査 中アス! 【到達目標】 1回から7回目までの学びをプレゼンすることができる					【成績評価の方法と基準】 小テスト、中テスト、定期試験にて総合評価を行う。 合計点数 GP ◆A評価 100～90点 4.0 ◆B評価 89～80点 3.0 ◆C評価 79～70点 2.0 ◆D評価 69～60点 1.0 ◆E,F評価 59点以下又は出席不良は、不合格とする。			
6 11/2	【履修に当たっての心構え・留意点】 デバイスは十分な充電を行って講義を受けてください。								

授 業 概 要

科目名	チャレンジプログラム	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	抜井 健之	
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	5 単位	総時間数 150 時間
【授業を通じての到達目標】								
様々な現場での専門職員や利用者を知ることを通じて、自分の将来像を明確にすることを目的とする。それを明確にすることによって、普段の学業や私生活において意味付けを追加し、充実した学校生活を送ることができるようになる。								
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
福祉専門職育成に携わる教員が、当プログラムの目的及び実習に関する基本的なマナーについて指導をする。合わせて、各事業所における現場職員が、実習機会を提供し、利用者理解と事業所理解に資する技術・知識について指導を行う。								
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】			
教材:適宜資料を配布					実習内容の振り返りと共に、関連する内容についての調べ学習やボランティアの参加等を要する。			
コマ	授業計画				コマ	授業計画		
1 9/29	【授業単元】 チャレンジ前プログラム① 分野別(高齢・障害・福祉・教育)における業務内容・多職種連携 【到達目標】 分野別(高齢・障害・福祉・教育)における業務内容、多職種連携をグループでまとめ、理解することができる				9 12/1	【授業単元】 4日体験プログラム② 【到達目標】 4日間の同施設体験を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 利用者と主体的にコミュニケーションをとることができる 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる 支援者の役割を理解することができる		
2 10/6	【授業単元】 チャレンジ前プログラム② 実習ロールプレイ(挨拶・実習生としての話し方・聞き方) 実習先アクセス調査 【到達目標】 実習生としての基本的なマナーについて理解し、実践することができる				10 12/8	【授業単元】 4日体験プログラム③ 【到達目標】 4日間の同施設体験を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 利用者と主体的にコミュニケーションをとることができる 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる 支援者の役割を理解することができる		
3 10/13	【授業単元】 1日体験プログラム① 【到達目標】 施設見学等を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 様々な施設において対象者と主体的にコミュニケーションをとることができる 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる				11 12/15	【授業単元】 4日体験プログラム④ 【到達目標】 4日間の同施設体験を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 利用者と主体的にコミュニケーションをとることができる 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる 支援者の役割を理解することができる		
4 10/20	【授業単元】 1日体験プログラム② 【到達目標】 施設見学等を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 様々な施設において対象者と主体的にコミュニケーションをとることができる 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる				12 1/12	【授業単元】 講演 【到達目標】 外部講師の話から支援者の役割等を理解し、説明することができる		
5 10/27	【授業単元】 1日体験プログラム③ 【到達目標】 施設見学等を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 様々な施設において対象者と主体的にコミュニケーションをとることができる 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる				13 1/19	【授業単元】 講演 【到達目標】 外部講師の話から支援者の役割等を理解し、説明することができる		
6 11/3	【授業単元】 1日体験プログラム④ 【到達目標】 様々な施設において対象者と主体的にコミュニケーションをとることができる 施設の働き・役割について説明することができる				14 1/26	【授業単元】 プレゼン発表① 定期試験 【到達目標】 これまで学んだことを復習することができる 内容をまとめ、プレゼンを行うことができる 定期試験後に解説を行い、重点項目について説明することができる		
7 11/17	【授業単元】 講演:児童相談所 中テスト 【到達目標】 外部講師の話から児童相談所の役割等を理解し、説明することができる これまで学んだことを復習することができる				15 2/2	【授業単元】 プレゼン発表② 定期試験 【到達目標】 これまで学んだことを復習することができる 内容をまとめ、プレゼンを行うことができる 定期試験後に解説を行い、重点項目について説明することができる		
8 11/24	【授業単元】 4日体験プログラム① 【到達目標】 4日間の同施設体験を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 利用者と主体的にコミュニケーションをとることができる 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる 支援者の役割を理解することができる				【成績評価の方法と基準】 小テスト、中テスト、定期試験にて総合評価を行う。 合計点数 GP ◆A評価 100～90点 4.0 ◆B評価 89～80点 3.0 ◆C評価 79～70点 2.0 ◆D評価 69～60点 1.0 ◆E/F評価 59点以下又は出席不良は、不合格とする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】								
デバイスは十分な充電を行って講義を受けてください。 チャレンジプログラムにおいては1～4限まで要するが、1コマと表記する。								

授 業 概 要

科目名	情報リテラシー I	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	株式会社 ブレーンスタッフコンサルタンツ		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく活用できる ・Wordを利用し、複合文書を作成できる ・図解や画像を駆使した、訴求力のあるプレゼン資料を作成できる 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
滋慶学園グループの企業である(株)ブレーンスタッフコンサルタンツのラーニングマネージャーが、卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについての講義を実施。学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
オリジナルのe-learningテキスト					e-learningテキストで操作手順を確認し、PC操作を実践する				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 PCセットアップ ※初回は全員登校して下さい e-learningの使用方法、ITリテラシー 滋慶学園 ITリテラシー理解度テスト				9	【授業単元】 院内ポスター			
	【到達目標】 PCの学習環境を載せて、次回講義からe-learningテキストで学習できる新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく上手に活用できる					【到達目標】 Wordの機能を使用し色彩や配色を意識して院内ポスターを作成できる			
2	【授業単元】 CGT入門4 Officeの基本操作				10	【授業単元】 PowerPoint1 基本操作			
	【到達目標】 Excelの基本的な操作ができる					【到達目標】 プレゼンテーションソフトの基本操作ができる			
3	【授業単元】 Word基礎1 基本操作				11	【授業単元】 PowerPoint2 表現力を上げる			
	【到達目標】 文書作成ソフトを使って、効率的にビジネス文書を作ることができる					【到達目標】 図形や画像を活用したスライドを作成できる			
4	【授業単元】 Word基礎2 画像や図形				12	【授業単元】 PowerPoint3 動きを付ける			
	【到達目標】 画像や図形を駆使した文書を作成できる					【到達目標】 スライドに動きを付け、全てのスライドを完成できる			
5	【授業単元】 Word基礎3 表の作成				13	【授業単元】 PowerPoint スライド完成			
	【到達目標】 表を駆使した文書を作成できる					【到達目標】 スライドを完成させる			
6	【授業単元】 Word応用A 長文加工				14	【授業単元】 PowerPoint試験対策			
	【到達目標】 長文作成における必要な操作ができる					【到達目標】 PowerPoint講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる			
7	【授業単元】 Word試験対策				15	【授業単元】 PowerPoint定期試験、振り返り			
	【到達目標】 Word講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる					【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、PowerPoint資料を作成できる			
8	【授業単元】 Word中テスト				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験はPCを使用したPowerPointスライド作成を行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、Word資料を作成できる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
PC操作は日々繰り返すことでタイピング速度が上がり、効率的な資料作成やデータ処理が可能になります。できるだけ日常に取り入れて活用してください									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク特別演習 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	金松 和・平上 恭弘		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
<p>ストレス予防・対処において心、身体へのアプローチを体感しながら学ぶ。 クラスメイトと協力しながら、頭で学び、身体を動かす等を通して適度な達成感・充実感を得て、結果として安定した学校生活を送る一助とする。</p>									
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのも記載する)									
<p>私は民間スポーツクラブにて10年ほど勤務し、その後、大学・高校などの部活動でトレーナー活動を行っています。健康とは体にどのような良いことがあるかを知ってもらえる授業を行ってまいります。</p>									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
配布資料					授業時間外では、普段の歩き方、立ち方に注意しましょう。猫背。反り腰は腰痛や肩凝りを起こします。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	<p>【授業単元】4/20 3限 金松先生 平上先生 オリエンテーション・自己紹介、授業の流れ ストレスマネジメントにおける心と身体・体を動かすメリット</p> <p>【到達目標】 ストレスの定義について説明できる。 スポーツの定義について説明できる。 体を動かすメリットを理解し、説明することができる。</p>				9	<p>【授業単元】5/25 4限 金松先生 平上先生 レクリエーション</p> <p>チーム対抗レクリエーションを行い、充実感達成感を得ることができる。</p>			
	<p>【授業単元】4/27 3限 平上先生 WRAPのワークを知り、自己の心について理解を深める</p> <p>【到達目標】 自己取扱説明書を作成し、他者に説明することができる。</p>					<p>【授業単元】6/1 3限 平上先生 アニマルセラピー 行船公園</p> <p>【到達目標】 アニマルセラピーにおいて動物の写真を取り、クラスメイト同士で癒やされる。</p>			
2	<p>【授業単元】4/27 4限 金松先生 座学：健康とは 実技：筋カトレーニング・ストレッチ</p> <p>【到達目標】 座学：健康の定義を説明することができる。 実技：筋カトレーニング・ストレッチを理解し、実践することができる。</p>				11	<p>【授業単元】6/1 4限 金松先生 アニマルセラピー 行船公園</p> <p>【到達目標】 アニマルセラピーにおいて動物の写真を取り、クラスメイト同士で癒やされる。</p>			
	<p>【授業単元】5/11 3限 平上先生 リラクゼーション法を学ぶ</p> <p>【到達目標】 リラクゼーション法の中の呼吸法について実践することができる。</p>					<p>【授業単元】6/8 3限 平上先生 選択理論について</p> <p>【到達目標】 全行動である行為、思考、感情、生理反応のメカニズムについて他者に説明することができる。</p>			
3	<p>【授業単元】5/11 4限 金松先生 座学：健康とは 実技：筋カトレーニング・ストレッチ</p> <p>【到達目標】 座学：健康の定義を説明することができる。 実技：筋カトレーニング・ストレッチを理解し、実践することができる。</p>				13	<p>【授業単元】6/8 4限 金松先生 スポーツを通して達成感充実感を得る</p> <p>【到達目標】 実技：バラスポーツ(ポッチャ・風船パレー)などを実践し、競技規則を理解し発表出来る。</p>			
	<p>【授業単元】5/18 3限 平上先生 アンガーマネジメント</p> <p>【到達目標】 怒りの根源について理解し、他者に説明することができる。 怒りの対処方法について、他者に説明することができる。</p>					<p>【授業単元】6/15 3限 平上先生 これまで学んだことを発表する準備を行う</p> <p>【到達目標】 グループで協力して準備をすることができる</p>			
4	<p>【授業単元】5/18 4限 金松先生 スポーツを通して達成感充実感を得る</p> <p>【到達目標】 実技：バラスポーツ(ポッチャ)などを実践し、競技規則を理解し発表出来る。</p>				15	<p>【授業単元】6/15 4限 金松先生 これまで学んだことを発表する</p> <p>【到達目標】 グループで協力して発表し、経験を学びにすることができる</p>			
	<p>【授業単元】5/25 3限 金松先生 平上先生 これまで学んだことを振り返り、中テストを行う</p> <p>【到達目標】 心の部分7点を取得することができる。 身体の部分8点を取得することができる。</p>					<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験は実技試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小点数以下切り上げ)を小テストの合計点とする。 			
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・参加意識を持つ									

授 業 概 要

科目名	カウンセリングの基礎	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	久保田 康文		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	講義・演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間

【授業を通じての到達目標】
 ●カウンセリングの見立てと方針について理解できる。
 ●様々な事例を通して、査定、見立て、方針を立てより良い支援をすることができる。

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)
 精神科医療現場や教育現場(スクールカウンセラー・教育相談)の中で、認知行動療法をベースにした関わりをしてきた教員が、公認心理師を目指すために、具体的な取り組みを紹介しながら、カウンセリングの理解や支援方法を習得する授業を行う。さらに、ロールプレーを通して、今、どのような支援が必要か、自らの考えを理解を深め、心理師として多角的な視点と専門的な知識を併せ持つスペシャリストを目指して欲しい。講義は、パワーポイントを用いて、事例を設定しロールプレーを行う授業を行う。

【使用教科書・教材・参考図書】
 使用図書: カウンセリングの見立てと方針 創元社

【授業時間外における学習】
 授業を通して「理解」「考え」「体験」し、そしてそれらをより深めるための自主的な学習をして体験が、現場で役立つものとなるでしょう。自らの学びの中で疑問点などを積極的に質問してより学びを深めてください。

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 オリエンテーション、この授業の目的について理解する。 カウンセリングとは何か?</p> <p>【到達目標】 この授業の目的と進め方について説明することができる。 公認心理師が行うカウンセリングについて説明できる。</p>	9	<p>【授業単元】 事例8 見立てをまとめる</p> <p>【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを説明することができる。 クライアントとの対話の中で、状態像、自分像、心の動きを観察し、見立てをまとめることができる。</p>
2	<p>【授業単元】 事例1 事例とタイトルとあらすじ</p> <p>【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを理解できる。 事例にタイトルをつけることで、その事例の特徴を表現することができる。</p>	10	<p>【授業単元】 事例9 目標を定める</p> <p>【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを説明することができる。 クライアントとの対話の中で、クライアントの今後の目標を定めることができる。</p>
3	<p>【授業単元】 事例2 情報を集める</p> <p>【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを説明することができる。 クライアントとの対話の中でどのような情報が足りないのかを把握し、カウンセリングを通して必要な情報を集めることができる。</p>	11	<p>【授業単元】 事例10 方法を選択する</p> <p>【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを説明することができる。 クライアントとの対話の中で、目標に向けた方法を選択することができる。</p>
4	<p>【授業単元】 事例3 曖昧な情報を明確化する</p> <p>【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを説明することができる。 クライアントとの対話の中で曖昧な表現を明確にすることができる。</p>	12	<p>【授業単元】 事例11 構造を整える。</p> <p>【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを理解できる。 クライアントとの対話の中で、目標に向けて構造を整えることができる。</p>
5	<p>【授業単元】 事例4 得られた情報を整理する</p> <p>【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを説明することができる。 クライアントとの対話の中で、得られた情報を整理することができる。</p>	13	<p>【授業単元】 事例12 途中経過において評価する</p> <p>【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを説明することができる。 クライアントとの対話の中で、途中経過を評価することができる。</p>
6	<p>【授業単元】 事例5 状態像を査定する</p> <p>【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを説明することができる。 クライアントとの対話の中で、クライアントの状態像を想像することができる。</p>	14	<p>【授業単元】 事例13 最終的に評価する。</p> <p>【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを説明することができる。 クライアントとの対話の中で、最終時に評価することができる。</p>
7	<p>【授業単元】 事例6 人物像を査定する</p> <p>【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを説明することができる。 クライアントとの対話の中で、クライアントがどういった人物かを想像することができる。</p>	15	<p>【授業単元】 定期試験</p> <p>【到達目標】 これまで習った内容を説明できる。 これまで習ったことをどのように活かすことができるか自分の考えを説明できる。</p>
8	<p>【授業単元】 中テスト(15満点)、事例7 心の動きを理解する</p> <p>【到達目標】 中テスト(これまでの振り返り) 事例を通して、どのような対応がより良いかを説明することができる。 クライアントとの対話の中で、クライアントやカウンセラーの心の動きを観察し理解することができる。</p>	<p>【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。</p>	

【履修に当たっての心構え・留意点】
 自分なりに知識を深め、積極的に質問をしてください。ロールプレーをたくさんしていきます。欠席や遅刻がないようにしてください。

授 業 概 要

科目名	医学概論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	萩原 直美		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
ソーシャルワーク専門職として、病者や家族を含めた支援者および地域住民のニーズを把握し、多職種・他機関との連携を図りながら問題解決に取り組んでいくために必要とする基礎的な医学知識を身につける。									
【学習内容】									
担当教員の看護師としての一般病棟・救急および手術室・療養型病床における様々な状態像を対象とした臨床経験と介護支援専門員としてのケアチームにおけるケアマネジメントおよび地域ネットワークの構築等における実務経験の視点を取り入れ、医療職種との連携をイメージできるような授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 1 医学概論					授業予定の教科書部分に事前に目を通して予習をしておくこと。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 《ガイドンス》 【第1章 ライフステージにおける心身の変化と健康課題（第1節）】				9	【授業単元】 【第6章 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション】（第1～3節）			
	【到達目標】 ・それぞれのライフステージにおける心身の特徴を説明できる。 ・乳幼児期における成長と発達の特徴について説明できる。					【到達目標】 ・それぞれの疾病の原因、症状、治療について説明できる。 ・それぞれの疾病について日常生活上の留意点等を説明できる。			
2	【授業単元】 【第1章 ライフステージにおける心身の変化と健康課題（第2～3節）】				10	【授業単元】 【第6章 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション】（第4～8節）			
	【到達目標】 ・老化による心身の変化について述べられる。 ・それぞれのライフステージにおける健康課題について説明できる。					【到達目標】 ・それぞれの疾病の原因、症状、治療について説明できる。 ・それぞれの疾病について日常生活上の留意点等を説明できる。			
3	【授業単元】 【第2章 健康および疾病の捉え方（第1～2節）】				11	【授業単元】 【第6章 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション】（第9～12節）			
	【到達目標】 ・健康の定義や健康寿命の概念について述べられる。 ・ICFの概念とICIDHとの違いについて説明できる。					【到達目標】 ・それぞれの疾病の原因、症状、治療について説明できる。 ・それぞれの疾病について日常生活上の留意点等を説明できる。 ・障害の分類や特徴、支援を行う際の留意点等を説明できる。			
4	【授業単元】 【第3章 身体構造と心身機能（第1～2節1～4）】				12	【授業単元】 【第6章 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション】（第13～16節）			
	【到達目標】 ・人体各部位の名称を正確に述べることができる。 ・骨格系、筋系、循環器系、消化器系の構造とそれぞれの機能の特徴について説明することができる。					【到達目標】 ・それぞれの疾病の原因、症状、治療について説明できる。 ・それぞれの疾病について日常生活上の留意点等を説明できる。 ・障害の分類や特徴、支援を行う際の留意点等を説明できる。			
5	【授業単元】 【第3章 身体構造と心身機能（第1～2節5～8）】				13	【授業単元】 【第6章 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション】（第17～19節）			
	【到達目標】 ・呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系の構造とそれぞれの機能の特徴について説明することができる。					【到達目標】 ・それぞれの疾病の原因、症状、治療について説明できる。 ・それぞれの疾病について日常生活上の留意点等を説明できる。 ・障害の分類や特徴、支援を行う際の留意点等を説明できる。			
6	【授業単元】 【第3章 身体構造と心身機能（第1～2節9～12）】				14	【授業単元】 【第7章 公衆衛生（第1～2節）】			
	【到達目標】 ・神経系、感覚器系、皮膚、血液の構造とそれぞれの機能の特徴について説明することができる。					【到達目標】 ・予防医学の概念について説明できる。 ・各保健対策や疾病対策の特徴について説明できる。			
7	【授業単元】 【第4章 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程（第1節）】				15	【授業単元】 科目まとめ、振り返り 《定期試験》 《定期試験解答解説》			
	【到達目標】 ・疾病の発生原因について述べられる。 ・病変の成立機序について述べられる。					【到達目標】 ・科目の重要なポイントが確認できる。 ・自己学習に必要な課題を把握することができる。			
8	【授業単元】 【第5章 リハビリテーションの概要と範囲（第1～4節）】 《中間テスト》				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 ・リハビリテーションの定義や目的を説明できる。 ・リハビリテーションの対象とかかわる専門職について述べられる。				科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 試験は、筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト（8回目の授業で実施）は15点満点とする。その合計（80点満点）の1/2の点数（小数点以下切り上げ）を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
医療職種は、互いの専門性を尊重し協働していくチームの一員であると捉える。									

授 業 概 要

科目名	障害者福祉	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	渡邊知行		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1障害者福祉の理念について歴史的背景や考え方などを踏まえて総合的に理解する。 2障害者福祉に関する法制度の概要や障害福祉サービスについて具体的な内容を知る。 3社会福祉士または精神保健福祉士として障害福祉の現場で果たす役割や支援のあり方について理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
障害者グループホームの支援者として実務経験を積みながら、大学院で障害者福祉分野の研究に取り組んできた講師が、現場の事例や学術的な背景を含めた授業を実施する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座8 障害者福祉』中央法規					授業中に触れた内容の周辺事項に興味をもった事があった時、インターネット等を利用して自己学習することを期待します。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション				9	【授業単元】 障害者福祉に関する法律の全体像			
	【到達目標】 ・障害について考えて、自分なりの障害観を持つ					【到達目標】 ・障害者福祉の関連法について全体像を学ぶ。 ・障害者福祉の関連法(身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法、児童福祉法、発達障害者支援法)の概要を理解する。			
2	【授業単元】 障害者の定義と特性				10	【授業単元】 障害者福祉に関する法律①			
	【到達目標】 ・様々な障害の法的な定義を理解する。 ・様々な障害の特性を理解する。					【到達目標】 ・障害者総合支援法の体系について学ぶ。 ・障害者総合支援法に基づく障害福祉サービスの概要を理解する。			
3	【授業単元】 障害に対する考え方				11	【授業単元】 障害者福祉に関する法律②			
	【到達目標】 ・ICFとICIDHの違いを学ぶ。 ・医学モデルと社会モデルの違いを理解する。					【到達目標】 ・障害者総合支援法に基づく障害福祉サービスの具体的な内容(訓練等給付、介護給付など)を理解する。			
4	【授業単元】 障害者福祉の理念				12	【授業単元】 障害者福祉に関する法律③			
	【到達目標】 ・ノーマライゼーションについて理解する。 ・障害福祉に関する重要な概念を理解する。					【到達目標】 ・バリアフリー法の概要を理解する。 ・障害者雇用促進法の概要を理解する。 ・障害者優先調達推進法の概要を理解する。			
5	【授業単元】 日本の障害者福祉				13	【授業単元】 障害者福祉に関する法律④			
	【到達目標】 ・障害者基本法について背景と経緯を含めて理解する。 ・障害者福祉制度の発展過程について、背景も含めて理解する。					【到達目標】 ・障害者差別解消法の概要を理解する。 ・障害者虐待防止法の概要を理解する。			
6	【授業単元】 障害者福祉の行政と福祉計画				14	【授業単元】 障害者に対する支援の方法			
	【到達目標】 ・障害者福祉の社会基盤を整備するための行政について理解する。 ・障害福祉に関する福祉計画について学ぶ。					【到達目標】 ・障害者福祉に関係する支援者の役割を理解する。 ・利用者に関する計画について学ぶ。			
7	【授業単元】 障害者の生活実態				15	【授業単元】 定期試験・授業全体の振り返りおよび試験解答解説			
	【到達目標】 ・障害者の生活実態について統計データ等を基に把握する。 ・障害者世帯のニーズと支援のあり方について理解する。					【到達目標】 ・今期授業で学んだ内容を理解する。 ・障害福祉に関する歴史と現状、理念や制度などを踏まえて、現在提供されている障害福祉サービス等の具体的な内容を把握する。			
8	【授業単元】 中間試験・前半授業の振り返りおよび試験解答解説				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・前半授業で学んだ内容を理解する。 ・障害福祉に関する歴史と現状、理念や制度などの概要を把握する。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
講義は、概要や概念、理論などを理解する場です。せっかく理解しても、しっかり復習しなければ知識として定着しません。特にテストで間違えたところは、必ず復習をしてください。									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	角田 友二		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。 ・ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。 ・ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
精神科病院におけるソーシャルワーク全般とデイケアの専任としての経験から、スタッフに対して従順で勤勉なユーザーをつくりだすのではなく、ユーザー主体の支援者になるように授業を展開していきます									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
中央法規出版 最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 第11巻「ソーシャルワークの基盤と専門職」初版、ワークブック・過去問他					<ul style="list-style-type: none"> ・授業回のテキストは読んでくること。 ・精神保健に係る報道等については積極的に情報収集をすること。 				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1.2	<p>【授業単元】 オリエンテーション 映像資料NHK ETV特集「ルポ 死亡退院～精神医療・闇の実態」(滝山病院)を視聴する。</p> <p>【到達目標】 精神科医療の負の遺産を知ることにより、これからの学びの動機づけを図る。</p>				17. 18	<p>【授業単元】 第6章 ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲 第1節 ソーシャルワーク専門職の概念と範囲 第2節 社会福祉士の職域と役割</p> <p>【到達目標】 ソーシャルワーカーが専門職である条件を学び、社会生活支援、地域支援における専門性、職能団体の役割などを学び、社会福祉士の働く職域の拡大についても学ぶ。</p>			
3.4	<p>【授業単元】 第1章 ソーシャルワーク専門職である社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ 第1節 ソーシャルワーク専門職である社会福祉士・精神保健福祉士 第2節 社会福祉士及び 介護福祉士法 第3節 精神保健福祉士法</p> <p>【到達目標】 社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけとその身分法の制定の経緯や見直しの課程について理解する。</p>				19. 20	<p>【授業単元】 第6章 第3節 多様な組織・機関・団体における専門職 第4節 諸外国の動向</p> <p>【到達目標】 社会福祉行政、民間においてソーシャルワーク実践を担う多様な職種や職場についての理解をする。 また、諸外国のソーシャルワーカーの養成制度やその実践についての理解をする。</p>			
5.6	<p>【授業単元】 第1章 第4節 社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性 第5節 社会福祉士・精神保健 福祉士に求められるコンピテンシー</p> <p>【到達目標】 模範事例をもとに社会福祉士・精神保健福祉士のソーシャルワーク実践のイメージを持ち、どのような知識、技術、価値を習得する必要があるか理解する。 ソーシャルワークが必要とされる社会的な池について理解する</p>				21. 22	<p>【授業単元】 第7章 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク 第1節 ミクロ・メゾ・マクロレベルに おけるソーシャルワークの対象 第2節 ミクロ・メゾ・マクロ領域におけるソーシャルワークの展 開</p> <p>【到達目標】 ソーシャルワークにおけるミクロ・メゾ・マクロの意味と対照と相互の関係性を理解し、さらにソー シャルワーク実践における考え方を理解する。</p>			
7.8	<p>【授業単元】 第2章 ソーシャルワークの概念 第1節 ソーシャルワークの定義 第2節 ソーシャルワークの</p> <p>【到達目標】 ソーシャルワークの代表的な定義である「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」を学び、そ の任務、諸原理、基盤となる知と実践についての内容についての理解を深めていく。</p>				23. 24	<p>【授業単元】 第8章 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 第1節 総合的かつ包括的な支 援におけるジェネラリストの視点 第2節 ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援 の意義と内容</p> <p>【到達目標】 総合的かつ包括的な支援としてのソーシャルワークを理解し、多機関・多職種による包括的支援 体制の構築と多職種連携の意義と内容を理解して、ソーシャルワーク実践におけるチームア プローチの展開をできる人材を目指す。</p>			
9. 10	<p>【授業単元】 第3章 ソーシャルワークの基盤となる考え方 第1節 ソーシャルワークの原理 第2節 ソー シャルワークの理念</p> <p>【到達目標】 ソーシャルワークの諸原理の意味を理解して、ソーシャルワーク実践において社会正義や人権 尊重、当事者主体他の原理や理念はどのように活かされていくかを学ぶ。</p>				25. 26	<p>【授業単元】 映像資料・映画「カッコーの巣の上で」を視聴し、精神科医療の在り方を考える</p> <p>【到達目標】 精神科医療の在り方はどうあるべきなのか、スタッフとユーザーである患者さんの関係はどうあ るべきのかなどを考えてシェアリングする。</p>			
11. 12	<p>【授業単元】 第4章 ソーシャルワークの形成過程 第1節 ソーシャルワークの源流と基礎確立期 第2節 ソーシャルワークの発展期</p> <p>【到達目標】 ソーシャルワークが形成された背景についての理解をして、現在のソーシャルワーク実践につな がる流れを理解する。</p>				27. 28	<p>【授業単元】 総復習 テキスト・過去問</p> <p>【到達目標】 過去問の傾向を理解しながら、学んできた内容の整理をする。</p>			
13. 14	<p>【授業単元】 第4章 第3節 ソーシャルワークの展開期と統合化 第4節 日本におけるソーシャルワークの 形成過程</p> <p>【到達目標】 ソーシャルワークが必要とされているすそ野の広がりを理解して、ソーシャルワークの生活モデ ルやジェネラリストソーシャルワークへの発展の流れを理解する。そして、日本におけるソーシ ャルワークの前史、萌芽から現代につながるまでの変遷を理解する。</p>				29. 30	<p>【授業単元】 総復習 定期試験</p> <p>【到達目標】 学んできたことを、国家試験に準拠した定期試験問題で試してみる。</p>			
15. 16	<p>【授業単元】 第5章 ソーシャルワークの倫理 第1節 専門職倫理の概念 第2節 倫理綱領 第3節 倫 理的ジレンマ</p> <p>【到達目標】 ソーシャルワーカーにとっての専門職倫理とは何なのか、その必要性を理解する。また、倫理綱 領の内容について理解して、実践で活用できるようにする。そして、ソーシャルワーカーが経験す る倫理的ジレンマについて理解して、業務の中でどのように倫理的ジレンマを判断していくかを 学ぶ。</p>				<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、 AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15 点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整 数でない場合は、小数点以下は切上げとする。</p>				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
講師や学生同士のエピソードには守秘義務があることを理解する。 テキスト上、「社会福祉士」との記述は必要に応じて「精神保健福祉士」と読み 替える。									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワークの理論と方法	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	山田 伸		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1. 人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。 2. ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。 3. ソーシャルワークの過程とそれに関与する知識と技術について理解する。 4. コミュニティワークの概念とその展開について理解する。 5. ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
ソーシャルワーカー(精神保健福祉士・社会福祉士)として、5年以上精神科病院で相談援助(ソーシャルワーク)に従事している教員が、ソーシャルワーク実践の基盤となる基礎的な知識を習得する授業を行う。授業展開としては、講義を中心に、個人ワーク、グループワークも行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法(共通科目) (日本ソーシャルワーク教育学校連盟編) 中央法規出版					他の科目で学習した知識と相互に関連付けて理解を深めるために、事前学習・事後学習を行う。また、ソーシャルワークは人々の生活課題や社会の問題等の解決に働きかけることから、普段の日常生活の中から、これら課題や問題意識を持つことが求められる。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 第1章 人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク 第1節 ソーシャルワーカーが学ぶ理論 【到達目標】 ・本科目の位置づけ、本講義の進め方を理解し、主体的な学びへの意識を醸成する。 ・ソーシャルワーカーが学ぶ理論のタイプを理解する ・ソーシャルワークの共通基盤とは何かを理解する ・ソーシャルワーク固有の視点とは何かを考える				9	【授業単元】 第3章 ソーシャルワークの課程 アセスメント① 第1節 アセスメントの意義と目的 第2節 アセスメントの方法 【到達目標】 ・ソーシャルワークにおけるアセスメントの重要性について学ぶ ・「生活者」や「生活」への接近の方法としてのアセスメントについて学ぶ ・個人と社会環境への視点に基づくアセスメントについて学ぶ ・アセスメントを支える理論について学ぶ・アセスメントの方法や構成要素について学ぶ			
	【授業単元】 第1章 人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク 第2節 システム理論 【到達目標】 ・システム理論の基本的な考え方を理解する ・ソーシャルワークにおけるシステム理論の有用性を理解する ・システム理論を援用したソーシャルワーク実践の全体像を理解する					【授業単元】 第3章 ソーシャルワークの課程 アセスメント② 第2節 アセスメントの方法 第3節 アセスメントの留意点 【到達目標】 ・アセスメントに有効なマッピングの技法について学ぶ ・ソーシャルワークの固有性や専門性を表すアセスメントについて学ぶ ・アセスメントにおける関係者や当事者との協働の重要性について学ぶ ・継続的で多角的な視点から個人と社会に迫るアセスメントについて学ぶ			
2	【授業単元】 第1章 人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク 第3節 生態学理論 【到達目標】 ・生態学の基本的な考え方を理解する ・エコシステムの視座とは何かを理解する ・ライフモデル(ジャーメインとギッターマン)の考え方を理解する				10	【授業単元】 第4章 ソーシャルワークの課程 プランニング① 第1節 プランニングの意義と目的 第2節 プランニングのプロセスと方法 【到達目標】 ・プランニングとは何かについて理解する ・ソーシャルワークではプランニングがどのように行われるか理解する ・ソーシャルワークにおけるプランニングの意義を理解する ・目的・目標の設定について理解する			
	【授業単元】 第1章 人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク 第4節 バイオ・サイコ・ソーシャルモデル 【到達目標】 ・バイオ・サイコ・ソーシャルモデルの基本的な内容を理解する ・ソーシャルワーク実践とバイオ・サイコ・ソーシャルモデルの関係を理解する					【授業単元】 第4章 ソーシャルワークの課程 プランニング② 第2節 プランニングのプロセスと方法 第3節 プランニングにおける留意点 【到達目標】 ・計画内容の設定について理解する ・倫理的な実践のために留意すべきことを理解する ・包括的な支援のために連携や協働の重要性を理解する			
3	【授業単元】 第1章 人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク 第5節 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク 【到達目標】 ・人の生活に生じる課題は、「人と環境の交互作用」から生じることを理解する ・生活課題をミクロ・メゾ・マクロのそれぞれのレベルから捉える視点を養う				11	【授業単元】 第5章 ソーシャルワークの課程 支援の実施とモニタリング 第1節 支援の実施 第2節 モニタリング 第3節 効果測定 【到達目標】 ・支援の実施における目的と方法、留意点について学ぶ ・モニタリングの目的と内容、方法と手続き、留意点について理解する ・モニタリングから再アセスメントまでの流れを理解する ・効果測定の目的と意義、基本的な方法であるシングル・システム・デザインについて理解する			
	【授業単元】 第2章 ソーシャルワークの課程 ケースの発見とエンゲージメント(インテーク) 第1節 ケースの発見 第2節 エンゲージメント(インテーク) 【到達目標】 ・ケース発見のさまざまな形について学ぶ ・インボランタリークライアント、援助希求力の弱い人々への支援について学ぶ ・エンゲージメントの意味と役割を学ぶ・クライアントとの関係構築の留意点を学ぶ ・メゾ・マクロ実践にけるエンゲージメントの留意点を学ぶ					【授業単元】 第6章 ソーシャルワークの課程 支援の終結と結果評価、アフターケア 第1節 支援の終結 第2節 支援の結果評価 第3節 アフターケア 【到達目標】 ・支援の終結が「過程」であることを理解する ・ソーシャルワーカー・クライアント双方で行うことの意味について理解する ・支援の終結後の生活課題の再燃の可能性と、新たな課題の発生を予測する視点の重要性を理解する ・結果評価の意義、視点、方法を理解する			
4	【授業単元】 第2章 ソーシャルワークの課程 ケースの発見とエンゲージメント(インテーク) 第1節 ケースの発見 第2節 エンゲージメント(インテーク) 【到達目標】 ・ケース発見のさまざまな形について学ぶ ・インボランタリークライアント、援助希求力の弱い人々への支援について学ぶ ・エンゲージメントの意味と役割を学ぶ・クライアントとの関係構築の留意点を学ぶ ・メゾ・マクロ実践にけるエンゲージメントの留意点を学ぶ				12	【授業単元】 定期試験 解説及び前期学習内容の振り返り(まとめ) 【到達目標】 ・前期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、前期学習目標の達成度を振り返り、後期学習に向けた目標設定ができる。			
	【授業単元】 中テスト 解説および学習内容の振り返り 【到達目標】 ・前期1～7回の学習内容から出題 ・中テスト解説、学習内容の振り返りから理解度を確認する ・国家試験対策(演習問題)					【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。			
5	【授業単元】 第2章 ソーシャルワークの課程 ケースの発見とエンゲージメント(インテーク) 第1節 ケースの発見 第2節 エンゲージメント(インテーク) 【到達目標】 ・ケース発見のさまざまな形について学ぶ ・インボランタリークライアント、援助希求力の弱い人々への支援について学ぶ ・エンゲージメントの意味と役割を学ぶ・クライアントとの関係構築の留意点を学ぶ ・メゾ・マクロ実践にけるエンゲージメントの留意点を学ぶ				13	【授業単元】 第6章 ソーシャルワークの課程 支援の終結と結果評価、アフターケア 第1節 支援の終結 第2節 支援の結果評価 第3節 アフターケア 【到達目標】 ・支援の終結が「過程」であることを理解する ・ソーシャルワーカー・クライアント双方で行うことの意味について理解する ・支援の終結後の生活課題の再燃の可能性と、新たな課題の発生を予測する視点の重要性を理解する ・結果評価の意義、視点、方法を理解する			
	【授業単元】 第2章 ソーシャルワークの課程 ケースの発見とエンゲージメント(インテーク) 第1節 ケースの発見 第2節 エンゲージメント(インテーク) 【到達目標】 ・ケース発見のさまざまな形について学ぶ ・インボランタリークライアント、援助希求力の弱い人々への支援について学ぶ ・エンゲージメントの意味と役割を学ぶ・クライアントとの関係構築の留意点を学ぶ ・メゾ・マクロ実践にけるエンゲージメントの留意点を学ぶ					【授業単元】 定期試験 解説及び前期学習内容の振り返り(まとめ) 【到達目標】 ・前期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、前期学習目標の達成度を振り返り、後期学習に向けた目標設定ができる。			
6	【授業単元】 第2章 ソーシャルワークの課程 ケースの発見とエンゲージメント(インテーク) 第1節 ケースの発見 第2節 エンゲージメント(インテーク) 【到達目標】 ・ケース発見のさまざまな形について学ぶ ・インボランタリークライアント、援助希求力の弱い人々への支援について学ぶ ・エンゲージメントの意味と役割を学ぶ・クライアントとの関係構築の留意点を学ぶ ・メゾ・マクロ実践にけるエンゲージメントの留意点を学ぶ				14	【授業単元】 第6章 ソーシャルワークの課程 支援の終結と結果評価、アフターケア 第1節 支援の終結 第2節 支援の結果評価 第3節 アフターケア 【到達目標】 ・支援の終結が「過程」であることを理解する ・ソーシャルワーカー・クライアント双方で行うことの意味について理解する ・支援の終結後の生活課題の再燃の可能性と、新たな課題の発生を予測する視点の重要性を理解する ・結果評価の意義、視点、方法を理解する			
	【授業単元】 第2章 ソーシャルワークの課程 ケースの発見とエンゲージメント(インテーク) 第1節 ケースの発見 第2節 エンゲージメント(インテーク) 【到達目標】 ・ケース発見のさまざまな形について学ぶ ・インボランタリークライアント、援助希求力の弱い人々への支援について学ぶ ・エンゲージメントの意味と役割を学ぶ・クライアントとの関係構築の留意点を学ぶ ・メゾ・マクロ実践にけるエンゲージメントの留意点を学ぶ					【授業単元】 定期試験 解説及び前期学習内容の振り返り(まとめ) 【到達目標】 ・前期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、前期学習目標の達成度を振り返り、後期学習に向けた目標設定ができる。			
7	【授業単元】 第2章 ソーシャルワークの課程 ケースの発見とエンゲージメント(インテーク) 第1節 ケースの発見 第2節 エンゲージメント(インテーク) 【到達目標】 ・ケース発見のさまざまな形について学ぶ ・インボランタリークライアント、援助希求力の弱い人々への支援について学ぶ ・エンゲージメントの意味と役割を学ぶ・クライアントとの関係構築の留意点を学ぶ ・メゾ・マクロ実践にけるエンゲージメントの留意点を学ぶ				15	【授業単元】 定期試験 解説及び前期学習内容の振り返り(まとめ) 【到達目標】 ・前期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、前期学習目標の達成度を振り返り、後期学習に向けた目標設定ができる。			
	【授業単元】 第2章 ソーシャルワークの課程 ケースの発見とエンゲージメント(インテーク) 第1節 ケースの発見 第2節 エンゲージメント(インテーク) 【到達目標】 ・ケース発見のさまざまな形について学ぶ ・インボランタリークライアント、援助希求力の弱い人々への支援について学ぶ ・エンゲージメントの意味と役割を学ぶ・クライアントとの関係構築の留意点を学ぶ ・メゾ・マクロ実践にけるエンゲージメントの留意点を学ぶ					【授業単元】 定期試験 解説及び前期学習内容の振り返り(まとめ) 【到達目標】 ・前期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、前期学習目標の達成度を振り返り、後期学習に向けた目標設定ができる。			
8	【授業単元】 中テスト 解説および学習内容の振り返り 【到達目標】 ・前期1～7回の学習内容から出題 ・中テスト解説、学習内容の振り返りから理解度を確認する ・国家試験対策(演習問題)				15	【授業単元】 定期試験 解説及び前期学習内容の振り返り(まとめ) 【到達目標】 ・前期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、前期学習目標の達成度を振り返り、後期学習に向けた目標設定ができる。			
	【授業単元】 中テスト 解説および学習内容の振り返り 【到達目標】 ・前期1～7回の学習内容から出題 ・中テスト解説、学習内容の振り返りから理解度を確認する ・国家試験対策(演習問題)					【授業単元】 定期試験 解説及び前期学習内容の振り返り(まとめ) 【到達目標】 ・前期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、前期学習目標の達成度を振り返り、後期学習に向けた目標設定ができる。			
【履修に当たっての心構え・留意点】									
ソーシャルワーカーとして実践に携わるには、さまざまな知識を学ぶ必要があります。まずは、ソーシャルワーカーとして考え、語り、行動する際のよりどころとなる理論的知識を学ぶことから始めます。他の科目で学習した知識と相互に関連付けて理解を深めていきましょう。									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワークの理論と方法	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	山田 伸		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1. 人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。 2. ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。 3. ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。 4. コミュニティワークの概念とその展開について理解する。 5. ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
ソーシャルワーカー(精神保健福祉士・社会福祉士)として、5年以上精神科病院で相談援助(ソーシャルワーク)に従事している教員が、ソーシャルワーク実践の基礎となる基礎的な知識を習得する授業を行う。授業展開としては、講義を中心に、個人ワーク、グループワークも行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目] (日本ソーシャルワーク教育学校連盟編) 中央法規出版					他の科目で学習した知識と相互に関連付けて理解を深めるために、事前学習・事後学習を行う。また、ソーシャルワークは人々の生活課題や社会の問題等の解決に働きかけることから、普段の日常生活の中から、これら課題や問題意識を持つことが求められる。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 第7章 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ ① 第1節 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方 第2節 ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ 【到達目標】 ・視点、視座、モデル、アプローチ等の意味合いを理解する ・ジェネラリストが実践モデル、アプローチを学ぶべき理由を理解する ・実践モデル、アプローチの特徴、歴史的な概要、流れについて理解する 生活モデル、治療モデル、ストレングスモデル				9	【授業単元】 第10章 ケアマネジメント(ケースマネジメント) 第1節 ケアマネジメント(ケースマネジメント)の原則 第2節 ケアマネジメント(ケースマネジメント)の意義と方法 【到達目標】 ・ケアマネジメント(ケースマネジメント)の歴史、基本的な原則を学ぶ ・ケアマネジメント(ケースマネジメント)の意義を理解する ・ケアマネジメント(ケースマネジメント)のモデルとプロセスを理解する			
	【授業単元】 第7章 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ ② 第1節 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方 第2節 ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ 【到達目標】 ・ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチを理解する 心理社会的アプローチ 機能的アプローチ 問題解決アプローチ					【授業単元】 第11章 グループを活用した支援 第1節 グループワークの意義と目的 第2節 グループワークの展開過程 第3節 グループワークとセルフヘルプグループ 【到達目標】 ・グループワークが何を目的に実践されるのかを学ぶ ・グループ・プロセスを理解して、実践のポイントを把握する ・グループの発達段階に応じた介入を理解する ・グループワークとセルフヘルプグループの区別を理解する			
2	【授業単元】 第7章 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ ③ 第1節 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方 第2節 ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ 【到達目標】 ・ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチを理解する 課題中心アプローチ 行動変容アプローチ 認知アプローチ				11	【授業単元】 第12章 コミュニティワーク 第1節 コミュニティワークの意義と目的 第2節 コミュニティワークの展開 第3節 コミュニティワークの理論的系譜とモデル 【到達目標】 ・地域の課題に対するコミュニティワークの目的について理解する ・コミュニティワークの展開過程、各技法の特徴やねらい、計画や評価の視点、手法を理解する ・住民が主体となる地域福祉活動の意義を学ぶ ・コミュニティワークの歴史を学ぶ			
	【授業単元】 第7章 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ ④ 第1節 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方 第2節 ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ 【到達目標】 ・ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチを理解する 危機介入アプローチ エンパワメントアプローチ ナラティブアプローチ					【授業単元】 第13章 ソーシャルアドミニストレーション 第1節 ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義 第2節 組織介入・組織改善の実践モデル 第3節 組織運営における財源の確保 【到達目標】 ・ソーシャルアドミニストレーションの概念と定義を理解する ・組織介入・組織改善の実践モデルを理解する ・組織運営における財源の種類を理解する			
3	【授業単元】 第7章 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ ⑤ 第1節 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方 第2節 ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ 【到達目標】 ・ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチを理解する 解決志向アプローチ さまざまなアプローチ(アドラー心理学、ロゴセラピー 交流分析、神経言語プログラミング)				13	【授業単元】 第14章 ソーシャルアクション 第1節 ソーシャルアクションの概念とその意義 第2節 コミュニティ・オーガナイズィング 【到達目標】 ・事例を通じて、ソーシャルアクションの基本を理解する ・ソーシャルアクションの意義を理解する ・コミュニティ・オーガナイズィングの実例を学ぶ ・ソーシャルワークにおけるコミュニティ・オーガナイズィングの系譜を理解する			
	【授業単元】 第8章 ソーシャルワークの面接 第1節 面接の意義と目的 第2節 面接の方法と実際 【到達目標】 ・日常会話と面接の特徴の違いを理解する ・ソーシャルワークにおける面接の意義、目的を理解する ・ソーシャルワーク面接の形態や手段、場所の多様性、基本的留意点を理解する ・具体的な面接技法を理解する					【授業単元】 第15章 スーパービジョンとコンサルテーション 第1節 スーパービジョンの意義、目的、方法 第2節 コンサルテーションの意義、目的、方法 【到達目標】 ・スーパービジョンの意義、目的、機能について理解する ・スーパービジョンの方法について理解する ・コンサルテーションの意義と目的、方法について理解する ・コンサルテーションとスーパービジョンの違いを理解する			
4	【授業単元】 第9章 ソーシャルワークの記録 第1節 記録の意義と目的 第2節 記録の内容 第3節 記録のフォーマット 【到達目標】 ・専門職として記録を作成する意義と目的を理解する ・専門職の記録に求められる倫理的責任、求められる内容を理解する ・さまざまな記録のフォーマットを学ぶ ・根拠ある記録の書き方のポイントを学ぶ				15	【授業単元】 定期試験 解説及び後期学習内容の振り返り(まとめ) 【到達目標】 ・後期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、後期学習目標の達成度を振り返り、国家試験に向けて具体的な取り組みを考える			
	【授業単元】 中テスト 解説および学習内容の振り返り 【到達目標】 ・後期第1～7回の学習内容から出題 ・中テスト解説、学習内容の振り返りから理解度を確認する ・国家試験対策(漢字問題)					【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】									
ソーシャルワーカーとして実践に携わるには、さまざまな知識を学ぶ必要があります。まずは、ソーシャルワーカーとして考え、語り、行動する際のよりどころとなる理論的知識を学ぶことから始まります。他の科目で学習した知識と相互に関連付けて理解を深めていきましょう。									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク演習	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	原田聡史・山崎亮太		
学科	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
コース									
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーカーの価値と役割を知り、基礎となる倫理観を説明することができる ・ソーシャルワーカーの価値観のもと、クライアントが抱えている課題を客観的・分析的に捉える視点や、それに応じた面談技術の基本を習得することができる ・演習授業を通じて、将来同じ分野の仕事を目指す他者と連携、協働することができる 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
医療・障害・高齢分野にてソーシャルワークを実践してきた教員が、ソーシャルワーカーの基礎となるマインドや対人援助技術をペアワーク、グループワークを中心に実践的な授業を実施する									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
毎回Teams上でレジュメを配布 PC・タブレット等のTeamsを閲覧できるデバイス					他科目で学んだ内容を演習授業にて多角的に体现できるよう、ソーシャルワーカーに必要な基礎知識を復習すること				
授業計画					コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 【到達目標】 ・「演習」のねらいと進め方について理解する ・ペア・グループワークでのルールを知る ・他者の意見や考えに耳を傾けることができる	9	【授業単元】 面談の基本技法① 個人の価値観とSWの専門職としての価値観 【到達目標】 ・個人の価値観とSWの専門職の価値観の相違を説明することができる						
2	【授業単元】 ソーシャルワーカーの使命と役割 【到達目標】 ・ソーシャルワーカーとしての「価値観」を説明することができる ・ソーシャルワーカーが活躍する場所と役割を知ることができる	10	【授業単元】 面談の基本技法② 「言語」コミュニケーションと「非言語」コミュニケーションの活用 【到達目標】 ・言語・非言語コミュニケーションについて理解し、非言語の箇所の背景とその後の反応について考えることができる						
3	【授業単元】 ソーシャルワーカーの「倫理」 【到達目標】 ・ソーシャルワーカーの行為には「価値」や「倫理」が存在していることを知り、倫理綱領と行動規範を理解したうえで、事例問題に取り組むことができる	11	【授業単元】 面談の基本技法③ 信頼関係構築に向けた適切な質問技法 【到達目標】 ・クライアントに対する質問の種類を知り、技術を実践することができる						
4	【授業単元】 自己理解と自己覚知① 【到達目標】 ・現時点での自分の価値観を説明することができる	12	【授業単元】 面談の基本技法④ 「言い換え」と「要約」 【到達目標】 ・相手の発した言葉を別の言葉に言い換えることができる ・相手の発した言葉を要約し、不明確な場合には明確化することができる						
5	【授業単元】 自己理解と自己覚知② 【到達目標】 ・自らがもつ感情を客観的に捉え、相談援助の専門職の視点で考えることができる	13	【授業単元】 定期試験① 【到達目標】 グループで模擬インテーク面談を実践する(15分×4グループ)						
6	【授業単元】 感情の理解 【到達目標】 ・普段の生活の中で、自分自身を支配している負の感情を知り、自身が抱きやすい感情とその背景を言語化することができる	14	【授業単元】 定期試験② 【到達目標】 グループで模擬インテーク面談を実践する(15分×4グループ)						
7	【授業単元】 他社理解① 基本的なコミュニケーション技術「受容」「傾聴」「共感」の活用 【到達目標】 ・主観的情報と客観的情報を分けて考え、相手の良さや強みを発見することができる	15	【授業単元】 模擬インテーク面談の振り返り 【到達目標】 模擬インテーク面談を振り返り、面談時における良い点と改善点を考え、次年度以降の実習に活かすことができる						
8	【授業単元】 他社理解② 他者をより深く知る手法 【到達目標】 ・クライアントの置かれている状況、課題、ストレングスを考えることができる	【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テスト(模擬面談)を60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験はグループごとに模擬面談をおこない、採点する ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。							
【履修に当たっての心構え・留意点】									
他科目で学んだ内容も含み、科目横断的に授業を展開していきますので、復習をしましょう。									

授 業 概 要

科目名	精神保健福祉の原理	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	安部 直美	
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
下記7点を、本科目の到達目標とする。 ①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み(理念・視点・関係性)について理解する。②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容を踏まえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。④精神障害者への関わりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士としての存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。⑤現在の精神保健福祉士の基本的枠組み(理念・視点・関係性)と倫理綱領に基づく職責について理解する。⑥精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。⑦近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。								
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
精神保健福祉士として急性期の総合病院で医療ソーシャルワーカーの実務にあたってきた教員が、ソーシャルワーカーとして基盤となる価値観や理念について現場での体験やエピソードを交えながら具体的にわかりやすく伝える授業を行う								
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】			
最新 精神保健福祉士養成講座5 精神保健福祉の原理 中央法規					授業中に行った問題(実際の国家試験で出題された問題や過去の模擬試験から引用)や資料を用いて復習を行う。			
コマ	授業計画				コマ	授業計画		
1	【授業単元】 講義オリエンテーション 【到達目標】 『精神保健福祉の原理』の授業の目的について説明できる。 精神保健福祉士がどのような仕事をするのかイメージすることができる。				9	【授業単元】 精神障害者の排除と障壁をめぐる歴史と構造① 【到達目標】 諸外国における精神障害者排除の歴史的事実について説明することができる。		
2	【授業単元】 障害者福祉の理念と歴史的展開① 【到達目標】 「障害」とは何かを考え、「障害者福祉の理念がどのように変遷してきたのかを説明することができる。				10	【授業単元】 精神障害者の排除と障壁をめぐる歴史と構造② 【到達目標】 精神障害者の人権保障に関する国際的な取り組みについて説明することができる。		
3	【授業単元】 障害者福祉の理念と歴史的展開② 【到達目標】 日本において、精神障害者福祉がどのように展開されてきたのか概要を説明することができる。				11	【授業単元】 精神障害者の排除と障壁をめぐる歴史と構造③ 【到達目標】 明治以降の日本において、精神障害者に係る施策の動向に影響を与えた各種事件の概要を理解し説明することができる。		
4	【授業単元】 精神障害と精神障害者の概念① 【到達目標】 各制度における「精神障害者」の定義を説明し、「精神障害者」の定義の変遷について説明することができる。				12	【授業単元】 精神障害者の排除と障壁をめぐる歴史と構造④ 【到達目標】 近年の日本において、精神障害者に係る施策の動向に影響を与えた各種事件の概要を理解し説明することができる。		
5	【授業単元】 精神障害と精神障害者の概念② 【到達目標】 国際生活機能分類(ICF)とは何か、説明することができる。				13	【授業単元】 精神障害者の排除と障壁をめぐる歴史と構造⑤ 【到達目標】 精神障害者に係る「排除」や「社会的障壁」とは何なのかを考え、生み出す要因と構造を考察することができる。 精神障害者に係る「排除」や「社会的障壁」を除去するために何ができるのかを考察説明することができる。		
6	【授業単元】 精神障害と精神障害者の概念③ 【到達目標】 精神障害について構造的に理解し、精神障害の障害特性について、生活場面を想定しながら具体的に説明することができる。				14	【授業単元】 前期の総復習 【到達目標】 各単元の重要ポイントを再度確認することで、定期試験に向けての準備を開始することができる。		
7	【授業単元】 精神障害と精神障害者の概念④ 【到達目標】 精神障害に対する近年の世の中の動向について理解し、説明することができる。				15	【授業単元】 定期試験 定期試験解説 【到達目標】 前期に学習した内容を踏まえ定期テストへの準備、当日の受験、答え合わせを通して自身の中に定着させる。また、その振り返りを通して後期の学習への意欲を持つ。		
8	【授業単元】 1～7回までの授業の総復習 中テスト及び中テスト解説 【到達目標】 1～7回までの総復習を行い、授業内容を踏まえた中テストを実施することで、「精神保健福祉士」の主な対象となる人と社会の捉え方に関する知識の整理と定着をはかることができる。				【成績評価の方法と基準】 毎回の小テストは5点満点、中テストは15点満点とし、合計点数を2で割った点数と定期テストの60点を合計して100点満点のうちの何点かで評価する。 小テスト、中テストでは記号選択式、○×問題、記述問題などを授業の内容に応じて適宜出題する。グループワークなどで課題に取り組む場合はその完成度で評価する可能性もある。定期テストは5択の選択式問題と記述問題を組み合わせて出題する。記述問題については自由な論述を期待するが授業で学んだことを踏まえていることが大切で、その内容がソーシャルワーカーとしての視点とかけ離れている場合には減点の対象とする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】								
精神保健福祉士の基盤を学びながら、他の人とのコミュニケーションを通じてソーシャルワークについての理解を深めることを目的としています。授業内でお互いに安心して学び合うことができるように努めます。								

授 業 概 要

科目名	精神保健福祉の原理	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	安部 直美		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
下記7点を、本科目の到達目標とする。 ①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み(理念・視点・関係性)について理解する。②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容を踏まえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。④精神障害者への関わりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。⑤現在の精神保健福祉士の基本的枠組み(理念・視点・関係性)と倫理綱領に基づく職責について理解する。⑥精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。⑦近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
精神保健福祉士として急性期の総合病院で医療ソーシャルワーカーの実務に5年以上あたってきた教員が、ソーシャルワーカーとして基盤となる価値観や理念について現場での体験やエピソードを交えながら具体的にわかりやすく伝える授業を行う									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 精神保健福祉士養成講座5 精神保健福祉の原理 中央法規					授業中に行った問題(実際の国家試験で出題された問題や過去の模擬試験から引用)や資料を用いて復習を行う。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 精神障害者の生活特性① 【到達目標】 日本におけるこれまでの精神科医療が入院患者に与えた影響を理解し、支援者としての関わりを考え説明することができる				9	【授業単元】 「精神保健福祉士」の役割と機能① 【到達目標】 精神保健福祉士法の成立とその目的について説明することができる。			
2	【授業単元】 精神障害者の生活特性② 【到達目標】 精神障害者の家族が置かれている状況とその生活実態を理解し、説明することができる				10	【授業単元】 「精神保健福祉士」の役割と機能② 【到達目標】 精神保健福祉士の倫理綱領を理解する。 精神保健福祉士の抱えるジレンマや倫理的ジレンマについて具体的に説明することができる。			
3	【授業単元】 精神障害者の生活特性③ 【到達目標】 精神障害者の社会生活の実態を理解し、「地域での本人らしい生活」とはどのようなものなのか説明することができる				11	【授業単元】 「精神保健福祉士」の役割と機能③ 【到達目標】 精神保健福祉士の業務特性と業務指針について理解し、説明することができる。			
4	【授業単元】 精神障害者の生活特性④ 【到達目標】 近年の新たなメンタルヘルズ課題及びメンタルヘルズ課題につながる「場」や「状況」を理解し、説明することができる。				12	【授業単元】 「精神保健福祉士」の役割と機能④ 【到達目標】 精神保健福祉士の職場・職域について理解し、業務内容の実際について把握することができる。			
5	【授業単元】 精神保健福祉の原理と理念① 【到達目標】 精神保健福祉士の国家資格創設に至る経緯を知り、ソーシャルワーク専門職としての存在意義を説明することができる。				13	【授業単元】 総復習① 【到達目標】 各単元の重要ポイントを再度確認しつつ、過去の国家試験の問題を解いてみることを通して現在の理解度を高めることができる。			
6	【授業単元】 精神保健福祉の原理と理念② 【到達目標】 精神保健福祉士の価値・原理にはどのようなものがあるのか説明することができる。 精神保健福祉士による援助で必要とされる視野や視点について説明することができる。				14	【授業単元】 総復習② 【到達目標】 各単元の重要ポイントを再度確認することで、定期試験に向けての準備を開始することができる			
7	【授業単元】 精神保健福祉の原理と理念③ 【到達目標】 精神保健福祉士の援助における関係性の特性について説明することができる。				15	【授業単元】 定期試験 定期試験解説 【到達目標】 「精神保健福祉の原理」で学習した内容を踏まえ定期テストへの準備、当日の受験、答え合わせを通して自身の中に定着させる。また、その振り返りを通して2年次の学習への意欲を持つ。			
8	【授業単元】 1～7回までの授業の総復習 中テスト及び中テスト解説 【到達目標】 1～7回までの総復習を行い、授業内容を踏まえた中テストを実施することで、「精神障害のある人々が置かれている状況や生活実態」「そのような人々や環境に対するソーシャルワークの展開を支える精神保健福祉士の存在意義」に関して知識の整理と定着をはかることができる。				【成績評価の方法と基準】 毎回の小テストは5点満点、中テストは15点満点とし、合計点数を2で割った点数と定期テストの60点を合計して100点満点のうちの何点かで評価する。 小テスト、中テストでは記号選択式、〇×問題、記述問題などを授業の内容に応じて適宜出題する。グループワークワークなどで課題に取り組む場合はその完成度で評価する可能性もある。定期テストは5択の選択問題形式により出題する。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
精神保健福祉士の基盤を学びながら、他の人とのコミュニケーションを通じてソーシャルワークについての理解を深めることを目的としています。授業内でお互いに安心して学び合うことができるように努めます。									

授 業 概 要

科目名	精神障害リハビリテーション論	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	西園寺弘久		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<p>「精神障害リハビリテーション論」は、旧専門科目にあった「精神保健福祉の理論と相談援助の展開」の内容のうち、「精神障害リハビリテーション」にかかわる部分が独立分離して新しい科目となったものである。このため、精神保健ソーシャルワークと精神障害リハビリテーションの関係を整理したうえで、精神障害リハビリテーションの内容について詳しく述べる。また、従来から行われているSST(社会生活技能訓練)や認知行動療法に加え、近年の新しい取り組みとしての家族支援、TEACCHプログラム、リカバリーカレッジ、マインドフルネス、オープンダイアログ、当事者研究、ケアラーの支援、依存症のリハビリテーションとしてのSMARPP(スマーブ)、CRAFT(クラブト)などについても取り上げている。</p> <p>社会の変化に対応するために求められるようになった精神障害リハビリテーションと、拡大する精神保健福祉士の役割についてしっかり学習してほしい。精神障害リハビリテーションの理念・方法を学んでほしい。</p>									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
精神保健福祉士として精神科病院、地域の社会福祉施設において社会復帰に向けた支援を行ってきた教員が精神保健福祉士が行う精神障害者に対して行う支援についての知識、技術を取得する授業を行う区									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
中央法規出版 最新 精神保健福祉士養成講座〈3〉精神障害者リハビリテーション論					精神保健施策は日進月歩です。また、精神障害を含めた障害者の偏見も根強く残っています。NetNews等で関連項目に興味を持ってください。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	<p>【授業単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 科目オリエンテーション ・ 第1章 精神障害リハビリテーションとソーシャルワーク 第1節 精神障害リハビリテーションとソーシャルワークの関係 <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 精神科リハビリテーションと精神障害リハビリテーション、精神保健ソーシャルワークの違いが説明できる 				9	<p>【授業単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第4章 精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関 第1節 医学的リハビリテーション <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医学的リハビリテーションについて説明できる ・ 精神科作業療法、行動療法、認知行動療法等の精神療法について説明できる 			
2	<p>【授業単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1章 精神障害リハビリテーションとソーシャルワーク 第2節 精神障害リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割 ・ 第2章 精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則 第1節 精神障害リハビリテーションの理念と歴史 <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 精神障害リハビリテーションの原理と理念 ・ ソーシャルワークの価値 ・ 精神障害リハビリテーションの特性について説明できる 				10	<p>【授業単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第4章 精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関 第2節 職業リハビリテーション <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職業リハビリテーションについて説明できる ・ 職業リハビリテーションの援助過程、プログラムについて説明できる。 ・ 我が国の障害者雇用の仕組みについて説明できる 			
3	<p>【授業単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第2節 医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション ・ 第3節 精神障害リハビリテーションの基本原則 <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本における精神障害リハビリテーションの歴史 ・ 精神障害リハビリテーションに共通する原則について説明できる 				11	<p>【授業単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第4章 精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関 第3節 社会的リハビリテーション <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会的リハビリテーション プログラム (SST,心理教育、生活訓練、WRAP等)について説明できる。 			
4	<p>【授業単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第4節 地域およびリカバリー概念を基盤としたリハビリテーションの意義 <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉サービスの変遷、障害者総合支援法の福祉サービスについて説明できる。 				12	<p>【授業単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第4章 精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関 第4節 教育的リハビリテーション <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育的リハビリテーションを理解し、障害者学生支援プログラムについて説明できる。 			
5	<p>【授業単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第3章 精神障害リハビリテーションの構成および展開 第1節 精神障害リハビリテーションの対象 <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神障害の特性、対象を理解し「ICIDH」「ICF」を説明できる 				13	<p>【授業単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第4章 精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関 第5節 家族支援プログラム 第6節 リハビリテーションに用いられるそのほかの手法・プログラム <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> どのような家族支援が求められるかを理解し家族支援の方法について説明できる。 			
6	<p>【授業単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第3章 精神障害リハビリテーションの構成および展開 第2節 チームアプローチ <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門職の役割を理解し、チームアプローチの概観、方法、課題について説明できる 				14	<p>【授業単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第5章 精神障害リハビリテーションの動向と実際 第1節 精神障害当事者や家族を主体としたリハビリテーション 第2節 依存症のリハビリテーション <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ピアサポーターの理解 依存症の治療プログラムを理解し依存症を抱えたクライアントに対し説明できる。 			
7	<p>【授業単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第3章 精神障害リハビリテーションの構成および展開 第3節 精神障害リハビリテーションのプロセス <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神障害リハビリテーションのプロセスのサイクルについて説明できる 				15	<p>【授業単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期試験 <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期試験で一定以上の点数をとる 			
8	<p>【授業単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中テスト 中テストの振り返り <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回目から第7回目までの振り返りを行い、知識の定着を行う 				<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 試験は筆記試験で行う。 ・ 毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。 				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
この科目はパワーポイントを使います。パワーポイント資料が見れるデバイスを用意してください。									

授 業 概 要

科目名	公認心理師の職責	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	久保田 康文		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業 形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
①公認心理師の役割を理解し、法的義務、倫理に基づき、各分野の公認心理師の業務を知り、多職種連携や地域連携を視野に入れた活動として業務を捉える視点を身につける。 ②自己の課題発見、生涯学習の準備を行えるよう意識を責任感を持って取り組む姿勢を身につける。									
【学習内容】									
公認心理師・臨床心理士としてさまざまな年代の人達の、さまざまな相談に応じ、現在教育分野・福祉分野・私設カウンセリングルームにて臨床活動を行っている講師が、これから公認心理師を目指す人たちにとって、公認心理師の土台となる考え方や倫理観を考えながらグループワークを通してさまざまな見方を知り、実践に役立つ授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用図書:公認心理師の職責 ミネルヴァ書房					日々の生活の中で、自分自身の考え方や行動を振り返り、心理師としての倫理観を取り入れながら生活する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ・オリエンテーション ・対人援助職とは？公認心理師とは？				9	【授業単元】 司法分野における公認心理師の役割とは？ (グループ発表)			
	【到達目標】 ・この科目の目標・予定・進め方について理解することができる。 ・対人援助職・公認心理師としての「職責」について説明することができる。					【到達目標】 ・司法の分野で求められていることを説明できる。 ・司法の分野での具体的な業務を説明できる。			
2	【授業単元】 公認心理師の役割とは？				10	【授業単元】 産業労働における公認心理師の役割とは？ (グループ発表)			
	【到達目標】 ・公認心理師法について説明できる。 ・5分野の中で求められている公認心理師の役割を説明できる。					【到達目標】 ・産業の分野で求められていることを説明できる。 ・産業の分野での具体的な業務を説明できる。			
3	【授業単元】 守秘義務とは？				11	【授業単元】 多職種連携と地域連携			
	【到達目標】 ・職業倫理について第一原則から七原則まで説明できる。 ・第40・41・42条の意味を理解し、説明できる。					【到達目標】 ・連携による支援について説明できる。 ・チームにおける公認心理師の役割について説明できる。			
4	【授業単元】 安全確保とは？				12	【授業単元】 支援者としての自己課題発見・解決能力			
	【到達目標】 ・支援を要する者等の安全を確保するための具体的な配慮を説明できる					【到達目標】 ・自分自身を振り返り自分自身の課題を説明できる。 ・自分自身の課題への対処法を説明できる。			
5	【授業単元】 保健医療分野における公認心理師の役割とは？ (グループ発表)				13	【授業単元】 生涯学習への準備と公認心理師の今後の展開			
	【到達目標】 ・保健医療の分野で求められていることを説明できる。 ・保健医療の分野での具体的な業務を説明できる。					【到達目標】 ・生涯にわたる自己研鑽の必要性について説明できる。 ・今後の公認心理師の役割について説明できる。			
6	【授業単元】 福祉分野における公認心理師の役割とは？ (グループ発表)				14	【授業単元】 ゲストスピーカー(公認心理師指定大学院を卒業し、2年目の心理師から理想と現実について話を聞く)			
	【到達目標】 ・福祉の分野で求められていることを説明できる。 ・福祉の分野での具体的な業務を説明できる。					【到達目標】 ・大学院の進学について学び、自分の疑問点などを説明できる。 ・自分の進路選択について説明できる。			
7	【授業単元】 教育分野における公認心理師の役割とは？ (グループ発表)				15	【授業単元】 定期テスト			
	【到達目標】 ・教育の分野で求められていることを説明できる。 ・教育の分野での具体的な業務を説明できる。					【到達目標】 ・これまでの振り返りをし、自分の疑問点を説明できる。			
8	【授業単元】 中テスト お金と生涯設計				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 ・これまでの振り返り、疑問点などを共有し、説明できる。 ・心理師の賃金と生涯設計について説明できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
公認心理師としての基本的な内容になります。自分なりに知識を深め、積極的に質問をしてください。グループ発表やロールプレーなどもしていきますので欠席や遅刻がないようにしてください。									

授 業 概 要

科目名	心理学概論	必修選択	必修	開講区分	前期	担当教員	阿相周一	
学科コード	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の方	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
心理専門職としての知識と実践の土台となる「心理学」の基礎的な理解を獲得する。具体的には、以下の通りである。・心理学史・心理学が扱う分野とその内容・心の仕組みと機能の理解								
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
担当教員は、臨床心理士・公認心理師として医療や教育、治験等の分野で臨床実践をしている。その臨床経験を活かし、架空事例を交えながら心理学を概観する。毎回の授業は、ディスカッションやグループワークも取り入れ、担当教員と生徒、生徒同士といったように双方向のコミュニケーションを重視し、学習内容の理解を深める。								
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】			
使用教科書: 公認心理師の基本を学ぶテキスト 心理学概論 ミネルヴァ書房 参考図書: 各授業で適宜教示					本科目に関する図書は、使用教科書以外にも数多くあります。授業で教示する参考図書を、可能であれば、ぜひ読み比べてみてください。			
コマ	授業計画			コマ	授業計画			
1	【授業単元】 科目オリエンテーション			9	【授業単元】 生理と神経 2章			
	【到達目標】 ・心理学という学問を説明できる ・心理学が扱う分野を説明できる				【到達目標】 ・脳(神経)の仕組みを説明できる			
2	【授業単元】 心理学史(西洋哲学) 1章			10	【授業単元】 生理と神経 2章			
	【到達目標】 ・科学的な心理学の誕生以前の歴史を説明できる				【到達目標】 ・生理機能を説明できる			
3	【授業単元】 心理学史(科学的な心理学誕生以降) 1章			11	【授業単元】 知覚と認知 3章			
	【到達目標】 ・科学的な心理学誕生以降の歴史を説明できる				【到達目標】 ・知覚機能を説明できる			
4	【授業単元】 障害とアセスメント 14章			12	【授業単元】 知覚と認知 3章			
	【到達目標】 ・障害とは何かを説明できる				【到達目標】 ・認知機能を説明できる			
5	【授業単元】 障害とアセスメント 14章			13	【授業単元】 発達と学習 4章			
	【到達目標】 ・アセスメントとは何かを説明できる				【到達目標】 ・人の発達を説明できる			
6	【授業単元】 心理療法 15章			14	【授業単元】 発達と学習 4章			
	【到達目標】 ・心理療法の歴史を説明できる				【到達目標】 ・学習機能を説明できる			
7	【授業単元】 心理療法 15章			15	【授業単元】 定期テスト 終了後に解答解説			
	【到達目標】 ・各心理療法を説明できる				【到達目標】 第1回から第14回までの学習内容を取得できている			
8	【授業単元】 中テスト 授業の振り返り			【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 第1回から第7回までの学習内容を取得できている			科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】								
・暗記的な学習のみならず、「なぜ」という疑問・知的好奇心を持ち積極的に学ぶ姿勢								

授 業 概 要

科目名	心理学概論	必修選択	必修	開講区分	後期	担当教員	阿相周一		
学科コード	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
心理専門職としての知識と実践の土台となる「心理学」の基礎的な理解を獲得する。具体的には、以下の通りである。・心理学史・心理学が扱う分野とその内容・心の仕組みと機能の理解									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
担当教員は、臨床心理士・公認心理師として医療や教育、治験等の分野で臨床実践をしている。その臨床経験を活かし、架空事例を交えながら心理学を概観する。毎回の授業は、ディスカッションやグループワークも取り入れ、担当教員と生徒、生徒同士といったように双方向のコミュニケーションを重視し、学習内容の理解を深める。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用教科書: 公認心理師の基本を学ぶテキスト 心理学概論 ミネルヴァ書房 参考図書: 各授業で適宜教示					本科目に関する図書は、使用教科書以外にも数多くあります。授業で教示する参考図書を、可能であれば、ぜひ読み比べてみてください。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 言語と思考 5章				9	【授業単元】 教育と学校 9章			
	【到達目標】 ・言語機能を説明できる					【到達目標】 ・教育分野の課題を理解し、支援法を考えることができる。			
2	【授業単元】 記憶と感情 6章				10	【授業単元】 犯罪と司法 10章			
	【到達目標】 ・記憶の機能を説明できる					【到達目標】 ・司法分野の課題を理解し、支援法を考えることができる			
3	【授業単元】 記憶と感情 6章				11	【授業単元】 犯罪と司法(性犯罪再犯防止プログラムの現状と課題)			
	【到達目標】 ・感情の機能を説明できる					【到達目標】 ・再犯防止プログラムの現状と課題を理解できる			
4	【授業単元】 パーソナリティ 7章				12	【授業単元】 産業と組織 11章			
	【到達目標】 ・パーソナリティ研究の歴史を説明できる					【到達目標】 ・産業分野の課題を理解し、支援法を考えることができる			
5	【授業単元】 パーソナリティ 7章				13	【授業単元】 医療と健康 12章			
	【到達目標】 ・パーソナリティ理論を説明できる					【到達目標】 ・医療分野の課題を理解し、支援法を考えることができる			
6	【授業単元】 社会と人間行動 8章				14	【授業単元】 家族と福祉 13章			
	【到達目標】 ・社会の中での人間行動を説明できる					【到達目標】 ・福祉分野の課題を理解し、支援法を考えることができる			
7	【授業単元】 社会と人間行動 8章				15	【授業単元】 定期テスト 終了後に解答解説			
	【到達目標】 ・集団および文化が個人に及ぼす影響を説明できる					【到達目標】 第1回から第14回までの学習内容を取得できている			
8	【授業単元】 中テスト 授業の振り返り				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験80%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 第1回から第7回までの学習内容を取得できている								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・暗記的な学習のみならず、「なぜ」という疑問・知的好奇心を持ち積極的に学ぶ姿勢									

授業概要

科目名	臨床心理学概論	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	望月 勇希		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
臨床心理学の成り立ちや代表的理論について学び説明ができる。現代社会における心の健康にかかわる問題の多様さを理解し、心理学の視点を活用し説明できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床心理士・公認心理師として医療、福祉、教育、企業などの多領域で経験のある講師がその実務経験を活かし、それぞれの領域特有の心理学的支援の事例を取り入れながら臨床心理学の基礎的な内容について授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
公認心理師スタンダードテキストシリーズ3 臨床心理学概論 下山晴彦・石丸徑一郎 ミネルヴァ書房					ニュースやSNSなどでは様々な出来事が発信されています。日ごろからアンテナを立てて心理学の視点と結びつけて考えてみましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 公認心理師と臨床心理学 【到達目標】 公認心理師と臨床心理学についてそれぞれ関係性についても説明できる。				9	【授業単元】 行動療法的アプローチ 【到達目標】 行動療法的アプローチについて学び説明できる。行動療法の流れを説明できる。			
2	【授業単元】 臨床心理学の基礎的な理論 【到達目標】 臨床心理学理論の基礎となる良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法について学び説明できる。				10	【授業単元】 認知行動療法的アプローチ 【到達目標】 認知行動療法的アプローチについて学び説明できる。認知モデルについて説明できる。			
3	【授業単元】 臨床心理学の成り立ちと概観 【到達目標】 臨床心理学の成り立ちと発展について説明できる。公認心理師と臨床心理士や他カウンセラーなどの違いについて説明できる。				11	【授業単元】 システム論、家族療法 【到達目標】 システム論、家族療法について学び説明できる。事例についてシステム論を用いた説明ができる。			
4	【授業単元】 生涯発達と心理的問題 【到達目標】 生涯発達と心理的問題について学び説明できる。ライフサイクルを自身に照らして説明できる。				12	【授業単元】 コミュニティ・アプローチ 【到達目標】 コミュニティ・アプローチについて学び説明できる。スクールカウンセラーの役割について説明できる。			
5	【授業単元】 発達過程で生じる障害や問題、心の病理 【到達目標】 発達過程で生じる障害や問題、異常心理学について学び説明できる。事例を通して心の病理について自身の考えを述べることができる。				13	【授業単元】 ナラティブ・アプローチ 【到達目標】 ナラティブ・アプローチについて学び説明できる。社会構成主義の視点から社会問題について述べるができる。			
6	【授業単元】 アセスメントと心理検査 【到達目標】 アセスメントと心理検査について学び説明できる。アセスメントや心理検査の意義を説明できる。				14	【授業単元】 社会のなかでの臨床心理学的支援 【到達目標】 医療・、保健、福祉、教育、産業、司法・矯正など様々な領域で臨床心理学的支援が行われていることを説明できる。			
7	【授業単元】 来談者中心療法(パーソン・センタード・アプローチ) 【到達目標】 来談者中心療法(パーソン・センタード・アプローチ)を説明できる。3つの条件を説明できる。				15	【授業単元】 科目まとめ・振り返り 定期試験・試験解答解説 【到達目標】 ・科目の重要なポイントが確認できる。 ・自己学習に必要な課題を把握することができる。			
8	【授業単元】 精神分析的アプローチ 【到達目標】 精神分析的アプローチについて学び説明できる。様々な学派があることを説明できる。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
グループや個人、ペアなどで体験しながら学ぶワークがあります。お互いの違いを認め尊重し合う姿勢をもって取り組みましょう。									

授業概要

科目名	学習・言語心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	平上 恭弘	
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
○経験を通して人の行動が変化する過程について他者に説明することができる。 ○言語習得の仕組みについて他者に説明することができる。								
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
医療、福祉、教育現場で勤務してきた経験を活かして、ただ資格を取得するためだけでなく、その先の現場で役に立つ知識・スキルが取得できることを目指して授業を行います。授業形式は講義とグループワーク、演習を活用した学習スタイルです。ロイロノートも必要に応じて使用します。								
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】				
使用教科書: 学習・言語心理学(ミネルヴァ書房) 教材: 配布資料				授業はあくまで学習のキッカケです。あなたがプロフェッショナルな人材になりたいのであれば、自主的な予習復習はもろろん、あなたが気に入った参考図書を見つけ、豊富な知識を蓄え、他者にアウトプットすることが必要です。				
11	授業計画			コマ	授業計画			
1	【授業単元】 学習とは何か。 レスポネント条件づけについて学ぶ			9	【授業単元】 観察学習と模倣学習について学ぶ			
	【到達目標】 行動主義における学習の定義について、説明できる パブロフの犬の実験の概要を基に、レスポネント条件づけの原理について、説明できる				【到達目標】 観察学習について、説明できる 社会的学習理論について、説明できる 模倣学習について、説明できる			
2	【授業単元】 恐怖条件づけ、拮抗条件づけ、系統的脱感作、持続的エクスポージャーについて学ぶ			10	【授業単元】 運動学習と社会・文化・状況と学習について学ぶ			
	【到達目標】 アルパート坊やの実験を基に恐怖条件づけについて説明できる 拮抗条件づけの原理について説明できる 系統的脱感作法、エクスポージャー法の実施方法について説明できる				【到達目標】 正の転移、負の転移について説明できる 最近接発達領域について説明できる			
3	【授業単元】 新行動主義による学習心理学について			11	【授業単元】 言語獲得の過程について学ぶ			
	【到達目標】 ワトソン、トールマン、ハルなどが提唱した理論を説明することができる。				【到達目標】 言語獲得の過程について説明できる Chomskyによる生成文法理論について説明できる			
4	【授業単元】 オペラント条件づけ①ソーランドイクのネコの問題箱実験、スキナーのスキナー箱実験、正の強化、正の弱化、負の強化、負の弱体化について学ぶ			12	【授業単元】 子どものことばの問題、言語に関する障害について学ぶ 言語獲得の臨界期と敏感期について学ぶ			
	【到達目標】 ソーランドイクのネコの問題箱実験を基に、試行錯誤学習、効果の法則について、説明できる スキナーの実験の概要について、説明できる 正の強化、正の弱化、負の強化、負の弱体化について、例を挙げながら説明できる				【到達目標】 吃音や場面緘黙、チック症の症状等について説明できる 言語に関する障害である発達性ディスレクシア・失語症の症状について説明できる 言語の臨界期と敏感期について説明できる			
5	【授業単元】 般化・弁別・消去・強化について学ぶ			13	【授業単元】 内言と外言、言語相対性仮説、言語と記憶について学ぶ			
	【到達目標】 般化、弁別、消去について説明できる 全強化と部分強化について説明できる シェイピング法について例を挙げながら説明できる				【到達目標】 内言と外言についてPiagetの考え方、Vygotskyの考え方を基に説明できる 言語相対性仮説について説明できる 記憶を言語に結びつけることによる現象について説明できる			
6	【授業単元】 効率的な学習について学ぶ			14	【授業単元】 言語コミュニケーション、書記言語とリテラシーについて学ぶ			
	【到達目標】 回避学習について、説明できる 味覚嫌悪学習について説明できる Köhlerのチンパンジーの実験を基に、洞察学習について説明できる				【到達目標】 会話の公平性について、4つの原則を説明することができる 言語コード論について説明できる 音声言語と書記言語、リテラシーについて説明できる			
7	【授業単元】 応用行動分析について学ぶ 知的障害者や発達障害者の支援について学ぶ			15	【授業単元】 これまでの振り返り 定期試験を行う			
	【到達目標】 三項随伴性の対応関係について、説明することができる 応用行動分析を用いて、行動習慣の調整についての原理を例を挙げながら、説明できる トークン・エコノミー法について、例を挙げながら、説明できる				【到達目標】 第14回目までの授業内容を理解できている			
8	【授業単元】 第7回目までの授業の振り返り 中間テストを実施する			【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 第7回目までの授業内容を理解できている			講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小点数以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】								
デバイスには十分な充電を行って講義を受けてください。								

授業概要

科目名	発達心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	関根 大介	
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> ・生涯における心と身体の発達と各発達段階の特徴を説明することができる。 ・認知機能や感情、社会性をどのようにして獲得していくのかを説明することができる。 ・自己と他者と関係性の作り方を説明することができる。 ・各発達段階を知ることで支援者となった際のクライアントをイメージすることが出来る。 								
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
臨床現場(医療、福祉、産業等)で勤務してきた経験を活かして、ただ資格を取得するためだけでなく、その先の現場で役に立つ知識・スキルが取得できることを目指して授業を行います。授業形式は講義(映像資料、事例資料などを活用しながら展開)とグループワーク、演習を活用した学習スタイルです。ロイノートも必要に応じて使用します。								
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】			
使用教科書:公認心理師スタンダードテキストシリーズ⑩発達心理学 教材:配布資料					授業はあくまで学習のキッカケです。あなたがプロフェッショナルな人材になりたいのであれば、自主的な予習復習はもちろん、あなたが気に入った参考図書を見つけ、豊富な知識を蓄え、他者にアウトプットすることが必要です。			
コマ	授業計画			コマ	授業計画			
1	<p>【授業単元】 科目の全体概要の説明 虐待のメカニズムを知り、なぜ発達心理学を学ぶ必要があるのかを知る</p> <p>【到達目標】 現代社会における虐待問題を知る。 虐待のメカニズムについて説明することができる。 発達心理学を学ぶことの重要性を説明することができる。</p>			9	<p>【授業単元】 青年期まで 道徳性の発達 自我同一性の発達</p> <p>【到達目標】 道徳性、自我同一性について理解し、説明することができる。 道徳性においては、外の世界を知的にとらえる力、他者の視点に立って考えることの大切さを説明することができる。</p>			
2	<p>【授業単元】 各発達段階における課題を知ろう</p> <p>【到達目標】 成熟優位説、環境優位説、環境価値説、転換説の違いを説明することができる 発達段階説を理解し、これから学ぶ発達心理学の全体像を把握する。</p>			10	<p>【授業単元】 青年期以降(青年期と成人期、中年期、老年期) 青年期の恋愛、家族形成、中年期危機、死の受容プロセスについて</p> <p>【到達目標】 青年期の恋愛や成人期以降の家族形成、中年期、老年期の心理社会的課題について説明することができる。 老年期の必要な支援について説明することができる。</p>			
3	<p>【授業単元】 胎児期と乳児期</p> <p>【到達目標】 胎児期における考えるべきリスクを知る。 赤ちゃんの持つ防衛本能について説明することができる。 新生児の視力、聴力、学習力を説明することができる。</p>			11	<p>【授業単元】 知能について知能検査と発達検査について</p> <p>【到達目標】 子どもの心身の発達の程度を調べる知能検査や発達検査の概要を説明することができる。 支援において検査がどのように活用できるかを説明することができる。</p>			
4	<p>【授業単元】 乳児期 原始反射</p> <p>【到達目標】 乳児期に見られる原始反射について説明することができる。 幼児期の心理社会的課題について説明することができる。 幼児期の必要な支援について説明することができる。</p>			12	<p>【授業単元】 発達障害の理解と支援① 非定型発達(知的障害・自閉症スペクトラム・AD/HD・学習障害、アタッチメント障害)</p> <p>【到達目標】 非定型発達(知的障害・自閉症スペクトラム・AD/HD・学習障害、アタッチメント障害)について説明することができる。 障害によりどんな困難や悩みが生じるかを想像することができる。</p>			
5	<p>【授業単元】 乳児期 愛着形成</p> <p>【到達目標】 その後の心の発達、人間関係に大きく影響を及ぼす愛着形成について、その重要性を説明することができる。</p>			13	<p>【授業単元】 発達障害の理解と支援② 発達障害者(児)の支援機関や療育方法</p> <p>【到達目標】 発達障害による二次障害について説明することができる。 発達障害者(児)について必要な支援について説明できる。</p>			
6	<p>【授業単元】 乳児期と児童期 言葉の発達</p> <p>【到達目標】 幼児期の心理社会的課題について説明することができる。 幼児期の必要な支援について説明することができる。</p>			14	<p>【授業単元】 これまでのまとめ</p> <p>【到達目標】 第13回目までの授業内容を説明することができる。 定期試験に向けて、これまでの授業のポイントを振り返る。</p>			
7	<p>【授業単元】 幼児期から児童期の社会化(遊びと認知の発達) ジェンダーとセクシュアリティ</p> <p>【到達目標】 幼児期から児童期における心理社会的課題について説明することができる。 児童期の必要な支援について説明することができる。</p>			15	<p>【授業単元】 定期試験及び解説</p> <p>【到達目標】 定期試験後に解説を行い、重点項目について説明することができる。</p>			
8	<p>【授業単元】 中テスト 各発達段階における課題をグループにおいてまとめ発表することを中間テストとして評価を行う。</p> <p>【到達目標】 第7回目までの授業内容を説明できる。</p>			<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小点数以下切り上げ)を小テストの合計点とする。 				
【履修に当たっての心構え・留意点】								
デバイスには十分な充電を行って講義を受けてください。								

授業概要

科目名	心理学的支援法	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	望月 勇希		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】 代表的な心理療法並びにカウンセリングについて理解し説明できる。心理学的支援にとって重要なプライバシーの配慮、倫理について学び説明できる。心理学的支援の基礎となる良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法を身につける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 臨床心理士・公認心理師として医療、福祉、教育、企業などの多領域で経験のある講師がその実務経験を活かし、それぞれの領域特有の事例を取り入れながら心理学的支援の授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】 心理学的支援法: カウンセリングと心理療法の基礎 末武康弘 誠信書房					【授業時間外における学習】 ニュースやSNSなどでは様々な出来事が発信されています。日ごろからアンテナを立てて心理学の視点と結びつけて考えてみましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 第1章心理学的支援法への誘い 【到達目標】 心理学的支援法とは何か説明できる。				9	【授業単元】 第8章心理学的支援法の主要理論(その3)——精神分析と精神力動的セラピー 【到達目標】 精神分析と精神力動的セラピーを学び説明できる。様々な学派があることを説明できる。			
2	【授業単元】 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法 【到達目標】 心理学的支援の基礎となる良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法について学び説明できる。				10	【授業単元】 第9章心理学的支援法の主要理論(その4)——認知行動療法 【到達目標】 認知行動療法を学び説明できる。認知モデルについて説明できる。			
3	【授業単元】 第2章心理学的支援法の特質 【到達目標】 心理学的支援法の効果と限界を説明できる。				11	【授業単元】 第10章心理学的支援法の主要理論(その5)——その他の理論と方法 【到達目標】 その他の主要な理論と方法を学び説明できる。			
4	【授業単元】 第3章心理学的支援法の対象となる問題 【到達目標】 心理学的問題の背景や成因を説明できる。				12	【授業単元】 第11章心理学的支援法のプロセスと実際 【到達目標】 心理学的支援法のプロセスや実際の進展について学び説明できる。			
5	【授業単元】 第4章心理学的支援法はどのように発展してきたのか 【到達目標】 心理療法とカウンセリングの歴史的背景と発展を説明できる。				13	【授業単元】 心の健康教育、心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援 【到達目標】 セルフケアや心の健康、メンタルヘルス対策について説明できる。			
6	【授業単元】 第5章心理学的支援法のさまざまな理論と方法 【到達目標】 心理学的支援法のさまざまな理論と方法があることを説明できる。				14	【授業単元】 心理学的支援法における留意点 【到達目標】 心理学的支援にとって重要なコミュニケーション、プライバシーの配慮、倫理について学び説明できる。			
7	【授業単元】 第6章心理学的支援法の主要理論(その1)——心理学的支援法の基礎としてのパーソンセンタードセラピー 【到達目標】 心理学的支援法の主要理論であるパーソンセンタードセラピーを学び説明できる。ロジャーズの3つの条件を説明できる。				15	【授業単元】 科目まとめ・振り返り 定期試験・試験解答解説 【到達目標】 ・科目の重要なポイントが確認できる。 ・自己学習に必要な課題を把握することができる。			
8	【授業単元】 第7章心理学的支援法の主要理論(その2)——パーソンセンタードセラピーの発展的方法とヒューマニスティックセラピー 【到達目標】 パーソンセンタードセラピーの発展的方法とヒューマニスティックセラピーを学び説明できる。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】 グループや個人、ペアなどで体験しながら学ぶワークがあります。お互いの違いを認め尊重し合う姿勢をもって取り組みましょう。									

授 業 概 要

科目名	地域連携プログラム指導	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年	担当 教員	抜井 健之		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
地域連携プログラムや学校行事に関連した準備や振り返りを行うとともに、そのプロセスにおいて既習内容と関連させる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
福祉専門職育成に携わる教員が、当プログラムの目的及び実習に関する基本的なマナーについて指導をするとともに、学校行事に学生が主体的な姿勢で参加できるようにファシリテートを行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
適宜資料を配布するとともに、各自の取り組む内容に関連するWEBサイトや教科書を参照すること。					実習内容の振り返りとともに、関連する内容についての主体的な調べ学習やボランティアの参加を要する。				
授業計画									
【地域連携プログラムの実習内容の振り返りとシェア】									
<ul style="list-style-type: none"> ・実習プログラム参加に際して、日誌記入の仕方、実習先での利用者・職員との基本的な関わり方等について最低限必要なことを理解するとともに、状況に応じた行動ができるようになる。 ・実習プログラムにおいて日々体験した内容を言語化し、クラス内シェアをするとともに、他の学生の活動や気づきにふれ、次回の行動につなげていく。 									
<p>☆その他のプログラムについて</p> <p>スポーツ大会に向けた活動及び振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツフェスティバルの目的と身につける力を理解し、主体的に参加できるようになる。 ・クラスプレゼンテーションを学生が主体となって企画するとともに、その準備や練習に取り組む。 ・参加競技や役割について、各自の強みを生かし取り組むことに留意するとともに、合意形成の手順を理解する。 ・実施後の振り返りを行い、今後の学校生活や就職後の仕事につながる行動に生かす。 <p>学園祭に向けた活動及び振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学園祭の目的を理解し、その目的や意識して行動ができるようになる。 ・他学年や他学科、教員、外部機関等と連携してイベントを構築していくにあたり、必要な視点を知りスキルを磨く。 ・地域住民にソーシャルワーカーの役割について理解を得るために必要なことを考える。 ・実施後の振り返りを通して、ソーシャルワーカーとして地域にいかに関わり掛ける必要があるかについて考える素地を得る。 									
【履修に当たっての心構え・留意点】					【成績評価の方法と基準】				
グループワークやペアワーク等で、主知的な姿勢で課題解決に臨む姿勢を求める。					記述試験とする。 成績の評価については、学則に準ずる。				

授 業 概 要

科目名	地域連携プログラム	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年	担当 教員	抜井 健之		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	8 単位	総時間数	240 時間
【授業を通じての到達目標】									
<p>地域における精神保健福祉領域の多様な対象の支援に必要な基礎を、講義・演習科目と福祉現場体験を通して身につける。 4年次の「精神保健福祉援助実習」の学びを補完、強化し、卒業研究の学びにつなげるのオリジナルプログラムとして行う。</p>									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
<p>福祉専門職育成に携わる教員が、当プログラムの目的及び実習に関する基本的なマナーについて指導をする。合わせて、各事業所における現場職員が、実習機会を提供し、利用者理解と事業所理解に資する技術・知識について指導を行う。</p>									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
適宜資料を配布するとともに、各自の取り組む内容に関連するWEBサイトや教科書を参照すること。					実習内容の振り返りとともに、関連する内容についての主体的な調べ学習やボランティアの参加を要する。				
授業計画									
<p>精神保健福祉領域に特化した施設実習プログラム</p> <p>1年次授業で学んだ知識・技術を、その実習先において必要な援助に変換して実践する。(スペシフィックソーシャルワークの実践)</p> <p>★ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画を立案する力につなげるコミュニケーション力の強化 ・3年次の公認心理師実習、4年次の精神実習に向けた記録のトレーニング <p>★取り組む内容</p> <p>基本的なコミュニケーション／人間形成／利用者理解</p> <p>★プログラム内容</p> <p>精神保健福祉分野等の協力施設での現場体験(実習)</p> <p>★実施日程</p> <p>原則木曜日</p> <p>※前・後期は異なる事業所</p> <p>※後期は、前期内容を踏まえた上で、精神保健福祉領域や各施設の抱えている課題を自発的に発見し、その課題を解決する考え方・姿勢を持ち、限られた時間内にて最善の解決方法を模索する。</p> <p>活動を通した振り返り・活動報告会</p> <p>事業所実習プログラムで取り組んだ内容については、後期終了時に活動報告会にてプレゼンテーションを行う。</p>									
【履修に当たっての心構え・留意点】					【成績評価の方法と基準】				
<p>実習時には感染症予防等もふまえ、体調管理に留意する必要がある。 また、主体的な姿勢で課題解決に臨む姿勢を求める。</p>					<p>日誌、月報及び活動報告会のプレゼンテーション及び個人の振り返りを通して評価を行う。 評価の基準等は学則に準ずる。</p>				

授 業 概 要

科目名	情報リテラシーⅡ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	株式会社 プレーンスタッフコンサルタンツ		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
Excelのグラフや画像・動画を取り入れた、訴求力のあるプレゼンテーションスライドを作成し発表できる									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
滋慶学園グループの企業である(株)プレーンスタッフコンサルタンツのラーニングマネージャーが、卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについての講義を実施。学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
オリジナルのe-learningテキスト					e-learningテキストで操作手順を確認し、PC操作を実践する				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 OCT入門1 情報検索とファイルとフォルダ 【到達目標】 知りたい情報を正確に検索できる ファイルとフォルダの違いを理解してデータを整理保管できる				9	【授業単元】 プレゼンテーション応用A データ集計 【到達目標】 COUNTIF関数やピボットテーブルを使用したアンケート集計ができる			
2	【授業単元】 プレゼンテーション基礎1 設計 【到達目標】 何を伝えるかを簡潔に示したスライド作成の設計ができる				10	【授業単元】 プレゼンテーション応用B グラフ応用 【到達目標】 効果的なグラフの作成方法を理解し、活用できる			
3	【授業単元】 プレゼンテーション基礎2 図解 【到達目標】 レイアウト、配色等、デザインに考慮した図解を作成できる				11	【授業単元】 プレゼンテーション応用D スライドマスター 【到達目標】 プレゼンテーションをサポートする機能を活用できる			
4	【授業単元】 プレゼンテーション基礎3 表・図表 【到達目標】 表の活用・図表の効果的な表現をすることができる				12	【授業単元】 プレゼン制作1 【到達目標】 テーマに沿ったプレゼンテーション資料を作成できる			
5	【授業単元】 プレゼンテーション基礎4 画像・グラフ 【到達目標】 画像とグラフの効果的な活用ができる				13	【授業単元】 プレゼン制作2 【到達目標】 テーマに沿ったプレゼンテーション資料を作成できる			
6	【授業単元】 プレゼンテーション基礎5 アニメーション 【到達目標】 効果的なアニメーション効果の設定、データの共有方法について理解し活用できる				14	【授業単元】 プレゼンテーション試験対策 【到達目標】 プレゼンテーション講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる			
7	【授業単元】 プレゼンテーション試験対策 【到達目標】 プレゼンテーション講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる				15	【授業単元】 プレゼンテーション定期試験、振り返り 【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、プレゼンテーション資料を作成できる			
8	【授業単元】 プレゼンテーション中テスト 【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、プレゼンテーション資料を作成できる				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験はPCを使用しプレゼンテーション資料作成を行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小点数以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
PC操作は日々繰り返すことでタイピング速度が上がり、効率的な資料作成やデータ処理が可能になります。できるだけ日常に取り入れて活用してください									

授 業 概 要

科目名	スクールソーシャルワーク論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	長田 美穂		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】 * 学校の管理運営制度や学校生活との関連において、スクールソーシャルワーカーに求められる倫理と役割を身につけることができる。 * スクールソーシャルワーカーに求められる総合的な技能習得を目指す。									
【学習内容】 (どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 精神保健福祉士・公認心理師・保育士の国家資格を持ち、心理学分野の論文で博士(学術)を取得している。現在はスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを兼務しており、専門学校・大学での講師経験を持つ教員が実際のスクールソーシャルワークの事例をふまえながら授業を展開する。									
【使用教科書・教材・参考図書】 教員作成の資料を使用する。 参考図書: ●「新スクールソーシャルワーク論: 子どもを中心にすえた理論と実践」山下美三郎ら編、学苑社 ●「橋されてゆく子どもたち」水谷修著、日本評論社					【授業時間外における学習】 授業後は、内容を整理し、ノートにまとめる。またニュースなどで最近の子どもたちに関わる問題や学校の状況について敏感になっておきましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 シラバスと授業の説明 【到達目標】 スクールソーシャルワークとは何かを説明できる。				9	【授業単元】 児童・生徒が抱える福祉的課題3(特別な支援が必要な子どもたちの理解) 【到達目標】 特別な支援が必要な子どもたちについて説明できる。			
	【授業単元】 日本におけるスクールソーシャルワークのあゆみ 【到達目標】 日本のスクールソーシャルワークの歴史を理解する。					【授業単元】 学校におけるマイノリティの子どもたちの理解(LGBTQ、虐待を受けていた子ども、外国籍の子ども) 【到達目標】 ①虐待を受けていた子どもたちへの支援方法、②子どもたちのジェンダーの問題で理解できたこと、LGBTQの子どもたちへ支援したいこと、③外国籍の子どもたちへのSSWとしての支援方法、について説明できる。			
2	【授業単元】 教育相談とスクールソーシャルワークの関係について 【到達目標】 スクールソーシャルワーカーと教育相談の関わりが説明できる。				11	【授業単元】 日本の教育制度と教育行政1 【到達目標】 公教育費の現状について説明できる。			
	【授業単元】 児童・生徒を取り巻く地域の現状―遊び場や子ども会など 【到達目標】 地域における子どもの居場所について説明できる。					【授業単元】 日本の教育制度と教育行政2 【到達目標】 教職員や教育委員会の役割を説明できる。			
3	【授業単元】 児童・生徒を取り巻く学校の現状 【到達目標】 学校教育法について理解し、学校の現状について説明できる。				13	【授業単元】 スクールソーシャルワークの倫理と価値 【到達目標】 バイステックの7原則も含めて、スクールソーシャルワークの倫理と価値について理解できる。			
	【授業単元】 児童・生徒が抱える福祉的課題1(不登校・いじめ) 【到達目標】 不登校やいじめの現状について把握し、その対策なども説明できる。					【授業単元】 諸外国のスクールソーシャルワークの役割 【到達目標】 諸外国のスクールソーシャルワークを理解できる。			
4	【授業単元】 児童・生徒が抱える福祉的課題2(児童虐待・外国人児童生徒の就学問題など) 【到達目標】 子ども発達にどのような影響を及ぼすのか説明できる。				15	【授業単元】 定期試験、振り返り 【到達目標】 今までの授業の本質的な理解			
	【授業単元】 中テスト・事例 【到達目標】 1回～7回までの授業内容を理解できる。事例について自分の考えをまとめることができる。					【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】 最初にレクチャーをして、その後グループワークを行い理解を深める。クラスの意見・考えについては発表を通じて知り、自分以外の視点に気付くことにより、深く理解できるようにする。									

授 業 概 要

科目名	心理学と心理的支援	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	本 荘 繁		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・心理学の基礎的諸理論を説明できる。 ・心理学の各学習項目が、福祉における対象者の心の理解にどのように関わるか説明できる。 ・生涯発達各段階に特有な発達課題と危機を説明できる。 									
<p>専門学校で30年間以上、心理学諸科目を担当してきた教員が、社会福祉分野で働くために必要な心理学的知識を習得する授業を行う。社会福祉実践においては、社会的側面からケースに適した援助を行うが、心理的側面からはどう対象者の心を理解し、支援したらよいかを考える機会にしてほしい。</p>									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
心理学と心理的支援(日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集) 中央法規					これまでの対人関係の中で体験してきたことと心理学の内容を関連づけて理解し、さらに現在の人との関係の中で知識をどう活用できるか考えてほしい。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 心理学の視点				9	【授業単元】 心の発達の基盤			
	【到達目標】 心理学の発展の歴史を学ぶことにより、現代の心理学では心をどのように捉えているか説明できる。 福祉の対象者の心を理解するために心理学をどう活用するか自分の見解を述べるができる。					【到達目標】 認知発達と言語発達の基本的な過程を説明できる。 アタッチメントのあり方が、その後の対人関係に及ぼす影響について説明できる。 臨界期の概念と人間の可塑性について意見を述べるができる。			
2	【授業単元】 感情・動機づけ・欲求				10	【授業単元】 心の健康と不応			
	【到達目標】 マズローの欲求階層説を説明し、心理支援にどう役立つられるか意見を述べられる。 行動(例えばBPSD)の背後にある欲求(動機)を指摘できる。 感情の仕組みと機能について、主な理論を説明できる。					【到達目標】 現代のストレス理論について説明できる。 ストレスにどう立ち向かい、健康を維持するかについて、自分の対処法を振り返ることができる。 ストレスによる不応、主な疾患について説明できる。			
3	【授業単元】 感覚・知覚				11	【授業単元】 健康生成論			
	【到達目標】 感覚モダリティと知覚の成立する過程を説明できる。 視覚・聴覚障害や発達障害の方の、知覚の特性について知覚の仕組みの観点から説明できる。 知覚における諸現象(現実を再構成するときにおこること)について説明できる。					【到達目標】 健康生成論の基本的な考え方が、健康増進にどう役立つか説明できる。 健康な高齢者集団を調べ、首尾一貫性感覚がどう動いているか仮説を立てられる。 逆境を生きてきた人々にどんな心理的、環境的特徴があるかを調べ、レジリエンスがどんな要因から構成されているか指摘できる。			
4	【授業単元】 学習・行動				12	【授業単元】 心理アセスメント			
	【到達目標】 古典的条件づけの仕組みと、その応用について説明できる。 道具的条件づけの仕組みに基づいた、心理支援について説明できる。 観察学習の実例を指摘し、子どもの教育への配慮について意見を述べられる。					【到達目標】 あるケースを用いて、事例定式化(ケースフォーミュレーション)の練習をする。 インテーク面接においてどのように情報を集め、心理アセスメントを行ったらよいか説明できる。 心理アセスメントに用いられる主な心理検査の概要を説明できる。			
5	【授業単元】 認 知				13	【授業単元】 ソーシャルワークにおける心理的支援			
	【到達目標】 記憶の種類を挙げて、それぞれについて説明できる。 認知障害の人に対して必要な支援を述べられる。 主な認知バイアスとそれを防ぐための方法を指摘できる。					【到達目標】 ソーシャルワークにおいて、どのような心理的支援が必要か指摘できる。 支持的精神療法の概略を説明できる。 マイクロカウンセリングの基本的な技法を実際に練習する。 動機づけ面接のやり方の概要を説明できる。			
6	【授業単元】 個人差				14	【授業単元】 心理療法			
	【到達目標】 知能理論が知能検査にどのように影響しているか指摘できる。 類型論・特性論の利点と欠点を指摘できる。 類型論・特性論が、心理的アセスメントにどう使われているか説明できる。					【到達目標】 心理職との連携に必要な代表的な心理療法の基本的概念と進め方を説明できる。 特に精神分析、認知行動療法、応用行動分析、家族療法、ブリーフ・セラピー、対人関係療法について、その概要、および効用と限界について説明できる。			
7	【授業単元】 人と環境				15	【授業単元】 第2Q 定期試験			
	【到達目標】 対人関係に影響する主な効果を指摘できる。 集団が個人の心理にどう影響するかを、実例を挙げて説明できる。 効果的なリーダーシップをとるにはどのような要因が重要か説明できる。					【到達目標】 (60点) 定期試験は、各回の授業内容に関する理解を問う五択択一問題、および各回授業で考えた内容に関する記述式問題。 終了後に解答解説、および将来の国家試験への学習の動機づけ。			
8	【授業単元】 生涯発達 小テスト実施				【成績評価の方法と基準】 定期試験は、各回の授業内容に関する理解を踏まえ国家試験に準じた五択択一問題、および各回授業で考えた内容に関する記述式問題を出题。 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験はTeamsのクイズで行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点×13回=65点。(8回目の小テストは実施するが配点には含まない)、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ライフサイクルにおける各発達課題を、エリクソンに基づいて説明できる。 バルテスの生涯発達理論に基づいて、発達とは何かについて自分の意見を述べられる。 発達における遺伝要因と環境要因の役割について、自分の見解を述べられる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業においては、ペアワーク、グループワーク中心に行うので、それぞれのテーマについて、自分で考えて意見を持ち、できるだけ、みんなで考えていってください。									

授業概要

科目名	社会福祉の原理と政策	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	内藤 博幸		
学科 コース	心理カウンセラー	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
現代社会における福祉制度や意義や理念、福祉政策との関係について理解し、その概要を説明できる。福祉政策におけるニーズと資源について理解する。福祉政策の課題について理解し、解決策を提案する。福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解し、福祉国家論の基本を説明できるようにする。福祉政策の構成要素(福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割)について理解する。福祉政策と関連政策(教育政策、住宅政策、労働政策等)の関係について理解し、市場経済における労働・教育と福祉政策との関係を概説できるようにする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
福祉国家及び福祉政策に関する研究経験のある教員が、現代社会における福祉政策を理解するための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
「4 社会福祉の原理と政策」中央法規					授業を受けたその日のうちに、今一度内容を確認することが重要です。そこで、必ず疑問点が、見えてくるはずですよ。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 社会福祉の思想・哲学 福祉政策において重要な概念・理念 P48～ P119～131				9	【授業単元】 男女共同参画社会と母子家庭の現状			
	【到達目標】 ・福祉政策の下となった理念の変遷を説明できる ・自由主義・社会主義・保守主義などのイデオロギーを理解し簡単な説明ができる ・社会権、ノーマラゼーション、福祉多元主義など重要な用語の解説ができる ・ウェルフェアからワークフェアへの意味を解説できる					【到達目標】 ・女性解放運動(フェミニズム運動)の簡単な歴史を解説できる ・男女共同参画社会の目的は何かを解説できる ・男女平等に関する国際指標をあげ、日本の位置を説明できる ・安倍内閣の女性政策を説明できる			
2	【授業単元】 福祉政策におけるニーズと資源(リソース) P134～148				10	【授業単元】 福祉国家の類型			
	【到達目標】 ・非貨幣ニードという発想が生まれた背景を解説できる ・ブラッドショーのニード分類を理解し、解説することができる。 ・ニーズ(必要)とデマンド(需要)を解説できる ・必要原則と貢献原則 報酬と用具の用語解説ができる					【到達目標】 ・先進各国の社会保障費の現状を解説できる ・ドイツの福祉国家の分類を説明できる ・E.アンデルセンの福祉国家レジームを解説できる ・ウィレンスキーの福祉国家収斂説を説明できる			
3	【授業単元】 福祉政策と資源配分 P169～177 分配の正義 P148～150				11	【授業単元】 アメリカの社会保障制度 P311～			
	【到達目標】 ・ロールズの格差原理を解説できる ・パレート効率性を理解する ・現金給付と現物給付の長所・短所をあげることができる					【到達目標】 ・アメリカの医療制度を解説できる ・アメリカの年金制度を解説できる ・アメリカの高齢者政策を解説できる			
4	【授業単元】 福祉サービスの供給 P254～271				12	【授業単元】 イギリスの社会保障制度			
	【到達目標】 ・ウルフエンデン報告の福祉ミックス論を解説できる ・「平行権理論」と「線り出し梯子理論」を解説できる ・PPFや指定管理者制度などNPMについて説明できる ・ベストフの「福祉トライアングル」を説明できる					【到達目標】 ・イギリスの医療制度を解説できる ・イギリスの年金制度を解説できる ・イギリスの社会保障政策の流れを解説できる			
5	【授業単元】 福祉政策と保健医療政策 P202 P224～227 福祉政策と教育政策 P228～232				13	【授業単元】 フランス・ドイツ・スウェーデンの社会保障体制 P308～313			
	【到達目標】 ・後期高齢者医療制度を説明できる ・地域完結型医療への転換を説明できる ・特別支援学校と就学支援制度を簡潔に理解する					【到達目標】 ・スウェーデンのアーデル改革を解説できる ・ドイツのハルトツ改革を解説できる ・フランスの一般社会拠出金制度を説明できる			
6	【授業単元】 福祉政策と住宅政策 P233～238				14	【授業単元】 今日の我が国の福祉制度の課題			
	【到達目標】 ・老人保健施設、軽費老人ホーム、サ高住、特養の違いを説明できる ・住宅セーフティネット法の特徴をひとつづつ述べることができる。 ・住宅政策の課題をあげられる					【到達目標】 ・岸田首相の異次元の少子化対策の内容を解説できる ・岸田内閣の掲げる「新しい資本主義」とは何かを説明できる ・菅義偉内閣の子ども基本法制定と子ども家庭庁の新設について解説できる ・財政の問題を語るることができる			
7	【授業単元】 福祉政策と災害政策 P245～251				15	【授業単元】 社会福祉政策と理念の総復習 後期試験			
	【到達目標】 ・民生委員と避難行動要支援者登録制度について説明できる ・生活支援相談員の職務を解説できる ・社協のボランティアコーディネータを説明できる ・被災者生活再建支援法を解説できる					【到達目標】 ・グループ学習で、お互いの知識を確認する ・試験は60%以上の正解率			
8	【授業単元】 福祉政策と雇用政策 P239～244				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 ・福祉国家の福祉政策の重要性を説明できる ・フレキシキュリティ、ワークフェア、アクティベーションのそれぞれの違いを明確に説明できる。 ・求職者支援制度を説明できる ・最低賃金制度に関しての一通りの説明ができる				小テスト 毎回 5点満点 中テスト 第8回授業 15点満点 定期試験 15回授業 60点満点 * 小テスト・中テストは合計点を ÷2とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
配布プリントに解答を書き込むだけでなく、気が付いたことや理解に役立つことと思ったら、どんどんメモを取っていくことです。									

授 業 概 要

科目名	刑事司法と福祉	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	栗林正彦		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

【授業を通じての到達目標】									
1. 刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを説明できる。 2. 刑事司法における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割について説明できる。 3. 刑事司法の制度に関わる関係機関等の役割について説明できる。 4. 当事者の「生きづらさ」の背景を説明できるとともに、専門職としての係り方の理解を深めていく。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
近年、刑事司法とかわかかわる人に様々な支援のニーズがあることが広く認識されるようになった。本授業では、刑事司法における近年の動向とこれを取り巻く社会環境について理解し、「司法と福祉の連携」の必要性和実際の支援を学ぶ。地域包括支援センターで、社会福祉士及び精神保健福祉士また、保護司として地域社会の中で当事者と相対する場合、個々の抱える「生きづらさ」等事例などを織り交ぜながら講義を行う。 授業の進め方は講義中心で、第2回目以降は、前回までの授業を復習し、次の講義につなげていく。(小テストの実施)									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
「最新 社会福祉士養成 精神保健福祉士講座10刑事司法と福祉」 (中央法規)一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集					日常から起こり得る事件報道等について意識を傾け、授業で学んでいることと照らし合わせながら理解を深めるようにする。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ガイダンス、第1章「刑事司法と福祉」総論				9	【授業単元】 第9章 社会内処遇① 更生保護の理念と概念			
	【到達目標】 1.2.3.4 刑事司法とソーシャルワークの関係を説明できる。					【到達目標】 1.2.3.4 更生保護の歴史を確認しソーシャルワーカーの役割を説明できる。			
2	【授業単元】 第2章 社会と犯罪				10	【授業単元】 第10章 社会内処遇② 更生保護の実際			
	【到達目標】 1.2.3.4 刑事司法とソーシャルワークの関係を説明できる。					【到達目標】 1.2.3.4 更生保護の実際とネットワーク構築を説明できる。			
3	【授業単元】 第3章 犯罪原因論と対策				11	【授業単元】 第11章 多様なニーズを有する犯罪行為者① 精神障害者を対象とした医療観察制度			
	【到達目標】 1.2.3.4 犯罪原因論にもとづく対応を説明できる。					【到達目標】 1.2.3.4 医療観察制度の概要と社会復帰調整官・地域のソーシャルワーカーの役割を説明できる。			
4	【授業単元】 第4章 刑罰とは何か				12	【授業単元】 第12章 多様なニーズ有する犯罪行為者② 高齢者・障害者による犯罪・非行と福祉			
	【到達目標】 1.2.3.4 刑罰制度の歴史や刑罰の本質と機能を説明できる。					【到達目標】 1.2.3.4 高齢者・障害者への司法と福祉の連携による支援を説明できる。			
5	【授業単元】 第5章 刑事司法				13	【授業単元】 第13章 多様なニーズを有する犯罪行為者③ アディクションを抱える人と刑事司法			
	【到達目標】 1.2.3.4 刑事手続きと原則を説明できる。					【到達目標】 1.2.3.4 アディクションと刑事司法におけるソーシャルワークを説明できる。			
6	【授業単元】 第6章 少年司法				14	【授業単元】 第14章 犯罪被害者等支援			
	【到達目標】 1.2.3.4 少年法の目的や機能、少年保護手続きの流れを説明できる。					【到達目標】 1.2.3.4 犯罪被害者等への支援の実際を説明できる。			
7	【授業単元】 第7章 施設内処遇① 成人				15	【授業単元】 第15章 コミュニティと刑事司法、まとめ			
	【到達目標】 1.2.3.4 処遇のあり方と福祉専門職の業務内容を説明できる。					【到達目標】 1.2.3.4 これまでの学びを振り返る。			
8	【授業単元】 第8章 施設内処遇② 少年				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小点数以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 1.2.3.4 矯正教育のあり方と社会復帰支援について説明できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
講義中心の授業となると常に受け身になるが、まずは聴く姿勢を培う。(対人援助においては、聴くことが相談の第一歩)また、その際自分自身でも「考える」という習慣を付ける。									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	角 田 友 二		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。 ・ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。 ・ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
精神科病院におけるソーシャルワーク全般とデイケアの専任としての経験から、スタッフに対して従順で勤勉なユーザーをつくりだすのではなく、ユーザー主体の支援者になれるように授業を展開していきます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
中央法規出版 最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 第11巻「ソーシャルワークの基盤と専門職」初版、ワークブック・過去問他					<ul style="list-style-type: none"> ・授業回のテキストは読んでくること。 ・精神保健に係る報道等については積極的に情報収集をすること。 				
コマ	授業計画				9	授業計画			
1	<p>【授業単元】 オリエンテーション 映像資料NHK ETV特集「ルポ 死亡退院～精神医療・闇の実態」(滝山病院)を視聴する。</p> <p>精神科医療の負の遺産を知ることにより、これからの学びの動機づけを図る。</p>				9	<p>【授業単元】 第4章 ソーシャルワークの形成過程 第1節 ソーシャルワークの派流と基礎確立期 第2節 ソーシャルワークの発展期</p> <p>【到達目標】 ソーシャルワークが確立していく流れの中で、その前史としての社会的に弱い立場の人への支援の歴史、産業革命という背景、ソーシャルワークの萌芽、そしてソーシャルワークの発展の歴史を理解する。</p>			
2	<p>【授業単元】 第1章 ソーシャルワーク専門職である社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ 第1節 ソーシャルワーク専門職である社会福祉士・精神保健福祉士 第2節 社会福祉士及び介護福祉士法</p> <p>【到達目標】 社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけとその身分法の制定の経緯や見直しの課程について理解する。</p>				10	<p>【授業単元】 第4章 ソーシャルワークの形成過程 第3節 ソーシャルワークの展開期と統合化 第4節 日本におけるソーシャルワークの形成過程</p> <p>【到達目標】 ソーシャルワークの対象となる領域の広がりや生活モデルの視点への変化、そしてジェネラリスト・ソーシャルワーク実践への発展を理解する。また、日本における社会事業前史から、戦後の民主化への流れを経て、現代のソーシャルワークまでの流れを理解する。</p>			
3	<p>【授業単元】 第1章 ソーシャルワーク専門職である社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ 第3節 精神保健福祉士法</p> <p>【到達目標】 精神保健福祉士の法的な位置づけとその身分法の制定の経緯や見直しの課程について理解する。</p>				11	<p>【授業単元】 第5章 ソーシャルワークの倫理 第1節 専門職倫理の概念 第2節 倫理綱領</p> <p>【到達目標】 ソーシャルワーカーの専門職倫理とは何かを理解する。そして実際の倫理綱領などを学ぶことで、倫理綱領を実践場面で活用していけるようにする。</p>			
4	<p>第1章 第4節 社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性 第5節 社会福祉士・精神保健福祉士に求められるコンピテンシー</p> <p>【到達目標】 模範事例をもとに社会福祉士・精神保健福祉士のソーシャルワーク実践のイメージを持ち、どのような知識、技術、価値を習得する必要があるか理解する。 ソーシャルワークが必要とされる社会的背景について理解する</p>				12	<p>第5章 ソーシャルワークの倫理 第3節 倫理的ジレンマ</p> <p>【到達目標】 ソーシャルワーカーが経験する倫理的ジレンマを理解して、倫理的な判断課程とはどうあるべきかを学ぶ</p>			
5	<p>【授業単元】 第2章 ソーシャルワークの概念 第1節 ソーシャルワークの定義</p> <p>【到達目標】 ソーシャルワークの代表的な定義である「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」を学び、その任務、諸原理、基盤となる知と実践についての内容についての理解を深めていく。</p>				13	<p>【授業単元】 精神保健の多様な取り組みの一つである「べてるの家」の実践を視聴して、シェアリングを行う。</p> <p>【達成目標】 当事者主体とはどういうことなのか、専門職の仕事の多様性を考える。「支援しない支援(ナラティブアプローチ)」ということはどういう実践なのか、専門職に従順で勤勉なユーザーを作り出すことのあやまりから抜け出すためには、専門職の仕事がどうあるべきなのかを考える。</p>			
6	<p>【授業単元】 第2章 ソーシャルワークの概念 第2節 ソーシャルワークの構成要素</p> <p>【到達目標】 クライアントシステムとは何か、クライアント(ユーザー)ファーストな支援を行うために専門職の仕事はどうあるべきかを考えられる。</p>				14	<p>【授業単元】 総復習</p> <p>【到達目標】 学んできたことを他の科目とも関連付けて、将来の国試受験に向けて整理しておく。</p>			
7	<p>【授業単元】 第3章 ソーシャルワークの基盤となる考え方 第1節 ソーシャルワークの原理</p> <p>【到達目標】 ソーシャルワークの原理である、社会正義、人権の尊重、集団的責任、多様性の尊重などを理解する。</p>				15	<p>【授業単元】 定期テスト</p> <p>【到達目標】 精神保健福祉士の実際の国試問題をイメージできるようにして、その後の長い職業人生における実践にも活かせるようにする。</p>			
8	<p>【授業単元】 第3章 ソーシャルワークの基盤となる考え方 第2節 ソーシャルワークの理念</p> <p>【到達目標】 当事者主体(ユーザーファースト)、尊厳の保持、権利擁護、自立支援、エンパワメント、ノーマライゼーション、ソーシャル・インクルージョンを臨床場面で実践することの意味を理解していく。</p>				【成績評価の方法と基準】				
<p>科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。</p>									
【履修に当たっての心構え・留意点】									
講師や学生同士のエピソードには守秘義務があることを理解する。 テキスト上、「社会福祉士」との記述は必要に応じて「精神保健福祉士」と読み替える。									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワークの理論と方法 (精神専門)	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	安藤 宏美		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスを説明できる。2 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を説明できる。3 精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について説明できる。4 精神保健福祉士と所属機関の関係をふまえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について説明できる。5 個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をマイクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性をふまえて説明できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
精神保健福祉士として精神科医療機関でソーシャルワークを行ってきた教員が、精神保健福祉士の専門性である「価値・知識・技術」を中心に据え、精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスや家族への支援方法、多職種連携・多機関連携の方法及び精神保健福祉士の役割、ソーシャルアドミニストレーション、個別支援からソーシャルアクションへの実践展開について、講義とそれに関連した具体的な事例検討等を実施する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
『最新 精神保健福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法 [精神専門]』中央法規出版					・復習: 授業資料と教科書の該当箇所を読み直し、理解を深める。 ・予習: 次回の授業資料と教科書の該当箇所を読み、不明点や疑問点を挙げておくことが望ましい。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ①オリエンテーション ②ソーシャルワークとは				9	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセス4 アセスメント			
	【到達目標】 (1)本科目の概要、受講のルール、国家試験における位置付けを理解できる。 (2)ソーシャルワークの概要を説明できる。 ①目的 ②対象 ③活動領域					【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスにおけるアセスメントの内容と用いられる主な技術を説明できる。			
2	【授業単元】 精神保健福祉領域のソーシャルワークの価値、視点				10	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセス5 プランニング			
	【到達目標】 精神保健福祉士の価値に相違した3つの視点を説明できる。					【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスにおけるプランニングの内容と用いられる主な技術を説明できる。			
3	【授業単元】 ①精神保健福祉領域のソーシャルワークの支援対象 ②精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の生活状況				11	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセス6 インターベンション、モニタリング、エバリュエーション、ターミネーション			
	【到達目標】 (1)精神保健福祉領域のソーシャルワークの支援対象を説明できる。 (2)精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の生活状況及び生活のしづらさを説明できる。					【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスにおけるインターベンション、モニタリング、エバリュエーション、ターミネーションの内容と用いられる主な技術を説明できる。			
4	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の人権				12	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークにおける面接技術1			
	【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の人権をめぐる状況を説明できる。 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の人権擁護について自分の考えを述べるができる。					【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークにおける面接の特性及び精神保健福祉士に求められる基本姿勢を説明できる。			
5	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の支援の理念				13	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークにおける面接技術2			
	【到達目標】 精神障害者支援の理念のうち、世界的に主流のものや近年注目されているものを説明できる。					【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークにおいて用いられる面接技術を使い始められる。			
6	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセス1 インテーク				14	【授業単元】 前期まとめ			
	【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスにおけるインテークの内容と用いられる主な技術を説明できる。					【到達目標】 前期の授業内容を振り返り、定期試験に備えることができる。			
7	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセス2 インテーク				15	【授業単元】 定期試験			
	【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスにおけるインテークの内容と用いられる主な技術を説明できる。					【到達目標】 前期の全授業の要点を理解することができる。			
8	【授業単元】 (1)中テスト (2)精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセス3 アセスメント				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 (1)学習した内容の要点を復習し、現段階での自身の理解度を確認できる。 (2)精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスにおけるアセスメントの内容と用いられる主な技術を説明できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
<ul style="list-style-type: none"> ・疑問点や不明点はまず自分で調べたり考えてから質問するのが望ましい。 ・授業内容を受け取るだけでなく「それについて自分はどう思うのか」を考えること。 ・他者とのワーク時は「ソーシャルワーカーとして必要な技術の練習」ととらえて取り組むこと。 									

授業概要

科目名	ソーシャルワークの理論と方法 (精神専門)	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	安藤 宏美		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスを説明できる。2 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を説明できる。3 精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について説明できる。4 精神保健福祉士と所属機関の関係をふまえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について説明できる。5 個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性をふまえて説明できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
精神保健福祉士として精神科医療機関でソーシャルワークを行ってきた教員が、精神保健福祉士の専門性である「価値・知識・技術」を中心に据え、精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスや家族への支援方法、多職種連携・多機関連携の方法及び精神保健福祉士の役割、ソーシャルアドミニストレーション、個別支援からソーシャルアクションへの実践展開について、講義とそれに関連した具体的な事例検討等を実施する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
『最新 精神保健福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法 [精神専門]』 中央法規出版					・復習: 授業資料と教科書の該当箇所を読み直し、理解を深める。 ・予習: 次回の授業資料と教科書の該当箇所を読み、不明点や疑問点を挙げておくことが望ましい。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する集団を活用した支援1 【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する集団を活用した支援 (ソーシャル・グループワーク) の概要を理解し、以下について説明できる。 (1)定義 (2)基本的枠組み (3)理論的モデル (4)歴史 (5)展開過程 (6)グループワークの実際				9	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるチームアプローチ1 【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるチームアプローチの概要を説明できる。			
2	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する集団を活用した支援2 【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する集団を活用した支援 (ソーシャル・グループワーク) の概要を理解し、以下について説明できる。 (1)定義 (2)基本的枠組み (3)理論的モデル (4)歴史 (5)展開過程 (6)グループワークの実際				10	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるチームアプローチ2 ピアサポート 【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるピアサポートの意義を説明できる。			
3	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するアウトリーチ 【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するアウトリーチの意義、方法、形態、留意点を説明できる。				11	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるチームアプローチ3 ピアサポート 【到達目標】 AA (Alcoholics Anonymous) のメンバーをゲストに迎え、精神保健福祉士とピアとの協働のあり方について自分の意見を述べるができる。			
4	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるケアマネジメント1 【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるケアマネジメントの意義、目的、展開過程、方法、チームの概要を説明できる。				12	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるソーシャルアクション 【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるソーシャルアクションの視点、歴史、展開過程、政策提言のあり方の概要を説明できる。			
5	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるケアマネジメント2 【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるケアマネジメントの意義、目的、展開過程、方法、チームの概要を説明できる。				13	【授業単元】 精神保健福祉領域のソーシャルアドミニストレーション 【到達目標】 ソーシャルアドミニストレーションの概念、意義、展開方法の概要を説明できる。			
6	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の家族に対する支援1 【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の家族が置かれてきた状況を説明できる。				14	【授業単元】 まとめ 【到達目標】 後期の授業内容を振り返り、定期試験に備えることができる。			
7	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の家族に対する支援2 【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の家族に対する支援の意義と方法を説明できる。				15	【授業単元】 定期試験 【到達目標】 後期の全授業の要点を理解することができる。			
8	【授業単元】 (1)中テスト (2)精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するコミュニティワーク 【到達目標】 (1)学習した内容の要点を復習し、現段階での自身の理解度を確認できる。 (2)精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するコミュニティワークの概要を説明できる。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・疑問点や不明点はまず自分で調べたり考えてから質問するのが望ましい。 ・授業内容を受け取るだけでなく「それについて自分はどう思うのか」を考えること。 ・他者とのワーク時は「ソーシャルワーカーとして必要な技術の練習」とらえて取り組むこと。									

授 業 概 要

科目名	精神保健福祉制度論	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	宮路雄大		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業 形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> 精神障害者に関する法制度の体系について理解する。 精神保健福祉法、医療観察法等の医療に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。 									
【学習内容】									
精神保健福祉士として、現場で働く際に必要な諸制度の意義や目的、福祉サービスについての理解を深める。また、実践の場がイメージできるよう実践現場での体験談などを交え講義を行う。担当教員は、精神保健福祉士として認知症専門病院、精神科病院に勤務経験がある。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
「最新 精神保健福祉士養成講座 精神保健福祉制度論」中央法規					教科書、レジュメを読み込み予習と復習を行ってください。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション、精神障害者の制度・政策の理解①				9	【授業単元】 精神障害者の生活支援に関する制度②			
	【到達目標】 ・授業の到達目標、学習内容を理解する。 ・社会保障が精神障害者に果たす機能と役割を体系的に理解する。 ・精神障害者に対する生活保障について、制度を理解し説明できる。					【到達目標】 ・相談支援制度成立までの歴史的背景、概要、枠組みを理解する。 ・相談支援専門員の役割を理解、説明できる。			
2	【授業単元】 精神障害者の制度・政策の理解②				10	【授業単元】 精神障害者の生活支援に関する制度③			
	【到達目標】 ・精神障害者の医療や福祉制度の策定過程の変遷を学ぶ。					【到達目標】 ・居住支援制度の理解を深める。精神保健福祉士として、居住支援における役割は何か学ぶ。また、精神科病院に長期入院する患者の退院を阻む壁は何か調べ、精神保健福祉士として、どのように向き合うか考察する。			
3	【授業単元】 精神障害者の医療に関する制度①				11	【授業単元】 精神障害者の生活支援に関する制度④			
	【到達目標】 ・精神保健福祉法の概要について学び、理解を深める。 ・精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割を理解する					【到達目標】 ・居住支援制度の概要、仕組みについて理解する。精神保健福祉士の視点、役割から居住確保や継続した居住の支援について考察する。			
4	【授業単元】 精神障害者の医療に関する制度②				12	【授業単元】 精神障害者の生活支援に関する制度⑤			
	【到達目標】 ・精神科医療と関係の深い政策について把握、理解を深める。 ・精神保健福祉士として、専門性、視点を生かして、政策にどのように関わるのか理解する。					【到達目標】 ・精神障害者が働くことの意味を理解する。 ・精神障害者に関連する就労サービスは何か知る。 ・就労支援における精神保健福祉士の役割は何か学ぶ。			
5	【授業単元】 精神障害者の医療に関する制度③				13	【授業単元】 精神障害者の経済的支援①			
	【到達目標】 ・医療観察法の概要、目的、仕組みを理解し、説明できる。 ・医療観察法における多職種チームの実践と精神保健福祉士の役割を理解する。また、各専門職の役割について説明できる。					【到達目標】 ・精神障害者の生活実態に触れ、経済的支援の必要性を学ぶ。 ・経済支援における精神保健福祉士の役割について学ぶ。 ・生活保護制度の概要、実際の暮らしについて触れ、生活実態を学ぶ。			
6	【授業単元】 精神障害者の医療に関する制度④				14	【授業単元】 精神障害者の経済的支援②			
	【到達目標】 ・関連政策や支援の歴史的背景について把握する。 ・関連政策や支援について、精神保健福祉士の実践として理解する。					【到達目標】 ・公的年金制度の概要、枠組みを学ぶ。 ・障害年金の制度、仕組み、受給までのプロセスを学ぶ。			
7	【授業単元】 精神障害者の生活支援に関する制度①				15	【授業単元】 期末試験			
	【到達目標】 ・生活支援の概念、生活支援とは何を意味しているかを理解する。 ・障害者総合支援法成立までの経緯、制度の体系を把握し、制度の内容が説明ができる。					【到達目標】 ・知識の定着を確認する。出題は選択式、記述式を用いる。			
8	【授業単元】 中間試験				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 ・知識の定着を確認する。出題は選択式、記述式を用いる。				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・適宜グループワークを行います。グループワークでは、積極的な姿勢を期待します。									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク演習(精神専門)Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	西園寺弘久 宮路雄大		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業 形態	演習	総単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
ソーシャルワーカーとしての、役割、倫理感について理解するとともに、実際に現場に出た際の実践力を養う。最終的には、支援者としての「センス」に磨きをかけ、高めてほしい。									
【学習内容】									
精神保健福祉士の実践活動に必要な基礎知識、基礎技術を座学と演習を通して学ぶ。担当教員は、精神科病院にて精神保健福祉士として勤務歴がある。適宜、病院での実践を紹介、精神保健福祉士のリアルな現場での働きを学ぶ。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
ソーシャルワーク演習(中央法規) 適宜、レジュメを配布					授業後、次回までに復習してほしい用語等を提示する。教科書、レジュメを用いて、授業の予習復習を行う。次回の授業時に確認する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 自己紹介				9	【授業単元】 地域移行支援から退院へ・退院準備期 地生活定着域定着支援の利用・フォロー期、地域生活定着期			
	【到達目標】 演習の意義、目的、進め方を学ぶ。 講師の経験を通して、自分自身のキャリア形成について考察する					【到達目標】 退院準備期のプロセスを整理する。演習課題を通して、クライシスプランを立ててみる。精神科病院を退院したクライアントが利用できる支援について考察する。地域生活を再開する際の、エコマップを作成する。			
2	【授業単元】 演習教育における自己覚知				10	【授業単元】 ピアサポーター養成講座 準備期～開始期			
	【到達目標】 自分の価値観、障害者感、支援者としての自分を知る。					【到達目標】 精神保健福祉士として、自らが「ピアサポーター養成講座」を企画する際にどのようなプログラムを行うか考えてみる。グループワークの原則とは何か、説明できる。開始期に有効なアイスブレイクについて考える。			
3	【授業単元】 精神保健福祉士に求められる役割 演習の「ねらい」・展開方法				11	【授業単元】 ピアサポーター養成講座 作業期～終結期 グループワークの過程、精神保健福祉士の役割			
	【到達目標】 厚生労働省が示す精神保健福祉士に求められる役割を理解する 演習の「ねらい」を理解し、事例の読み方、使い方を学ぶ。					【到達目標】 精神障害者に対する報道の在り方について考える。作業期における精神保健福祉士の役割、知識を学ぶ。事例を通して、作業期における観察記録を作成する。終結期における観察記録を作成する。			
4	【授業単元】 精神保健福祉士の実践における原理・原則 精神保健福祉士を取り巻く社会問題				12	【授業単元】 コミュニティソーシャルワークの理解 地域のニーズ把握・コミュニティアセスメント			
	【到達目標】 精神保健福祉士は、なぜクライアントの自己決定を尊重し支援するのか、過去の精神障害者を取り巻く歴史から、考察し、グループで意見交換を行い、理解を深める。					【到達目標】 事例を通して、なぜ「地域住民のグループホーム設立反対」活動が起こるのか、住民、利用者、支援者それぞれの立場になり考察する。Swot分析表をグループになり作成する。			
5	【授業単元】 個人に対する相談援助				13	【授業単元】 プランニング 社会資源の活用、開拓			
	【到達目標】 演習課題を通して、フェイスシート、ジェノグラムを作成。必要な支援について、考察する。市長同意や生活保護の説明をロールプレイにて行い、制度の知識定着を図る。					【到達目標】 swto分析表を復習する。グループになり、自分が住む地域のニーズを抽出しswot分析表を作成、発表する。			
6	【授業単元】 入院から地域移行支援について				14	【授業単元】 ネットワーク ソーシャルアクション			
	【到達目標】 医療保護入院における退院後生活環境相談員の役割を学び、ロールプレイを通して制度の説明が出来るようになる。精神科医療におけるチーム医療、多職種連携を学ぶ。チームアプローチについての意義を考える。					【到達目標】 ネットワークの定義、意義を学び説明できるようになる。事例を通して、グループになり市の精神保健福祉士が行うソーシャルアクションの企画書を作成、発表する。			
7	【授業単元】 地域移行支援・支援準備期～支援中期				15	【授業単元】 定期テスト			
	【到達目標】 サービス等支援計画(案)を作成する際に必要なアセスメント項目を考え、ロールプレイを行う。事例を通して、支援中期の支援プロセスを学び、ピアサポーターとは何か、役割を学び、説明できるようになる。					【到達目標】 1～14回の授業の振り返りを行う。定期試験は記述式、選択式で行う。今までの知識の定着、理解度を確認する。			
8	【授業単元】 中テスト				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小点数以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 1～7回目の授業を振り返る。中テストは、選択式、記述式で行う。今までの知識の定着、理解度を確認する。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
グループワーク、ロールプレイでは、積極的な姿勢を期待する。授業で発生した不明な点は、そのままにせず教員に質問してほしい。									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク演習(精神専門)Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	西園寺弘久 宮路雄大		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業 形態	演習	総単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
ソーシャルワーカーとしての、役割、倫理感について理解するとともに、実際に現場に出た際の実践力を養う。最終的には、支援者としての「センス」に磨きをかけ、高めてほしい。									
【学習内容】									
精神保健福祉士の実践活動に必要な基礎知識、基礎技術を座学と演習を通して学ぶ。担当教員は、精神科病院に精神保健福祉士として勤務歴がある。適宜、病院での実践を紹介、精神保健福祉士のリアルな現場での働きを学ぶ。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
ソーシャルワーク演習(中央法規) 適宜、レジュメを配布					授業後に復習してほしい用語等を提示する。教科書、レジュメを用いて復習してほしい。次回の授業で確認する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 精神保健福祉士の多様な職場におけるソーシャルワーク実践				9	【授業単元】 プレイバックシアターについて			
	【到達目標】 多様な職場で働くソーシャルワーカーを知る。グループになり、将来自分はこの領域で働きたいのか、その理由、現場でどのような実践を行いたいのか、発表する。					【到達目標】 動画を視聴しプレイバックシアターの目的を理解する。			
2	【授業単元】 家族からの受診相談、インテーク面接(初回面接) ①				10	【授業単元】 プレイバックシアター グループ決め、配役決め、シナリオ作成			
	【到達目標】 精神科病院におけるインテーク面接とは何か知る。精神保健福祉士は、インテークを面接を行う際に、情報収集を行う。事例を通して、どのような情報収集を行うのか、グループになり、検討する。					【到達目標】 プレイバックシアターのグループ決め、シナリオ作成に取り掛かる。グループ活動を通して、チームワークを学ぶ。			
3	【授業単元】 家族からの受診相談、インテーク面接(初回面接) ②				11	【授業単元】 プレイバックシアター シナリオ作成			
	【到達目標】 事例を読みインテーク用紙を作成する。グループになり、自分がどこの項目に注目し作成したのか発表する。実際の面接場面を想定し、患者役、精神保健福祉士を演じインテーク面接を行う。					【到達目標】 シナリオ作成を通して、グループメンバーとの関わり、チームワークを学ぶ。			
4	【授業単元】 医療保護入院における外国人の受診、入院支援				12	【授業単元】 プレイバックシアター ①劇の練習			
	【到達目標】 入院形態、退院後生活環境相談員について説明できるようになる。外国人のクライアントの権利擁護について考える。ミクロ、メゾ、マクロレベルのそれぞれの視点から、支援を考えられるようになる。					【到達目標】 劇の練習を通して、クライアントの心情、置かれている立場、支援の過程などを学ぶ。			
5	【授業単元】 精神科デイケア				13	【授業単元】 プレイバックシアター ②劇の練習			
	【到達目標】 精神科デイケアの役割、機能を学び、説明できるようになる。精神科で行う S s t を学び、実際に事例を通して、ロールプレイ形式で s s t を行う。S s t の各役割を学ぶ。パーソナリティ障害の患者への関わり方を学ぶ。					【到達目標】 劇の練習を通して、クライアントの心情、置かれている立場、支援の過程などを学ぶ。			
6	【授業単元】 依存症(アディクション)①				14	【授業単元】 プレイバックシアター ③劇の練習			
	【到達目標】 依存症について知る。自分が支援者の立場で、どのような支援を行うのか、グループで意見交換を行い、発表する。断酒会などの自助グループの活動を知り、本人家族の体験談などに触れる。					【到達目標】 劇の練習を通して、クライアントの心情、置かれている立場、支援の過程などを学ぶ。			
7	【授業単元】 危機介入からの地域生活支援				15	【授業単元】 プレイバックシアター発表(定期テスト)			
	【到達目標】 事例を通して、病院の精神保健福祉士と相談支援専門員の連携、それぞれの役割について学ぶ。「8050」に触れ、なぜ孤立するケースが多いのか、課題は何か、専門職として何が出来るかグループになり発表する。					【到達目標】 プレイバックシアターを通して、クライアントの心情、置かれている立場、社会資源、支援の方法などを考察する。グループのメンバーと協力し主体的に発表を行う。			
8	【授業単元】 中テスト				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 1~7回目の授業を振り返る。中テストは、選択式、記述式で行う。今までの知識の定着、理解度を確認する。				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小点数以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
グループワーク、ロールプレイでは、積極的な姿勢を期待する。授業で発生した不明な点は、そのままにせず教員に質問してほしい。									

授業概要

科目名	心理学研究法	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	丸山 亮光		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

【授業を通じての到達目標】

公認心理師に求められる履修科目である以下の内容への理解と実践ができることを目標とする。
①心理学における実証的研究法(量的研究及び質的研究)、②データを用いた実証的な思考方法、③研究における倫理

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

臨床心理士及び公認心理師である教員が、心という形のないものを実証的に研究していく上で必要になる知識・技術を解説する。また、異なる研究法を具体的に例示し、周辺分野を参照しながら体験できる内容を取り入れ、実際に研究の手続きを踏めるような講義を展開していく。

【使用教科書・教材・参考図書】

●Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける(小宮あすか他)、【参考】改訂新版:心理学論文の書き方(松井豊)
※教科書よりもスライドなどが中心となる。必要に応じて資料は配付予定。

【授業時間外における学習】

心理学の基本であるため、概念や専門用語は多く取り上げる。そのため、日頃から授業内容の復習や、実際の「心理学論文」や「書籍」を読んでおくことが望ましい。また、主体的に自己理解や関心分野への知識を深める行動を推奨する

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	【授業単元】 オリエンテーション:心理学研究法とは何か	9	【授業単元】 実験法(4):実験レポートと認知分野
	【到達目標】 心理学における研究の意義について理解し、説明することができる。		【到達目標】 模擬実験の結果を記述し、実験法の対象となる認知領域や日常場面でも起きうる現象について説明することができる。
2	【授業単元】 心理学研究における科学的方法論とその実際について	10	【授業単元】 実験法(5):実験者としての模擬実践と報告について
	【到達目標】 科学的要件に基づいた研究が心理学において、どのように定義されるのか説明することができる		【到達目標】 前回は異なる実験を体験することにより、実験レポートを記述し、実験結果や実験手続きを報告することができる。
3	【授業単元】 心理学研究法の種類と変数について	11	【授業単元】 観察法の概要について
	【到達目標】 心理学研究法の種類の概要から、実験に関わる変数(独立変数、従属変数、媒介変数、確立変数)、心理学研究にとって必要不可欠な倫理事項や配慮などを説明することができる。		【到達目標】 観察法の実施手順について理解し、観察法の具体例を交えて説明することができる。
4	【授業単元】 信頼性と妥当性について	12	【授業単元】 検査法(1):概要と知能検査について
	【到達目標】 データを扱う際に必須となる信頼性、妥当性について説明することができる。 信頼性や妥当性を確かめる方法を説明することができる。		【到達目標】 検査法の概要と代表的な知能検査や知能に関わる検査について学び、その内容について説明する
5	【授業単元】 実験法(1)実験法の概要と形式について	13	【授業単元】 検査法(2)人格(性格)検査Ⅰ-質問紙法、作業検査法-
	【到達目標】 実験法の概要と実験にまつわるルールなどについて説明することができる。		【到達目標】 性格(人格)検査の代表的なものを理解し、一部検査を実際に体験することで、検査手続きを把握し、説明することができる。
6	【授業単元】 実験法(2)実験法の注意点	14	【授業単元】 検査法(3)人格(性格)検査Ⅱ-投影法-
	【到達目標】 実験法の結果を歪ませる要因とその対策についてや、実験法の結果をまとめるレポートの書き方について説明することができる。		【到達目標】 性格(人格)検査のうち、投影法の成り立ちや種別について理解し、代表的な検査の概要と実施手順について説明することができる。
7	【授業単元】 実験法(3)模擬実験体験	15	【授業単元】 総復習と定期試験
	【到達目標】 実験法で行う実験を実験参加者として体験し、実験手続きや得られたデータをどのように扱い、まとめていくかを説明することができる。		【到達目標】 学期末試験を通じて、当科目で学んだ内容の定着度を確認する。
8	【授業単元】 前期総復習と中間試験	【成績評価の方法と基準】	
	【到達目標】 前半までに学んだ内容の定着度の確認に加え、試験を通じて振り返ることで復習が必要な部分を整理し、分類することができる。	科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。 この授業は後期にある同名授業と通年であるため、注意すること。 授業内のワークは上記の成績とは別になるものも多いが、期限内の提出がなされない場合、授業の展開に支障が出るものもある。回によってはワーク提出の有無により、出席点として処理する場合があるため、注意すること。	

【履修に当たっての心構え・留意点】

- ・内容により、途中参加が難しいものがある。欠席・遅刻に留意すること。
- ・グループ体験も実施するため、協力的な姿勢を求める。
- ・疑問点や分からない点は積極的に自分で調べることや質問をすること。

授業概要

科目名	心理学研究法	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	丸山 亮光	
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
公認心理師に求められる履修科目である以下の内容への理解と実践ができることを目標とする。								
①心理学における実証的研究法(量的研究及び質的研究)、②データを用いた実証的な思考方法、③研究における倫理								
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
臨床心理士及び公認心理師である教員が、心という形のないものを実証的に研究していく上で必要になる知識・技術を解説する。また、異なる研究法を具体的に例示し、周辺分野を参照しながら体験できる内容を取り入れ、実際に研究の手続きを踏めるような講義を展開していく。								
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】				
●Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける(小宮あすか他)、【参考】改訂新版:心理学論文の書き方(松井豊) ※教科書よりもスライドなどが中心となる。必要に応じて資料は配付予定。				心理学の基本であるため、概念や専門用語は多く取り上げる。そのため、日頃から授業内容の復習や、実際の「心理学論文」や「書籍」を読んでおくことが望ましい。また、主体的に自己理解や関心分野への知識を深める行動を推奨する				
コマ	授業計画			コマ	授業計画			
1	【授業単元】 検査法(4)描画法と研究倫理			9	【授業単元】 質的研究(3)事例研究法<1>臨床的事例の読み取り			
	【到達目標】 検査法(投影法)に含まれる代表的な描画法と研究における倫理事項について説明することができる。				【到達目標】 事例研究法の概要を理解し、臨床的事例を読み取る上で模範事例を通して、検討する箇所を推論し、指摘できる。			
2	【授業単元】 調査法(1)質問紙法の概要～回答形式と質問文～			10	【授業単元】 質的研究(4)事例研究法<2>とその他の研究法			
	【到達目標】 調査法の代表的な質問紙法の概要を理解し、回答形式や質問文の原則などについて説明することができる。				【到達目標】 系統的な事例研究法やその他に挙げられる研究法の概要を理解し、模範事例に対して検討を重ね、事例読解について関心を深めることができる。			
3	【授業単元】 調査法(2)質問紙作成と実施手順			11	【授業単元】 心理学における文献研究と研究デザイン(1)			
	【到達目標】 質問紙の作成や模範調査の体験を通じて概要を理解し、実施手順を説明することができる。				【到達目標】 文献の検索や論文の基本構成、文献表の作成方法を理解し、自身の関心のあるキーワードと研究テーマについて決定することができる。			
4	【授業単元】 面接法(1)面接法の手続きと配慮事項			12	【授業単元】 心理学における文献研究と研究デザイン(2)			
	【到達目標】 面接法の具体的な手続きを学び、面接場面で注意すべき配慮事項などについて説明することができる。				【到達目標】 共有資料となるレジュメの作成方法を学び、文章表現や引用文献・参考文献の記載形式などについて実践することができる。			
5	【授業単元】 面接法(2)調査面接の展開と軸側のテクニック			13	【授業単元】 心理学における文献研究と研究デザイン(3)			
	【到達目標】 調査面接の展開に伴って必要となる姿勢や聴き取る力の向上に繋がる手法について実践することができる。				【到達目標】 レジュメの最終構成を行い、複数の論文から見受けられた研究分野の展望と問題点を読み取り、今後必要となる研究の方向性について説明することができる。			
6	【授業単元】 質的研究(1)質的データの集積を要する研究について-KJ法-			14	【授業単元】 心理学における文献研究と研究デザイン(4)			
	【到達目標】 質的研究に該当する文献やKJ法などの基本構成について理解し、説明することができる。				【到達目標】 これまでの収集した資料に自身の展望と意見をまとめ、研究資料として完成し、他者と共有することができる。			
7	【授業単元】 質的研究(2)質的研究におけるデータの活用について-GTA他-			15	【授業単元】 総復習と定期試験			
	【到達目標】 GTA法などの得られた言語データから得られるナラティブと付随する調査者の影響について説明することができる。				【到達目標】 学期末試験を通じて、当科目で学んだ内容の定着度を確認する。			
8	【授業単元】 前半総復習と中間試験			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。 この授業は後期にある同名授業と通年であるため、注意すること。 授業内のワークは上記の成績とは別になるものも多いが、期限内の提出がなされない場合、授業の展開に支障が出るものもある。回によってはワーク提出の有無により、出席点として処理する場合があるため、注意すること。				
	【到達目標】 前半までに学んだ内容の定着度の確認に加え、試験を通じて振り返ることができる。							
【履修に当たっての心構え・留意点】								
<ul style="list-style-type: none"> ・内容により、途中参加が厳しいものがある。欠席・遅刻に留意すること。 ・グループ体験も実施するため、協力的な姿勢を求めます。 ・疑問点や分からない点は積極的に自分で調べることや質問をすること。 								

授業概要

科目名	心理学統計法	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	丸山 亮光	
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
公認心理師に求められる履修科目である以下の内容への理解と実践ができることを目標とする。 ①心理学で用いられる統計手法、②統計に関する基礎的な知識								
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
臨床心理士及び公認心理師である教員が、研究で必要になる統計的概念や統計処理を解説する。実際にExcelや多変量解析用の統計ツールなどを用いて、分析の手順などを参照し、研究における統計の位置づけの説明や結果の読み取りなどを提示し、各自で取り組んでもらう講義を展開していく。								
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】			
●心理学のための統計学入門1(川端一光・荘島宏二郎) 【参考】①Excelで今すぐ始める心理統計: 簡単ツールHADで基本を身につける(小宮あすか)②心理統計学の基礎: 統合的理解のために(南風原朝和)					研究で用いる統計の習熟に必要なのは「パソコンの取扱い(特にExcel)」と「分析の実施手順と統計概念の把握」である。前期は授業内容を振り返り、授業内の概念の把握が望ましい。用語は具体例を活用しての想起の反復を推奨する。			
コマ	授業計画			コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション: 尺度水準について			9	【授業単元】 関係性の分析(3) 擬似相関と連関			
	【到達目標】 心理学における統計的処理の必要性について理解し、尺度水準を説明することができる。				【到達目標】 相関関係を読み取る上での注意点を理解し、質的変数における関係性について説明し、計算することができる。			
2	【授業単元】 データの可視化と度数分布について			10	【授業単元】 推測統計(1) 信頼性の検証方法とサンプリング			
	【到達目標】 データを俯瞰するために必要なグラフなどの種類を知り、度数分布表の作成方法などを説明し、実践できる。				【到達目標】 データの信頼性を検証する方法を実施することができ、統計のサンプリングについて説明することができる。			
3	【授業単元】 代表値について			11	【授業単元】 推測統計(2) 母集団と不偏性について			
	【到達目標】 代表値(平均値、中央値、最頻値)について説明し、算出方法を知ることができる。				【到達目標】 標本抽出から母数を推測するために必要な概念とその推定について説明することができる。			
4	【授業単元】 分散と標準偏差について			12	【授業単元】 統計的仮説検定(1) 統計的に意味のある差について			
	【到達目標】 データを得た場合の分散と標準偏差について理解し、説明することができる。				【到達目標】 統計的仮説検定を成立させる統計論理を説明し、統計的に意味のある差の水準について説明することができる。			
5	【授業単元】 標準得点と偏差値について			13	【授業単元】 統計的仮説検定(2) z検定とヒューマンエラーについて			
	【到達目標】 正規分布から得られる標準得点と偏差値の算出について理解し、実施することができる。				【到達目標】 標本からうかがえる母集団の特徴を読み取るために用いるz検定の概要や、結果の読み取りで起きるヒューマンエラーについて説明することができる。			
6	【授業単元】 関係性の分析(1) 散布図と共分散①			14	【授業単元】 統計的仮説検定(3) t検定の概要			
	【到達目標】 2つ以上の量的変数を扱う際の関係の程度を調べる前の、データの散らばりについて読み取り、計算することができる。				【到達目標】 2つの要因からなるt検定の概要とその公式などを理解し、計算することができる。			
7	【授業単元】 関係性の分析(2) 共分散と相関係数②			15	【授業単元】 総復習と定期試験			
	【到達目標】 相関関係を算出するための共分散の扱いと関係の程度を示す相関係数について説明することができ、計算することができる。				【到達目標】 学期末試験を通じて、当科目で学んだ内容の定着度を確認する。			
8	【授業単元】 前期総復習と中間試験			【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 前半までに学んだ内容の定着度の確認に加え、試験を通じて振り返ることで復習が必要な部分を整理し、分類することができる。			科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。 この授業は後期にある同名授業と通年であるため、注意すること。 授業内のワークは復習としての意義づけや、参考資料としての意義づけが大きい。				
【履修に当たっての心構え・留意点】								
<ul style="list-style-type: none"> 内容により、途中参加が厳しいものがある。欠席・遅刻に留意すること。 個人ワークを活用した内容も実施するため、協力的な姿勢を求める。 疑問点や分からない点は積極的に自分で調べることや質問をすること。 								

授業概要

科目名	心理学統計法	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	丸山 亮光	
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
公認心理師に求められる履修科目である以下の内容への理解と実践ができることを目標とする。								
①心理学で用いられる統計手法、②統計に関する基礎的な知識								
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
臨床心理士及び公認心理師である教員が、研究で必要になる統計的概念や統計処理を解説する。実際にExcelや多変量解析用の統計ツールなどを用いて、分析の手順などを参照し、研究における統計の位置づけの説明や結果の読み取りなどを提示し、各自で取り組んでもらう講義を展開していく。								
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】			
●心理学のための統計学入門1(川端一光・荘島宏二郎) 【参考】①Excelで今すぐ始める心理統計:簡単ツールHADで基本を身につける(小宮あすか)②心理統計学の基礎:統合的理解のために(南風原朝和)					研究で用いる統計の習熟で必要なのは「パソコンの取扱い(特にExcel)」と「分析の実施手順と統計概念の把握」である。後期では実践も入るため、可能であれば「Excel」による習熟が望ましい。無い場合は、実施手順をよく確認すること			
コマ	授業計画				コマ	授業計画		
1	【授業単元】 統計的仮説検定(4)信頼区間と偏相関係数 【到達目標】 散布度から導き出す四分位数と分布の形状に注目し、結果の有効性を示す信頼区間について説明し、計算することができる。				9	【授業単元】 実践体験(1)t検定とExcel 【到達目標】 Excelの操作に準じた実践体験を通じて、3種類のt検定を実施することができる。		
2	【授業単元】 カイ二乗検定について 【到達目標】 独立性の検定による連関の有無を検証する実施手順を理解し、クラメールの連関係数などの算出を実施することができる。				10	【授業単元】 実践体験(2)分散分析、基本統計量、相関分析 【到達目標】 Excelの操作に準じた実践体験を通じて、分散分析、基本統計量、相関分析の実施ができる。		
3	【授業単元】 t検定の展開(1)と分散分析(1)概要 【到達目標】 t検定の実践に伴う手順から関連する分散分析の概要について説明することができる。				11	【授業単元】 実践体験(3)因子分析(前編)と類似した分析 【到達目標】 統計ソフトを用いた因子分析の具体的な手順について実行することができる。		
4	【授業単元】 t検定の展開(2)と分散分析(2)F検定と一元配置 【到達目標】 t検定の具体的な展開と分散分析における「一元配置分散分析」について理解し、説明することができる。				12	【授業単元】 実践体験(4)因子分析(後編)と単回帰分析 【到達目標】 回帰分析のうち、単回帰分析の概要を理解し、実践することができる。		
5	【授業単元】 分散分析(3)有意の読み取りと二元配置 【到達目標】 分散分析における検定式と有意差の扱いについて理解し、結果を報告することができる。また、二元配置における概要を説明することができる。				13	【授業単元】 実践体験(5)重回帰分析とその他の統計分析 【到達目標】 回帰分析のうち、重回帰分析の概要を理解し、実践することができる。また、統計ソフトによるその他の統計分析を実践することができる。		
6	【授業単元】 因子分析(1)多変量解析と因子分析の概要 【到達目標】 多変量解析に含まれる因子分析の概要について説明することができる。				14	【授業単元】 発展的分析法と質的分析法 【到達目標】 共分散構造モデルをはじめとした発展的な分析手法について理解し、説明することができる。また、質的研究によって得られたデータを他の変数と処理するための手順を理解し、実施することができる。		
7	【授業単元】 因子分析(2)実施手順と解釈 【到達目標】 実際の統計ソフトから因子分析を実行するまでにどのような展開を経るか手順について説明し、実施することができる。				15	【授業単元】 総復習と定期試験 【到達目標】 学期末試験を通じて、当科目で学んだ内容の定着度を確認する。		
8	【授業単元】 前半総復習と中間試験 【到達目標】 前半までに学んだ内容の定着度の確認に加え、試験を通じて振り返ることで復習が必要な部分を整理し、分類することができる。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。 この授業は後期にある同名授業と通年であるため、注意すること。 授業内のワークは実践に基づくものがあるが、PCが無いなどの問題があれば、他の学生や講師の操作実演を確認することを推奨する(実践が評価基準になるわけではない)。			
【履修に当たっての心構え・留意点】								
<ul style="list-style-type: none"> 内容により、途中参加が厳しいものがある。欠席・遅刻に留意すること。 PC操作や概念が少しずつ難しくなるため、用語説明の練習を推奨する。 疑問点や分からない点は積極的に自分で調べることや質問をすること。 								

授業概要

科目名	感情・人格心理学		必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	本 荘 繁		
学科 コース	心理カウンセラー科		学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】										
基礎心理学として、どのように感情が形成され、それが人間の行動・態度、さらに病理にどのように関わってくるかを理解することを目標とする。具体的には、①感情に関する理論、感情喚起の機序、②感情が行動に及ぼす影響、③人格の概念と形成過程、④人格の類型、特性を理解することを目指す。それらの知見を元に、「個人の独自性や個人差を踏まえた心理支援」にどう活用するかを考えられるようにする。										
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
長きにわたり専門学校で心理学、カウンセリングなどの科目を担当し、また、高齢施設、ホスピス等で研修を積み、関連著作を刊行している教員が、公認心理師として人の心理的問題を解決を支援するとき、クライアントの感情や人格はどのような役割を果たし、どう介入していくかを、様々な例を通して、考え、学ぶ機会を提供したい。										
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】					
テキスト 感情・人格心理学(杉浦義典編 遠見書房) 参考図書「感情の心理学」(高橋恵子他編 放送大学教育振興会)「人格心理学」(鈴木乙史・佐々木正宏著 放送大学教育振興会)「公認心理師 必携テキスト」(福島哲夫ほか編 学研メディカル社)					日常生活(学校生活、アルバイト、家族関係その他)の中で生じる自分の感情を、状況・結果などと共に内省して、特徴を記録してみる、同じような状況における他者の感情表出の違いを観察してやることを勧めます。					
回	授業計画				回	授業計画				
1	【授業単元】 感情とは 【到達目標】 心理学では感情をどう定義しているかを説明できる。 感情を測定する方法を説明できる。 感情の種類を指摘できる。 感情研究の動向を説明できる。				9	【授業単元】 人格の捉え方(人格の理論) 【到達目標】 人格の類型論の利点と欠点、人間理解にどのように役立てるべきかを説明できる。 人格の構成単位に対する共通特性論と個別特性論の違いを説明できる。				
2	【授業単元】 感情の神経心理学 【到達目標】 感情に関わる脳部位とその機能の最新の知見を説明できる。 感情の発生と制御に重要な役割を担っている扁桃核と前頭前野の機能を説明できる。				10	【授業単元】 状況論・相互作用論 【到達目標】 ミッシェルによる状況論を説明できる。 「人・状況論争(一貫性理論)」とその後の展開、特に相互作用論を説明できる。				
3	【授業単元】 感情表出行動と認知 【到達目標】 表情の生物学的役割を説明できる。 表情の心理社会的役割を説明できる。 表情以外の感情表出行動とそれぞれの関係を説明できる。				11	【授業単元】 人格検査 【到達目標】 人格理解(人格検査)の根拠の基準を指摘できる。 人格検査における信頼性と妥当性の具体的担保の方法を説明できる。 人格評定におけるバイアスの種類を指摘できる。				
4	【授業単元】 感情と動機づけ 【到達目標】 動機づけと感情の関係について、具体的例を挙げて説明できる。 自己効力感と動機づけの関係を説明できる。 内発/外発的動機、アンダーマイニング効果、エンハンシング効果を説明できる。 動機づけ調整方略と感情について説明できる。				12	人格の形成 【到達目標】 人格形成に及ぼす諸要因を指摘し、その関係を説明できる。 人格の変化についての知見を説明できる。 役割性格の変化と生涯発達との関係を説明できる。				
5	【授業単元】 感情の発達 【到達目標】 乳児期における感情理解の芽生え現象を指摘できる。 コミュニケーションとしての感情が成長と共にどう展開していくかを説明できる。 複雑な感情の理解が、発達のどう展開していくかを説明できる。				13	【授業単元】 人間主義的アプローチ 【到達目標】 人間性心理学が生まれた背景を説明できる。 マズローの自己実現論とロジャーズの自己理論を説明できる。 特定の事例に対して、人間性心理学の立場から説明できる。				
6	【授業単元】 感情の理論 【到達目標】 感情がどのように喚起されるのかに関する諸理論を指摘できる。 精神力動論、認知評価理論、構成主義理論、基本感情論のそれぞれを説明できる。				14	【授業単元】 人格の障害 【到達目標】 正常と異常の諸基準にはどのようなものがあるかを説明できる。 人格の障害を、具体的な事例に対して、判断できる。 DSM-5の人格障害のそれぞれに対して、診断基準を指摘できる。				
7	【授業単元】 感情と文化 【到達目標】 感情表出の文化差について、具体的な例をあげられる。 表情の文化的共通性、異質性を説明できる。 感情表出の違いを生み出す要因を指摘できる。				15	【授業単元】 定期試験 (60点) 【到達目標】 終了後に解答解説、および感情・人格心理学の総括。				
8	【授業単元】 人格とは 【中テスト】 【到達目標】				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Eの5段階で評価する。 試験は筆記試験で行う。 毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小点数以下切り上げ)を小テストの合計点とする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】										
新聞やテレビで報道される感情が大きく関わっている問題(例えば、トラブル、心理的問題等)について、折りに触れて注意すること。授業で出てきたテーマと関連づけてみるようにしてほしい。さらに授業に当たっては、ペアワーク、グループワーク中心になるので、積極的に意見を述べ合ってもらいたい。										

授 業 概 要

科目名	福祉心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	関根 大介		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉現場において生じる問題とその背景について、理解、説明することが出来る。 ・福祉現場における心理社会的課題と必要な支援方法について、理解、説明することが出来る。 ・虐待、認知症に関する必要な支援について、理解、説明することが出来る。 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床現場(医療、福祉、産業等)で勤務してきた教員が、福祉的諸問題(高齢・障害・虐待等)について整理し、当事者、関係者への心理学的支援方法について授業を行いません。授業を通して、ただ資格を取得するためだけでなく、その先の現場で役に立つ知識・スキルが取得できることを目指して授業を行います。授業形式は講義(映像資料、事例資料などを活用しながら展開)とグループワーク、演習を活用した学習スタイルです。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用教科書：公認心理師の基礎と実践⑥福祉心理学 教材：配布資料teamsにアップします。資料を確認できるデバイスをご持参ください。					授業はあくまで学習のキッカケです。あなたがプロフェッショナルな人材になりたいのであれば、自主的な予習復習はもちろん、あなたが気に入った参考図書を見つけ、豊富な知識を蓄え、他者にアウトプットすることが必要です。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 社会福祉の展開と心理的支援、生活を抱える心理的支援についての概略を学ぶ				9	【授業単元】 認知症高齢者の心理支援について学ぶ			
	【到達目標】 社会福祉の歴史的展開と現代の福祉政策の概要について説明することができる。 福祉心理学の考え方について説明することができる。 福祉制度と心理職の役割について説明することができる。					【到達目標】 認知症による症状と心理問題について説明することができる。 認知症高齢者への心理支援について説明することができる。			
2	【授業単元】 暴力被害者への心理支援について学ぶ				10	【授業単元】 ひきこもりの現状と心理支援について学ぶ			
	【到達目標】 DVの実態・構造・被害・加害者の心理について説明することができる。 支援方法・留意点について説明することができる。 DVによる子どもへの影響について説明することができる。					【到達目標】 ひきこもりの実態や支援施策について説明することができる。 ひきこもりの方への支援方法について自分の考えを踏まえて説明することができる。			
3	【授業単元】 高齢者への心理支援について学ぶ				11	【授業単元】 自殺予防の心理支援について学ぶ			
	【到達目標】 高齢者福祉関連の法律とその概要について説明することができる。 認知症の実態、診断基準、症状、支援について説明することができる。 高齢者領域における心理支援について説明することができる。					【到達目標】 自殺者の実態(どの性別や年齢が多いのか、その理由等)について説明することができる。 自殺対策の取り組みについて説明することができる。 自殺を考えている人や遺族、未遂者へのかかわり方について例を挙げながら説明できる。			
4	【授業単元】 障害・疾病のある人への心理支援について学ぶ 発達障害児に対する現状と問題、心理支援について学ぶ				12	【授業単元】 精神障害者への心理支援について学ぶ			
	【到達目標】 障害・疾病のある人への心理支援について理解できる 発達障害の特徴、二次障害について説明することができる。 発達障害児への支援方法について説明することができる。					【到達目標】 精神障害者を支える制度とサービスについて説明することができる。 精神障害者が抱える困難さについて説明することができる。 公認心理師が精神障害者を支援するときに必要な基本姿勢について説明できる。			
5	【授業単元】 生活困窮・貧困への心理支援について学ぶ				13	【授業単元】 家族・職員への心理支援について学ぶ			
	【到達目標】 生活困窮・貧困の実態と心理支援について理解できる(オームレス・生活保護・貧困女性等) 公認心理師の役割について説明することができる。					【到達目標】 福祉対象者の家族への心理支援の在り方について説明することができる。 福祉施設職員への心理支援の在り方について説明することができる。			
6	【授業単元】 児童虐待への心理支援について学ぶ				14	【授業単元】 福祉分野での多職種協働と心理職に位置づけについて学ぶ			
	【到達目標】 児童虐待のげんじょうについて説明することができる。 虐待問題における関係機関の対応や役割について説明することができる。 施設や里親、ファミリーホームへの委託における心理職の役割について説明することができる。					【到達目標】 各専門職の役割と多職種協働、チームアプローチについて説明することができる。 医療福祉現場における公認心理師の役割について説明することができる。 多職種が協働する際の留意点について説明することができる。			
7	【授業単元】 子どもと親への心理支援について学ぶ				15	【授業単元】 これまでのまとめ 定期試験及び解説			
	【到達目標】 現在の子育て環境の現状や支援事業について説明することができる。 ひとり親家庭への支援について説明することができる。 要保護・要支援ケースや社会的養護における子どもと親への支援について説明することができる。					【到達目標】 第14回目までの授業内容を理解できている 定期試験後に解説を行い、重点項目について説明することができる。			
8	【授業単元】 第7回目までの授業の振り返り 中テスト				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 第7回目までの授業内容を説明することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
<ul style="list-style-type: none"> ・デバイスは十分な充電を行って履修を受けて下さい。 ・グループワークでの討議等に積極的に参加して下さい。 									

授業概要

科目名	教育・学校心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	角田 友二	
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
教育現場において生じる問題とその背景を理解して、心理社会的課題を把握したうえで必要な支援を行えるようにしていく。「教育に関する心理学分野」は出題割合は9%と比率が高く、事例問題としての出題もあり、将来の公認心理師国家試験において点数を稼げる科目にして、実際に学校臨床場面での仕事に役立つものにしていく。								
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
精神科病院でのケースワーカーとしての経験をもとに、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとしても学校現場で仕事をしており、他・多職種協働しての仕事を理解する。また、公認心理師の出題基準(ブループリント)に基づいて過去問にもふれていく。								
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】				
「公認心理師の基礎と実践18 教育・学校心理学」第2版 石隈紀利編 遠見書房参考文庫・「教育分野」創元社、過去問他、時間があれば映像資料も視聴				教育現場における法令、実情を理解するように求めます。授業回のテキスト部分は必ず読んできて下さい。読んでいるものとして進めます。				
回	授業計画			回	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 授業の履関について テキスト11ページ～26ページ 第1章「教育学校心理学の意義」			9	【授業単元】 テキスト130ページ～143ページ 第10章「非行の理解と非行をする子どもの援助」			
	【到達目標】 教育・学校心理学の概要を把握して、教育分野において、教師ではない対人援助職(スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー)他が求められている素養を概観していく。				【到達目標】 非行についての定義や、非行の3段階の対応モデル、学校外の関係機関などとの連携について説明できる。			
2	【授業単元】 テキスト27ページ～41ページ 第2章「子どもの発達課題への取り組みの理解と援助」			10	【授業単元】 テキスト144ページ～158ページ 第11章「学校における危機対応」			
	【到達目標】 ピアジェ、フロイト、エリクソン他の発達理論を知ることが、学校現場での仕事にどのようにつなげていかを説明できる。				【到達目標】 学校における危機の概要を理解して、危機状態の学校、生徒、教員、保護者の姿をイメージして、緊急支援のありかたを説明できる。			
3	【授業単元】 テキスト42ページ～54ページ 第3章「子どもの教育課題への取り組みの援助」			11	【授業単元】 テキスト159ページ～170ページ 第12章「学級づくりの援助」			
	【到達目標】 教育現場におけるいじめ、不登校、家庭の貧困、虐待、体罰、学習面の課題、教員の過剰労働などについての現状を説明できる。				【到達目標】 学級づくりにチーム学校の一員としてどのような関わりが可能であるかを考え、またブラック職場と言われる学校のありかたについて説明できる。			
4	テキスト55ページ～78ページ 第4章「スクールカウンセリングの枠組み」 第5章「子どもの多様な援助者によるチーム援助」			12	【授業単元】 テキスト171ページ～181ページ 第13章「学校づくりの援助」			
	【到達目標】 スクールカウンセラーとしての援助の視点を学び、チーム学校で援助を進めていくことを説明できる。				【到達目標】 学校の望ましい姿はどのようなことなのかを考えながら、チーム学校の一員としてできることを説明できる。			
5	【授業単元】 テキスト79ページ～88ページ 第6章「3段階の心理教育的援助サービス」			13	【授業単元】 テキスト182ページ～204ページ 第14章「地域ネットワークづくりの援助」 第15章「教育・学校心理学と公認心理師の実践」			
	【到達目標】 学校現場で行われる3段階の心理教育的援助サービスとはどういうことなのかを、実際の例も取り入れながら説明できる。				【到達目標】 地域の関係機関との連携のありかたを学び、新たな資源を創出することもイメージできる。第15章では全体的なまとめを展開する。			
6	【授業単元】 テキスト91ページ～104ページ 第7章「発達障害の理解と援助」			14	【授業単元】 過去問にチャレンジ			
	【到達目標】 発達障害の基本的な理解と、対応するときの視点を学びながら、ラベリングされることで特別な支援に拒否的な当事者、保護者もいること、服薬治療による問題なども最近注目され始めて、栄養の偏りを改善していくこと、認知の発達を促進していく「コグトレ」などについても説明できる。				【到達目標】 過去問を解くことで、将来の公認心理師国家試験のイメージをもつことができる。			
7	【授業単元】 テキスト105ページ～115ページ 第8章「不登校の理解と援助」			15	【授業単元】 定期試験			
	【到達目標】 不登校の状況を理解して、その支援のありかたについて幅広い視点を身につける。				【到達目標】 国家試験の過去問を参考にして出題します。国家試験問題をイメージしながら学びをまとめていきましょう。			
8	【授業単元】 テキスト116ページ～129ページ 第9章「いじめの理解と援助」			【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 いじめの基本的な理解といじめの実態についての学びを深めて、いじめ防止対策推進法を概観して、学校現場でいじめ予防教育、いじめの事後の対応などについて実践力を身につける。			学則に準ずる 各回の小テスト、中テスト 40点 定期テスト 60点				
【履修に当たっての心構え・留意点】								
調師や学生同士の経験からのエピソードには守秘義務のあることを理解する。他の分野の学びも含めて、各自で高度な学びを継続していくこと。指定テキストに沿って展開し、また学校の臨床をイメージして展開する。								

授 業 概 要

科目名	卒業研究 I (精神)	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	関根大介/西園寺弘久		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	4 単位	総時間数	120 時間
【授業を通じての到達目標】									
精神保健分野で、問題発見・問題解決ができる能力を身につけ、自ら選んだテーマに沿って研究・開発・制作を行い、そのテーマに対する客観的事実から問題を探求し実践していく。そして、自分自身の支援者としての強みを見つける事ができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
精神保健分野における専門教育経験のある教員が、受講者の問題解決を促進する学びを促進するために、研究の構成や進め方、現場における課題や取り組み事例における講義を行うとともに、各研究に対する各専門職の視点からのアドバイス等を行い、研究活動をファシリテートする。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
					各自が研究に取り組むフィールドに関心をもち、情報収集や姿勢、地域連携プログラム等の科目で行った内容を振り返り研究につなげる事が必須である				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1・2	【授業単元】 研究実施に向けての計画立案・データ分析の方法 中間発表をふまえた見直し 【到達目標】 ・研究実施に向けての計画を立案し、妥当性が担保されるかのチェックを行う。 ・中間発表における他グループや教員のフィードバックをふまえ、研究手法等の見直しを行う。				17・18	【授業単元】 研究のまとめに向けたアウトラインを描く 中間発表をふまえた見直し 【到達目標】 ・中間発表における他グループや教員のフィードバックをふまえ、コンセプトとの整合性、仮説と結果の関係性などをチェックする。 ・支援者としての視点から研究をいかに生かしていくかを考える。			
3・4	【授業単元】 プレゼンテーションデータの作成方法(パワーポイント) 研究・実施準備(個人/グループワーク) 【到達目標】 ・プレゼンテーションに用いるレジュメやパワーポイント資料作成にあたっての規定を理解するとともに、基本的な制作方法を確認する。 ・研究実施にあたっての準備や手続きを行う。				19・20	【授業単元】 フィールドワーク・個人/グループワーク 【到達目標】 ・研究手法と進捗に応じて、現場でのフィールドワーク、調査データの処理、調査結果の分析等を行う。			
5・6	【授業単元】 研究実施準備・フィールドワーク 【到達目標】 ・研究実施に向けたアンケート等や資料等の準備を行う。 ・研究手法と進捗に応じて、現場でのフィールドワークを行う。				21・22	【授業単元】 フィールドワーク・個人/グループワーク 【到達目標】 ・研究手法と進捗に応じて、現場でのフィールドワーク、調査データの処理、調査結果の分析等を行う。			
7・8	【授業単元】 研究実施準備・フィールドワーク② 【到達目標】 ・研究実施に向けたアンケート等や資料等の準備を行う。 ・研究手法と進捗に応じて、現場でのフィールドワークを行う。				23・24	【授業単元】 個人/グループ面談 【到達目標】 ・学生および教員とのディスカッションを通して、結果の分析や再検証の必要性の有無、今後目指していくべき方向性などを確認する。			
9・10	【授業単元】 研究実施準備・フィールドワーク③ 【到達目標】 ・研究実施に向けたアンケート等や資料等の準備を行う。 ・研究手法と進捗に応じて、現場でのフィールドワークを行う。				25・26	【授業単元】 プレゼン資料の作成 発表技法の確認 【到達目標】 ・クラス内および教員とのディスカッションを通して、他者に伝えるためにふさわしい発表技法を習得する。			
11・12	【授業単元】 グループワーク/グループ面談 【到達目標】 ・学生および教員とのディスカッションを通して、進捗の状況や計画との整合性の確認し、追加調査の必要性の有無等の検討を行う。				27・28	【授業単元】 プレゼン資料の作成 発表技法の確認 【到達目標】 ・クラス内および教員とのディスカッションを通して、他者に伝えるためにふさわしい発表技法を習得する。			
13・14	【授業単元】 個人/グループ面談 中間発表プレゼンテーション準備 【到達目標】 ・プレゼンテーションする準備(配付資料・パワーポイントデータ)の作成を行う。				29・30	【授業単元】 クラス内中間発表 【到達目標】 ・クラス全体が研究の理解を深めることに資する質疑応答を行う。 ・これまでの取り組み内容について各自が言語化			
15・16	【授業単元】 クラス内中間発表 【到達目標】 研究フィールド、現状の課題、仮説、研究方法、調査の進捗についてプレゼンテーションしクラス内でシェアする。 ・クラス全体が研究の理解を深めることに資する質疑応答を行う。 ・これまでの取り組み内容について各自が言語化するとともに、自身のグループへの関与について自己評価する。				【成績評価の方法と基準】				
・定期試験60%、毎回授業の小テスト40%の配分で総合し、A～Eの6段階で評価する。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(16回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。 ・小テストについては、個人ワークシート、グループワークの報告書等を換算する。中テスト、定期試験についてはグループでのプレゼンテーションおよび報告書・各自の筆記試験を合算して評価を行う。提出物の提出期限超過は減点の対象とする。									
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授 業 概 要

科目名	卒業研究Ⅰ(精神)	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	関根大介/西園寺弘久		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	4 単位	総時間数	120 時間
【授業を通じての到達目標】									
精神保健分野で、問題発見・問題解決ができる能力を身につけ、自ら選んだテーマに沿って研究・開発・制作を行い、そのテーマに対する客観的事実から問題を探求し実践していく。そして、自分自身の支援者としての強みを見つける事ができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
精神保健分野における専門教育経験のある教員が、受講者の問題解決を発揮する学びを促進するために、研究の構成や進め方、現場における課題や取り組み事例における講義を行うとともに、各研究に対する各専門職の視点からのアドバイス等を行い、研究活動をファシリテートする。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
					各自が研究に数回フィールドに臨心をもち、情報収集や姿勢、地域連携プログラム等の科目で行った内容を振り返り研究につなげる事が必須である				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1・2	【授業単元】 卒業研究の目的と学習内容 オリエンテーションワーク				17・18	【授業単元】 卒業研究発表会の見学			
	【到達目標】 講師の研究歴や体験談等を聴き、自己が持つ興味・関心・課題を複数あげることができる。					【到達目標】 ・研究発表のプレゼンテーション技法を理解する。 ・研究発表のプレゼンテーションを聞き、自分の研究に繋げたい箇所をみつける。			
3・4	【授業単元】 精神保健福祉分野に必要な研究倫理 各領域に関する今日的な課題				19・20	【授業単元】 仮説立案に必要なプロセスと実践方法			
	【到達目標】 個人で研究するかグループで行うか決める 関連する施設等へアポイントをとる					【到達目標】 ・一般仮説から作業仮説に具体化するプロセスを通して、研究のアウトラインを再構築する。 ・自チームの検証に適した研究方法を検討し選択する。 ・調査開始に資する情報収集に必要な見学やヒアリング先を選定し、アポイントを取ることができる。			
5・6	【授業単元】 研究内容を絞り込むために必要なプロセス				21・22	【授業単元】 フィールドワーク③			
	【到達目標】 個人またはグループにおけるディスカッションや調べ学習を通して、各フィールドにおいてどのような課題があるのかを複数抽出する。					【到達目標】 ・現場見学や地域連携プログラム、クラス内での共有等をふまえて個人またはグループ研究の方向性について再考するとともに、仮説・研究方法を立案する。			
7・8	【授業単元】 研究内容を絞り込むために必要なプロセス②				23・24	【授業単元】 フィールドワーク④			
	【到達目標】 個人またはグループにおけるディスカッションや調べ学習を通して、各フィールドにおいてどのような課題があるのかを複数抽出する。					【到達目標】 ・現場見学や地域連携プログラム、クラス内での共有等をふまえて個人またはグループ研究の方向性について再考するとともに、仮説・研究方法を立案する。			
9・10	【授業単元】 個人/グループ面談				25・26	【授業単元】 研究手法の詳細と手続き グループワーク/グループ面談			
	【到達目標】 ・精神保健福祉フィールドにおいて往となる課題を設定し、大まかな研究のアウトラインを描く。 ・研究を進めるにあたり把握すべき内容を挙げ、それを入手するための方法を定める。					【到達目標】 ・アンケート調査・フィールドワークを行う際の手順や手続き方法、倫理的配慮などについて理解する。 ・学生および教員とのディスカッションを通して、仮説の妥当性および信頼性のあるデータが得られる研究方法であるかを検証する。			
11・12	【授業単元】 個人/グループ面談②				27・28	【授業単元】 個人/グループ面談 中間発表プレゼンテーション準備			
	【到達目標】 ・精神保健福祉フィールドにおいて往となる課題を設定し、大まかな研究のアウトラインを描く。 ・研究を進めるにあたり把握すべき内容を挙げ、それを入手するための方法を定める。					【到達目標】 ・クラス内および教員とのディスカッションを通して、仮説の妥当性および信頼性のあるデータが得られる研究方法であるかを検証する。 ・プレゼンテーションする準備(配付資料・パワーポイントデータ)の作成を行う。			
13・14	【授業単元】 フィールドワーク				29・30	【授業単元】 クラス内中間発表			
	【到達目標】 個人またはグループ内で抽出した課題について観察し、考察することができる					【到達目標】 ・研究フィールド、現状の課題、仮説、実践研究方法についてプレゼンテーションクラス内でシェアする。 ・クラス全体が研究の理解を深めることに資する質疑応答を行う。 ・これまでの取り組み内容について各自が言語化するとともに、自身のグループへの関与について自己評価する。			
15・16	【授業単元】 フィールドワーク結果のクラス内シェア 授業の個人振り返り				【成績評価の方法と基準】 ・定期試験60%、毎回授業の小テスト40%の配分で総合し、A～Eの6段階で評価する。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。 ・小テストについては、個人ワークシート、グループワークの報告書等を換算する。中テスト、定期試験についてはグループでのプレゼンテーションおよび報告書・各自の筆記試験を合算して評価を行う。提出物の提出期限超過は減点の対象とする。				
	【到達目標】 実践研究を調査した結果についてクラス内でシェアするなかで、多様なアプローチのあり方を理解する。 ・これまでの取り組み内容について各自が言語化するとともに、自身の関与について自己評価する。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授 業 概 要

科目名	卒業研究Ⅰ(心理)	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	丸山 亮光		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	講義・演習	単位数	4 単位	総時間数	120 時間
【授業を通じての到達目標】									
公認心理師に求められる「研究者」の実践として、以下の内容への理解と取り組みができることを目標とする。 ①心理学における実証的研究法(量的研究及び質的研究)の計画並びに実施ができる。②データを収集して実証的に結果を集積し、発表できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床心理士及び公認心理師である教員が、心理学に基づく研究の達成に向けて、研究テーマ策定、調査、分析手順、共有資料の作成、執筆に関する手法などの講義を経て、受講者が各自で研究を進める。また、それぞれの研究や発表などについて助言を行い、個々に応じた研究が進むように授業を展開していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
●Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける(小宮あすか他)、【参考】改訂新版:心理学論文の書き方(松井豊) ※教科書よりもスライドなどが中心となる。必要に応じて資料は配付予定。					本授業は自発的な「研究」が主軸となるため、授業時間外に取り組むべきことが非常に多い。研究完成に向けた各々の作業が中心となるため、技術習得が必要な授業課題や調査に向けた達成ができるように率先して進めていくこと。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 調査実践(1)研究スケジュールとデータ収集のポイント 【到達目標】 調査を実施するにあたって計画的な調査データの収集が行えるようにスケジュールの修正を行うことができる。				9	【授業単元】 分析方法(6)回帰分析における図作成と結果記述 【到達目標】 結果で記載が必要となる回帰分析において、モデル図の作成と結果記述を行うことができる。			
2	【授業単元】 調査実践(2)分析用データ入力シートと調査後に伴う方法の修正 【到達目標】 調査で得られたデータのコーディングと調査終了後の方法の修正について説明し、実践できる。				10	【授業単元】 資料構成(1)レジュメのレイアウトと結果読解 【到達目標】 結果を載せるレジュメのレイアウト構成や結果から読み取れるもの、作成すべき表などを判断することができる。			
3	【授業単元】 分析方法(1)データの得点化と基本統計量 【到達目標】 得られたデータを結果で記載する場合に必要な得点化と基本統計量の算出、及び基本統計量表の作成ができる。				11	【授業単元】 資料構成(2)考察の構成について 【到達目標】 研究結果をまとめる上で必要な考察の構成と、その中に含むべき内容についてまとめて、執筆することができる。			
4	【授業単元】 分析方法(2)因子分析表の作成と因子分析結果記述 【到達目標】 結果で記載が必要となる因子分析表の作成と、本分における結果記述を実践することができる。				12	【授業単元】 資料構成(3)全体構成と質疑応答のポイント 【到達目標】 質疑応答で必要となる観点や不備がないように、どのような面を確認するべきか気づいて、修正することができる。			
5	【授業単元】 分析方法(3)相関分析表の作成とクラスター分析の実施 【到達目標】 結果で記載が必要となる相関分析表の作成と、クラスター分析を行う場面、また手順について実践することができる。				13	【授業単元】 最終校正とリハーサル 【到達目標】 期末発表に向けた資料の最終校正とプレゼンテーションのリハーサルを通じて備えることができる。			
6	【授業単元】 分析方法(4)検定における表作成と結果記述 【到達目標】 結果で記載が必要となる検定表の作成と手順、結果の記載について実践することができる。				14	【授業単元】 期末研究発表(1)前半組と質疑応答 【到達目標】 発表に向けて実践してきた研究内容を発表し、質疑応答を行うことができる。			
7	【授業単元】 分析方法(5)分散分析における表作成と結果記述 【到達目標】 結果で記載が必要となる分散分析表の作成と手順、結果の記載について実践することができる。				15	【授業単元】 期末研究発表(2)後半組と質疑応答 【到達目標】 発表に向けて実践してきた研究内容を発表し、質疑応答を行うことができる。			
8	【授業単元】 結果記述と中間報告 【到達目標】 結果で記述すべきポイントについて理解し、現時点における研究の進行状況について報告することができる。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 小テストの代わりに毎回の課題を提示する。これらは各回5点満点とし、中テスト課題(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小点数以下切り捨て)を小テスト・中テストの課題合計点とする。この授業は後期にある同名授業と通年であるため、注意すること。 本授業は卒業研究であるため、研究が達成されない場合は単位付与ができない科目となる。再試験などにおいても研究発表が前提となるため、確実に期限内で研究が終了できるよう、計画的に進めること。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
<ul style="list-style-type: none"> ・「目的達成に向けた主体性、計画性、協調性」が本授業の要となる。 ・分からない部分は積極的に自分で調べることや質問をすることを推奨する。 ・心理学研究法、心理学統計法が前提であり、PC操作の習熟が必要である。 									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク特別演習Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	関根 大介・西園寺 弘久		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・本課程に関しては、専門職のみならず社会人として必要な倫理観、知識、コミュニケーション力、礼儀作法を、提供する授業等を通して自ら身につけることを目的とする。 ・目的目標を持ち、内省する自己であることが、達成感を得てイキイキと生活することに繋がる。日々自分をアップグレードすることを目的とする。 ・国家試験合格のための学習方法の確立と習慣化をさせる。 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
<ul style="list-style-type: none"> ・臨床現場(医療、福祉、産業等)で勤務してきた教員が経験を活かして、ただ資格を取得するためだけでなく、将来を見据え、その先の現場で役に立つ知識・スキルが取得できることを目指して授業を行います。 ・受験対策については、国家試験の出題範囲と出題傾向に関して知見のある教員が、ポイントの講義と模擬問題の提供、解答解説等を通して、合格に必要な知識の習得と定着に向けた指導を行います。 									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
レジュメ 必要に応じて、随時資料を追加で配布する					各個人々に合わせた学習の習慣化を目指してください。同時に、遂行可能な計画を立案して行ってください。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1 10/20	【授業単元】 <勤続づけ> 前期の振り返りと後期に向けて 【到達目標】 自身の前期の学習面や実習への取り組みなどを振り返り、後期の目標を設定する。				9 12/22	【授業単元】 <受験対策> 学習方法、科目の説明 共通科目の実践 【到達目標】 全国の精神保健福祉士国家試験の状況及び国家試験に向けての姿勢を構築する。			
	2 10/27	【授業単元】 <心理系大学院入試について> 大学院入試の概要、受験の仕方、認定施設の説明 【到達目標】 心理系大学院来年時の受験、就職後受験などタイミングは人それぞれであるが、入試の際の流れについて説明することができる。				10 1/12	【授業単元】 <受験対策> 共通科目問題演習① 【到達目標】 国家試験を解き現状を把握する。同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。		
3 11/3		【授業単元】 <就職活動について> キャリアセンターの活用について就職に向けての心構え、求人票の見方、履歴書の書き方 【到達目標】 就職に向けての心構えを意識する。 キャリアセンターの活用方法や求人票の見方、履歴書の書き方を知る。					11 1/19	【授業単元】 <受験対策> 共通科目問題演習② 【到達目標】 国家試験を解き現状を把握する。同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。	
	4 11/17	【授業単元】 <就職活動について> 履歴書の作成 【到達目標】 履歴書を作成する。 自身の長所、短所を明確にする。				12 1/26		【授業単元】 <受験対策> 共通科目問題演習③ 【到達目標】 国家試験を解き現状を把握する。同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。	
5 11/24		【授業単元】 <ビジネスマナーについて> 就活面接でのマナー、電話・メール(お礼メールなど) 【到達目標】 就活にあたっての作法や社会人としてのマナーを説明できる。					13 2/2	【授業単元】 <受験対策> 共通科目問題演習④ 【到達目標】 国家試験を解き現状を把握する。同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。	
	6 12/1	【授業単元】 <支援者が成長するための原則①> 支援者として成長するための要素 事例 【到達目標】 支援者として必要な姿勢を説明できる。				14 2/21		【授業単元】 <受験対策> 模擬試験 【到達目標】 模擬試験を受けることによって国家資格試験の全体像を把握する。	
7 12/8		【授業単元】 <支援者が成長するための原則②> 支援者として成長するための要素 事例 【到達目標】 支援者として必要な姿勢を説明できる。					15 2/26	【授業単元】 <定期試験> 模擬試験フィードバック 【到達目標】 フィードバックを受けた上で改めて、春季からの学習計画の立案と今後実施される滋慶模試の受験にあたっての総合目標点数及び各科目の目標点数等を設定する。	
	8 12/15	【授業単元】 <中テスト> 進路や将来像について 【到達目標】 自身の現段階での進路や将来像について確認する。				【成績評価の方法と基準】			
講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計でA～Fの5段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小点数以下切り上げ)を小テストの合計点とする。									
【履修に当たっての心構え・留意点】									
<ul style="list-style-type: none"> ・デバイスには十分な充電を行って講義を受けてください。 ・国試受験対策については、計画的に学習をしていく必要があります。自身の学習到達度に合わせて計画的に学習することを心掛けてください。 									

授 業 概 要

科目名	医学概論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	萩原 直美		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
ソーシャルワーク専門職として、病者や家族を含めた支援者および地域住民のニーズを把握し、多職種・他機関との連携を図りながら問題解決に取り組んでいくために必要とする基礎的な医学知識を身につける。									
【学習内容】									
担当教員の看護師としての一般病棟・救急および手術室・療養型病床における様々な状態像を対象とした臨床経験と介護支援専門員としてのケアチームにおけるケアマネジメントおよび地域ネットワークの構築等における実務経験の視点を取り入れ、医療職種との連携をイメージできるような授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 1 医学概論					授業予定の教科書部分に事前に目を通して予習しておくこと。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 《ガイドランス》 【第1章 ライフステージにおける心身の変化と健康課題(第1節)】				9	【授業単元】 【第6章 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション】 (第1～3節)			
	【到達目標】 ・それぞれのライフステージにおける心身の特徴を説明できる。 ・乳幼児期における成長と発達の特徴について説明できる。					【到達目標】 ・それぞれの疾病の原因、症状、治療について説明できる。 ・それぞれの疾病について日常生活上の留意点等を説明できる。			
2	【授業単元】 【第1章 ライフステージにおける心身の変化と健康課題(第2～3節)】				10	【授業単元】 【第6章 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション】 (第4～8節)			
	【到達目標】 ・老化による心身の変化について述べられる。 ・それぞれのライフステージにおける健康課題について説明できる。					【到達目標】 ・それぞれの疾病の原因、症状、治療について説明できる。 ・それぞれの疾病について日常生活上の留意点等を説明できる。			
3	【授業単元】 【第2章 健康および疾病の捉え方(第1～2節)】				11	【授業単元】 【第6章 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション】 (第9～12節)			
	【到達目標】 ・健康の定義や健康寿命の概念について述べられる。 ・ICFの概念とICIDHとの違いについて説明できる。					【到達目標】 ・それぞれの疾病の原因、症状、治療について説明できる。 ・それぞれの疾病について日常生活上の留意点等を説明できる。 ・障害の分類や特徴、支援を行う際の留意点等を説明できる。			
4	【授業単元】 【第3章 身体構造と心身機能(第1～2節1～4)】				12	【授業単元】 【第6章 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション】 (第13～16節)			
	【到達目標】 ・人体各部位の名称を正確に述べることができる。 ・骨格系、筋系、循環器系、消化器系の構造とそれぞれの機能の特徴について説明することができる。					【到達目標】 ・それぞれの疾病の原因、症状、治療について説明できる。 ・それぞれの疾病について日常生活上の留意点等を説明できる。 ・障害の分類や特徴、支援を行う際の留意点等を説明できる。			
5	【授業単元】 【第3章 身体構造と心身機能(第1～2節5～8)】				13	【授業単元】 【第6章 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション】 (第17～19節)			
	【到達目標】 ・呼吸器系、泌尿器系、生殖系、内分泌系の構造とそれぞれの機能の特徴について説明することができる。					【到達目標】 ・それぞれの疾病の原因、症状、治療について説明できる。 ・それぞれの疾病について日常生活上の留意点等を説明できる。 ・障害の分類や特徴、支援を行う際の留意点等を説明できる。			
6	【授業単元】 【第3章 身体構造と心身機能(第1～2節9～12)】				14	【授業単元】 【第7章 公衆衛生(第1～2節)】			
	【到達目標】 ・神経系、感覚器系、皮膚、血液の構造とそれぞれの機能の特徴について説明することができる。					【到達目標】 ・予防医学の概念について説明できる。 ・各保健対策や疾病対策の特徴について説明できる。			
7	【授業単元】 【第4章 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程(第1節)】				15	【授業単元】 科目まとめ、振り返り 《定期試験》 《定期試験解答解説》			
	【到達目標】 ・疾病の発生原因について述べられる。 ・病変の成立機序について述べられる。					【到達目標】 ・科目の重要なポイントが確認できる。 ・自己学習に必要な課題を把握することができる。			
8	【授業単元】 【第5章 リハビリテーションの概要と範囲(第1～4節)】 《中間テスト》				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 ・リハビリテーションの定義や目的を説明できる。 ・リハビリテーションの対象とかかわる専門職について述べられる。				科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 試験は、筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
医療職種は、互いの専門性を尊重し協働していくチームの一員であると捉える。									

授業概要

科目名	社会学と社会システム	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	内藤 博幸		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
現実の社会が抱える問題を分析することによって、社会のシステム(制度・構造など)を理解する。詳細な到達目標は、社会変動と労働力の関係を説明できる。人口構造について我が国の特徴を理解する。都市化や過疎化など地域のあり方を概説できる。社会集団と組織を理解する。家族のあり方と機能について説明できる。生活様式とライフスタイルの変遷について考察する。人と社会との関係(役割、行為、ジレンマ)を理解する。さらに、具体的な社会問題(差別、貧困、社会的排除、ハラスメント、児童虐待、いじめなど)について解決策を提案することができるようになることである。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
10年以上の社会学そして社会保障制度に関する講義経験を持つ教員が、福祉的視野から社会というもののあり方、仕組み(社会システム)自体を理解するための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 3 社会学と社会システム』中央法規					授業を受けたその日のうちに、今一度内容を確認することが重要です。そこで、必ず疑問点が、見えてくるはず。そして、試験前には徹底的に覚えこみましょ				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 第1章 社会学の視点 容 P2~6 第2章 第5節 社会変動(社会学の誕生) P77~79				9	【授業単元】 第5章 自己と他者			
	【到達目標】 ・社会学がなぜ必要なのかを理解する ・コントとマルクスの歴史観を解説できる ・社会学がなぜ学問として成立したのかを社会変動の視点で解説できる					【到達目標】 ・役割の意味を説明できる ・ミードの役割取得について解説できる ・ゴッフマンの印象操作を解説できる			
2	【授業単元】 第4章 第1節 家族とジェンダー P154~169				10	【授業単元】 第2章 第2節 組織と集団 P49~59			
	【到達目標】 ・家族の定義を言える ・我が国の家族のあり方の変容を解説できる ・家族の機能をオグバーンの理論を用いて説明できる ・家族機能とジェンダーについて考察することができる					【到達目標】 ・ゲゼルシャフトとグマインシャフトを説明出来る ・第一次集団と第二次集団を説明出来る ・コミュニティとアソシエーションの違いが言える ・準集団の説明ができる			
3	【授業単元】 第2章 第6節 地域 P88~102				11	【授業単元】 第2章 第7節 環境 P104~110 第3章 第4節 災害と復興 P146~152			
	【到達目標】 ・地域社会の過疎問題を説明できる ・フースのアーバニズム論を語る事ができる ・クラークの都市の発展段階論を解説できる ・日本の都市社会学に関する学説を語る事ができる					【到達目標】 ・ベックのリスク社会を解説できる ・地球環境問題を解説できる ・社会的ジレンマに関する理論を説明できる ・SDGsを説明できる			
4	【授業単元】 第3章 市民社会と公共性 第1節 社会的格差 P112~122				12	【授業単元】 第2章 第4節 グローバリゼーション P65~76			
	【到達目標】 ・我が国の「格差」の現状を解説できる ・相対的貧困の定義ができる ・ブルデューの分化資本を解説できる ・ジニ係数等で格差の現状を解説できる					【到達目標】 ・グローバリゼーションの影響を考察できる ・ウォラーステインの世界システム論を解説できる ・在日外国人労働者の現状を語る事ができる ・グローバル化の経済への影響を説明できる			
5	【授業単元】 第3章 第2節 社会政策と社会問題 P123~145				13	【授業単元】 第2章 社会構造と変動 第1節 社会システム P28~38 第5節 社会変動 P77~87			
	【到達目標】 ・マートンやベッカーの社会問題への考察視点を説明できる ・社会問題に対する社会政策の意味を説明できる ・労働運動と福祉国家成立の関連を解説できる ・福祉国家成立の歴史的意味を解説できる					【到達目標】 ・コント・スペンサー・マルクスの社会変動を解説できる ・産業化を解説できる ・近代と前近代の説明ができる			
6	【授業単元】 第3章 第3節 差別と偏見 P134~145 終章 社会関係資本と社会的連帯 P230~236				14	【授業単元】 第1章 第2節 社会学の歴史 P13~27			
	【到達目標】 ・サムナーの内集団と外集団を解説できる ・リースマンの「孤かな群衆」の内容を説明できる ・アドルノの権威主義的パーソナリティを解説できる ・ラベリング理論に関しての解説ができる					【到達目標】 ・社会学の歴史を解説できる ・脱工業化社会(第二の近代)とは何か、説明できる ・第三の情報革命(ブロックチェーン)を解説できる			
7	【授業単元】 第4章 生活と人生 P183~206				15	【授業単元】 全ての講義の総復習として振り返り授業 定期試験 60点			
	【到達目標】 ・ベティ=クラークの法則を説明できる ・かつての日本型雇用の特徴をあげられる ・女性労働の課題をあげられる ・ワークライフバランスの背景を説明できる					【到達目標】 定期試験での6割以上の正答率を目指す			
8	【授業単元】 第2章 第3節 人口 P51~63 中テスト15点満点				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・リースマンの人口理論を説明できる ・我が国の少子化に関する原因と政府の対策を解説できる ・高齢化の現状とその問題点を指摘できる ・少子高齢化が社会経済に及ぼす影響を指摘することができる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
配布プリントに解答を書き込むだけでなく、気が付いたことや理解に役立つことと思ったら、どんどんメモを取っていくことです。									

授 業 概 要

科目名	社会福祉調査の基礎	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	福田真清		
学科 コース	社会福祉科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉調査の意義と目的、方法の概要を理解する。 ・統計法の概要、社会福祉調査における倫理や個人情報保護について理解する。 ・量的調査と質的調査の方法、ITを活用した社会福祉調査の方法を理解する。 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
<p>障害当事者やその家族を対象にした調査研究や福祉サービス事業所における管理者等で培った知識と経験を活用し、国家試験はもとより、実践現場でも応用可能な知識が習得できるよう、体系的なスモールステップで進めていく。</p> <p>なお、確実な知識の習得を目指すため、第5回、第9回、第14回で習得度テストを行う。</p>									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編(2021)『社会福祉調査の基礎』中央法規					テキストと授業で配布するレジュメの復習を勧める。本科目の受講にあたっては各授業に1時間の自宅学習(予習・復習等)を必要とする。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション、社会福祉調査の種類				9	【授業単元】 振り返り・習得度テスト(量的調査)			
	【到達目標】 ・社会福祉調査の種類 が説明できる。					【到達目標】 量的調査に関する基礎的知識の定着を図る。			
2	【授業単元】 社会福祉調査の展開、統計法				10	【授業単元】 質的調査の意義と目的			
	【到達目標】 ・ソーシャルワーカーが社会福祉調査に取り組む意義 ・統計法の5つのポイント が説明できる。					【到達目標】 ・質的調査の特徴と量的調査との違い が説明できる。			
3	【授業単元】 社会福祉調査の倫理と個人情報保護				11	【授業単元】 質的調査方法論の主なアプローチ			
	【到達目標】 ・社会福祉調査における倫理的配慮 ・OECD8原則と個人情報保護法のポイント が説明できる。					【到達目標】 ・対象者の選定 ・質的調査の方法 が説明できる。			
4	【授業単元】 社会福祉調査のデザイン				12	【授業単元】 質的データの整理と分析			
	【到達目標】 ・「演繹的」「帰納的」の違い ・量的調査の種類 が説明できる。					【到達目標】 ・データ分析のための基礎的作業の手順 ・データの分析方法の特徴 が説明できる。			
5	【授業単元】 振り返り・習得度テスト(社会福祉調査の基礎的知識)				13	【授業単元】 プログラム評価、実践評価			
	【到達目標】 ・社会福祉調査に関する基礎的知識の定着を図る。					【到達目標】 ・プログラム評価の種類 ・シングル・システム・デザインに基づく評価方法 が説明できる。			
6	【授業単元】 対象者の選定、測定				14	【授業単元】 振り返り・習得度テスト(質的調査)			
	【到達目標】 ・対象者の選定 ・尺度4種類の特徴 が説明できる。					【到達目標】 質的調査、ソーシャルワークにおける評価に関する基礎的知識の定着を図る。			
7	【授業単元】 データの収集方法				15	【授業単元】 社会福祉調査の展望、試験			
	【到達目標】 ・質問紙の配布と回収の方法 ・質問紙を作成するときの留意点 が説明できる。					【到達目標】 ・新しい調査手法 が説明できる。			
8	【授業単元】 量的データの整理と分析				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、習得度テスト(ほかの科目の小テストにあたり、第5、9、14回目の授業で実施)は各回5点満点・計15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・データ分析のための基礎的作業の手順 ・データの視覚化 ・基本的な検定方法の種類と特徴 が説明できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
それぞれの授業は連関し合っているため、わからない部分はそのままにせず、次の授業までに必ず消化しておくこと。									

授 業 概 要

科目名	社会保険	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	前期	担当 教員	伊藤亮太		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
社会保険・福祉問題を正しく理解し、臨床において活躍できる人材養成を行う。また、社会福祉士国家取得対策としてその知識をまかなう。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学院において、社会保険制度の研究を行い、その後年金・医療・介護・資金計画等で個人のライフプランニング設計等に携わっている。研究だけではなく、実務双方からの授業を行い、資格試験対策だけではなく、その後の実務でも生かせるよう工夫していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新・社会福祉士養成講座「社会保険」(中央法規)					授業終了後の復習を怠らないこと。社会保険に関するニュースなど日ごろから改正項目等には注目しておくこと。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 第1章現代社会と社会保険 第1節人口動態の変化、第2節経済環境の変化 【到達目標】 我が国における社会保険の定義を理解、説明することができる。人口動態および経済環境の変化、歴史的背景を学び、社会保険の変遷を理解する。				9	【授業単元】 第5章 社会保険制度の体系 第1節医療保険制度の概要② 【到達目標】 日本の医療保険制度の特徴を理解する。高額療養費制度など実際に活用できる仕組みを理解し、いざというときに活用できるようになる。			
2	【授業単元】 第1章の続き、第2章社会保険の概念や対象およびその理念 第1節社会保険の概念と範囲、第2節社会保険の役割と意義 【到達目標】 社会保険、公的扶助、社会手当の違いを理解し説明することができるようになる。 日本における社会保険制度構築の経緯と社会保険・社会福祉発展の流れを理解する。				10	【授業単元】 第5章 社会保険制度の体系 第2節介護保険制度の概要 【到達目標】 介護保険制度の概要と、実際適用できる施設など実務でも活かせる内容を理解し、説明することができる。 要介護度に応じて何が適用できるのか把握できる。			
3	【授業単元】 第2章の続き 第3節社会保険の理念、第4節社会保険の対象 第5節 社会保険制度の展開 【到達目標】 我が国の社会保険の流れを把握し、各年代においてどのような制度が策定されてきたか説明できるようにする。 社会保険の対象にはどのような制度があり、どのような役割を担っているか説明できるようにする。				11	【授業単元】 第5章 社会保険制度の体系、第3節年金制度の概要① 【到達目標】 年金制度の体系を理解する。老齢年金の受給要件を理解するほか、ご自身が今後加入するであろう年金制度にどんなものがあるのかわかるようになる。			
4	【授業単元】 第3章 第1節社会保険の財政、第2節社会保険給付費 【到達目標】 社会保険の財政状況の概要がつかめるようになる。 社会保険の財源を理解し、概要がつかめるようになる。				12	【授業単元】 第5章 社会保険制度の体系、第3節年金制度の概要② 【到達目標】 遺族年金および障害年金の概要を理解する。どういったケースの場合に遺族年金や障害年金を受け取ることができるのか、また誰が受け取れるのかを把握する。			
5	【授業単元】 第3章の続き 第3節国民負担率、第4節社会保険と経済 第4章 社会保険・社会扶助・民間保険の関係 第1節保険と扶助の考え方 【到達目標】 社会保険の統計について、数字で把握し、現状を説明できるようにする。 保険と扶助の考え方を理解し何が異なるのか説明できるようにする。				13	【授業単元】 第5章 社会保険制度の体系、第3節年金制度の概要③ 【到達目標】 企業年金と個人年金の仕組みを理解する。公的年金の補完としてこれらの年金を活用できるようにする。			
6	【授業単元】 第4章の続き、第2節社会保険と社会扶助の考え方 第3節 社会保険と民間保険の現状 【到達目標】 社会保険と民間保険の違いを把握できるようにする。 具体的な民間保険の仕組みを学び、実際に加入時に活かせるようになる。				14	【授業単元】 ここまでのまとめ 【到達目標】 問題演習により、ここまでの内容を再確認していく。各項目における重要度の高い内容を再度理解する。			
7	【授業単元】 第4章の民間保険のまとめ 【到達目標】 様々な民間保険の仕組みを学び、社会保険の補完的な役割として活用できるようにする。 どういった場合にどんな保険に加入すべきか理解する。				15	【授業単元】 期末試験 【到達目標】 期末試験で合格点に到達する			
8	【授業単元】 第5章 社会保険制度の体系 第1節医療保険制度の概要① 【到達目標】 健康保険制度の仕組みを理解し、ご自身がどの健康保険に加入しているのか、どういった場合に活用できそうなのか理解する。				【成績評価の方法と基準】 期末試験問題をもとに成績評価を行う。 問題は国家試験と同レベルとし、総合評点が 60～69点・・・D 70～79点・・・C 80～89点・・・B 90～100点・・・Aとする。 59点以下はFとし、出席不良はEとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
日頃から社会保険に関心を持ち、新聞やニュース、雑誌などで改正点や最新情報を把握しておくこと。									

授 業 概 要

科目名	心理学実験	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	福井 博一	
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
次の2点を目標とする。 ①心理学実験が心理学研究ひいては臨床実践の基礎にあることについて理解し、説明することができる。 ②さまざまな心理学実験の方法と実際について理解し、説明することができる。								
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士の資格保有者である講師が、公認心理師として研究の基礎となり、ひいては、現場に通じる心理学実験に関する授業を行う。								
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】			
教科書は特に指定しない。必要に応じて関連資料を配布する。また、適宜、参考文献を紹介する。					配布資料をもとに授業の復習をしっかりと行うこと。参考文献を読んでさらに理解を深めること。			
コマ	授業計画			コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ・オリエンテーション ・心理学実験の概要～その1～			9	【授業単元】 ・心理学実験の実際～その1～			
	【到達目標】 ・心理学実験の授業の目的・予定・進め方について理解し、説明することができる。 ・心理学および公認心理師における心理学実験の位置づけについて理解し、説明することができる。 ・「ミューラー・リヤー錯視」について理解し、説明することができる。				【到達目標】 ・心理学実験を行い・レポートとしてまとめるための基本事項について理解し、説明することができる～その1～。 *標準的レポートを授業中に作成して提出。			
2	【授業単元】 ・心理学実験の概要～その2～			10	【授業単元】 ・心理学実験の実際～その2～			
	【到達目標】 ・心理学研究における心理学実験の位置づけについて理解し、説明することができる。				【到達目標】 ・心理学実験を行い・レポートとしてまとめるための基本事項について理解し、説明することができる～その2～。			
3	【授業単元】 ・さまざまな心理学実験～その1～			11	【授業単元】 ・心理学実験の実際～その3～			
	【到達目標】 ・動物を対象とした心理学実験について理解し、説明することができる。 ・「ラットのレバー押しの実験」について理解し、説明することができる。				【到達目標】 ・心理学実験を行い・レポートとしてまとめるための基本事項について理解し、説明することができる～その3～。			
4	【授業単元】 ・さまざまな心理学実験～その2～			12	【授業単元】 ・心理学実験の実際～その4～			
	【到達目標】 ・学習に関する心理学実験について理解し、説明することができる。 ・「顔映描写」について理解し、説明することができる。 *標準的レポートを授業中に作成して提出。				【到達目標】 ・心理学実験を行い・レポートとしてまとめるための基本事項について理解し、説明することができる～その4～。 *標準的レポートを授業中に作成して提出。			
5	【授業単元】 ・さまざまな心理学実験～その3～			13	【授業単元】 ・心理学実験の実際～その5～			
	【到達目標】 ・感覚・知覚を対象とした心理学実験について理解し、説明することができる。 ・「触角の二点弁別」について理解し、説明することができる。 *標準的レポートを授業中に作成して提出。				【到達目標】 ・心理学実験を行い・レポートとしてまとめるための基本事項について理解し、説明することができる～その5～。 *標準的レポートを授業中に作成して提出。			
6	【授業単元】 ・さまざまな心理学実験～その4～			14	【授業単元】 ・心理学実験の実際～その6～			
	【到達目標】 ・記憶を対象とした心理学実験について理解し、説明することができる。 ・「系列位置効果」について理解し、説明することができる。 *標準的レポートを授業中に作成して提出。				【到達目標】 ・心理学実験を行い・レポートとしてまとめるための基本事項について理解し、説明することができる～その5～。 *標準的レポートを授業中に作成して提出。			
7	【授業単元】 ・さまざまな心理学実験～その5～			15	【授業単元】 ・定期試験			
	【到達目標】 ・感情を対象とした心理学実験について理解し、説明することができる。 ・「表情研究」について理解し、説明することができる。 *標準的レポートを授業中に作成して提出。				【到達目標】 ・1～14回目の振り返りを行い、その内容を理解し、説明することができる。 ・定期試験を実施する。			
8	【授業単元】 ・中テスト			【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 ・1～7回目の振り返りを行い、その内容を理解し、説明することができる。			・定期試験60%、毎回授業の小テスト40%の配分で総合し、A～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小点数以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】								
ひとつひとつの実験を研究にそじて現場に、どのように活かすことができるのかをふねに意識しながら授業に臨むこと。随時、グループワークを行うので積極的に参加すること。								

授 業 概 要

科目名	知覚・認知心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	佐々木 将人		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
知覚・認知心理学の基礎知識を理解し、それを実際の臨床場面で活用するためのきっかけづくりが目標です。具体的には、「人の感覚と知覚などの機序とその障害」「人の認知と思考などの機序とその障害」についてそれぞれ理解し、それを説明できるようになることを目指します。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
担当教員は、医療領域において豊富な実務経験を持っており、なかでも臨床研究(薬の開発)に携わってきました。本授業では、その経験を活かし、教員が一方向的に講義をするのではなく、生徒との積極的なやり取りを重視した授業を実施します。したがって、毎回の授業では、授業計画に基づき、ディスカッションやグループワークを取り入れた形式で知覚・認知心理学について考えていくことになります。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用教科書：知覚・認知心理学（遠見書房） 教材：各回での配布資料					授業で本科目のすべてを網羅することはとても難しく、本授業はあくまできっかけの1つに過ぎません。本科目に関する文献は教科書以外にもたくさんありますので、いくつか読み比べてみてください。さらに可能であれば、研究論文に触れることも望ましいです。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 知覚・認知心理学とは 【到達目標】 心理学史を知り、知覚・認知心理学の特徴について理解する。				9	【授業単元】 知識の表象と構造 【到達目標】 知識の表象と構造について理解し、その特徴について(発表を通して)説明できる。			
2	【授業単元】 感覚 【到達目標】 感覚について理解する。				10	【授業単元】 イメージの性質と機能 【到達目標】 イメージの性質と機能について理解し、その特徴について(発表を通して)説明できる。			
3	【授業単元】 視知覚 【到達目標】 視知覚について理解し、その特徴について(発表を通して)説明できる。				11	【授業単元】 問題解決・推論・意思決定 【到達目標】 問題解決・推論・意思決定について理解し、その特徴について(発表を通して)説明できる。			
4	【授業単元】 聴知覚 【到達目標】 聴知覚について理解し、その特徴について(発表を通して)説明できる。				12	【授業単元】 認知の個人差 【到達目標】 認知の個人差について理解し、その特徴について(発表を通して)説明できる。			
5	【授業単元】 感性 【到達目標】 感性について理解し、その特徴について(発表を通して)説明できる。				13	【授業単元】 知覚・認知の障害 【到達目標】 知覚・認知の障害について理解し、その特徴について(発表を通して)説明できる。			
6	【授業単元】 注意 【到達目標】 注意について理解し、その特徴について(発表を通して)説明できる。				14	【授業単元】 実際の臨床場面での活用について 【到達目標】 実際の臨床場面において、知覚・認知心理学をどのように活用しているのか、について理解する。			
7	【授業単元】 記憶 【到達目標】 記憶について理解し、その特徴について(発表を通して)説明できる。				15	【授業単元】 定期テスト実施 【到達目標】 第1回目から14回目までの学習を理解できている。			
8	【授業単元】 中間テスト実施 【到達目標】 第1回から第7回までの内容を理解できている。				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
毎回の授業は、教員と生徒の双方向なやり取りによって展開していきます。そのため、本科目に興味関心を持って授業に臨むことを期待します。また、事前に教科書を何度か読んでおくとうれしいです。									

授 業 概 要

科目名	神経・生理心理学	必修選択	必修選択	開講区分	後期	担当教員	阿相周一		
学科コード	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
神経・生理心理学では、心理学の学問対象である「心」、すなわち、「脳」をテーマとし、その基礎的な理解を獲得する。具体的には、以下の通りである。・脳の構造と仕組み・生理機能の構造と仕組み・脳と生理機能の評価方法の理解									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
担当教員は、臨床心理士・公認心理師として医療や教育、治療等の分野で臨床実践をしている。その臨床経験を活かし、架空事例を交えながら心理学を概観する。毎回の授業は、ディスカッションやグループワークも取り入れ、担当教員と生徒、生徒同士といったように双方向のコミュニケーションを重視し、学習内容の理解を深める。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用教科書：公認心理師の基礎と実践 神経・生理心理学 遠見書房 参考図書：各授業で適宜指示					本科目に関する図書は、使用教科書以外にも数多くあります。授業で教示する参考図書を、可能であれば、ぜひ読み比べてみてください。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 科目オリエンテーション				9	【授業単元】 記憶の障害と評価方法 9章			
	【到達目標】 脳を学ぶ意義を説明することができる					【到達目標】 ・記憶の障害と評価方法を説明できる			
2	【授業単元】 神経の構造とメカニズム 1章、2章、16章				10	【授業単元】 注意の障害と評価方法 10章			
	【到達目標】 ・神経の構造とメカニズムを説明できる					【到達目標】 ・注意の障害と評価方法を説明できる			
3	【授業単元】 神経・生理心理学の方法論・測定法 3章、4章、16章				11	【授業単元】 遂行機能の障害と評価方法 11章			
	【到達目標】 ・神経・生理心理学の方法論・測定法を説明できる					【到達目標】 ・遂行機能の障害と評価方法を説明できる			
4	【授業単元】 視覚・聴覚の障害と評価方法 5章				12	【授業単元】 神経疾患のタイプと障害 12章			
	【到達目標】 ・視覚・聴覚の障害と評価方法を説明できる					【到達目標】 ・神経疾患のタイプと障害を説明できる			
5	【授業単元】 体性感覚と運動の障害の評価方法 6章				13	【授業単元】 認知リハビリテーション 13章			
	【到達目標】 ・体性感覚と運動の障害の評価方法を説明できる					【到達目標】 ・認知リハビリテーションを説明できる			
6	【授業単元】 言語の障害と評価方法 7章				14	【授業単元】 脳波と画像研究、睡眠 14章、15章、17章			
	【到達目標】 ・言語の障害と評価方法を説明できる					【到達目標】 ・脳波と画像研究、睡眠を説明できる			
7	【授業単元】 情緒の障害と評価方法 8章				15	【授業単元】 定期テスト 終了後、解答解説			
	【到達目標】 ・情緒の障害と評価方法を説明できる					【到達目標】 第1回から第14回までの学習内容を取得できている			
8	【授業単元】 中テスト 授業の振り返り				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で割合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 第1回から第7回までの学習内容を取得できている								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・暗記的な学習のみならず、「なぜ」という疑問・知的好奇心を持ち積極的に学ぶ姿勢									

授 業 概 要

科目名	社会・集団・家族心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	本 荘 繁		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
基礎心理学として、社会的状況、集団的状況、家族関係の中で、人の意識、行動がどのような影響を受けるかを理解することを目標とする。具体的には、他者の認知、態度と行動の関係、他者との相互関係、集団心理学、家族の人間関係について基礎的な理解を目指し、社会的動物である人間の心理を踏まえた支援に役立てることである。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
長きにわたり専門学校で心理学、カウンセリングなどの科目を担当し、また、高齢施設、ホスピス等で研修を積み、関連著作を刊行している教員が、個人が社会、集団、家族のネットワークの中で、どのような心理状態を示す傾向があるかを、様々な例を通して、考え、学ぶ機会を提供したい。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
参考図書「社会・集団・家族心理学」(竹村和久編 遠見書房)「家族関係・集団・地域社会」(野島一彦・岡村達也監修 木立の文庫)「公認心理師 必修テキスト」(福島哲夫ほか編 学研メディカル社)					日常生活(学校生活、アルバイト、家族関係その他)の中で、集団や家族という視点から人間関係を考えて、個人のときの認知、判断、意志決定とどう違うかを折りに触れて考えることを求めます。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 社会・集団・家族の心理とは				9	【授業単元】 社会的相互作用			
	【到達目標】 社会的状況では、人の心理は個人的状況とどう違うかを、例を挙げて説明できる。 社会心理学では、歴史的に人間をどう捉えてきたかを説明できる。					【到達目標】 相互依存性理論を説明できる。 四人のジレンマについて説明できる。 四人のジレンマが、具体的などんな社会的相互作用の理解に役立つか指摘できる。			
2	【授業単元】 対人認知				10	【授業単元】 対人関係の形成と発展			
	【到達目標】 人は他者をどう理解しているかを説明できる。 帰属について説明できる。 認知資源の節約のために陥りやすい認知の歪みを指摘できる。					【到達目標】 対人魅力に影響する要因を列挙し、説明できる。 対人魅力と対人関係の進展の関係について説明できる。 関係を維持したり、葛藤を処理する方法を説明できる。			
3	【授業単元】 態度と行動				11	【授業単元】 家族の人間関係			
	【到達目標】 態度が行動をどう予測できるかを説明できる。 態度の測定法について説明できる。 態度形成に影響する要因を指摘できる。					【到達目標】 家族の変遷と現在家族の特徴を説明できる。 家族のライフサイクルを説明できる。 家族内で発生する暴力のメカニズムを説明できる。			
4	【授業単元】 ステレオタイプと偏見				12	【授業単元】 ソーシャルサポート			
	【到達目標】 ステレオタイプや偏見が起こりやすい条件を説明できる 確証バイアスについて説明できる。 ステレオタイプを説明するモデルを2つ説明できる。					【到達目標】 ソーシャルサポートのストレス緩和に及ぼすメカニズムを説明できる。 ソーシャルサポートの持つ機能を説明できる。 家族のソーシャルサポートの特徴を説明できる。			
5	【授業単元】 援助と攻撃(向社会的行動と反社会的行動)				13	【授業単元】 文化と社会心理			
	【到達目標】 援助行動に影響する要因を説明できる。 攻撃行動に影響する要因を説明できる。					【到達目標】 心の文化・社会依存性を具体的に説明できる。 自己・感情・認知に及ぼす文化の影響を説明できる。 別文化へ適応に必要な要因を説明できる。			
6	【授業単元】 社会的促進と社会的抑制				14	【授業単元】 集合行動とコミュニケーション			
	【到達目標】 社会的促進の動因理論を説明できる。 社会的手抜きを防止する方法を指摘できる。 社会的抑制、社会的促進、社会的手抜きの相違を説明できる。					【到達目標】 集合と集団の違いを説明できる。 集合行動に影響する心理過程を説明できる。 マスコミュニケーションと集合行動の関連を説明できる。			
7	【授業単元】 社会的影響				15	【授業単元】 定期試験 (60点)			
	【到達目標】 同調行動にはどのような要因が関わっているか説明できる。 服従はなぜ起こり、非人間的な服従を阻止する条件を述べられる。 説得の意義と、説得技法について説明できる。					【到達目標】 終了後に解答・解説、および社会・集団・家族心理学の内容総括。			
8	【授業単元】 集団過程 【中テスト】				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Eの5段階で評価する。 試験は筆記試験で行う。 毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 社会的アイデンティティの獲得と自己カテゴリー化の関係を説明できる。 内集団バイアスと外集団へのステレオタイプが発生するプロセスを説明できる。 効果的なリーダーシップを発揮するための条件を指摘できる。 集団極性化を起こす要因と対処法を指摘できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
新聞やテレビで報道される集団や家族の問題について、折りに触れて注意すること。授業で出てきたテーマと関連づけてみるようにしてほしい。さらに授業に当たっては、ペアワーク、グループワーク中心になるので、積極的に意見を									

授 業 概 要

科目名	心理的アセスメント	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	福井 博一		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
次の2点を目標とする。 ①心理的アセスメントの目的と意義について理解し、説明することができる。 ②心理的アセスメントの方法と実際について理解し、説明することができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士として、あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に応じながら心理的アセスメントを5年以上経験してきた講師が、患者や利用者とかかわるために必要とされる、心理的アセスメントに関する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教科書は特に指定しない。必要に応じて関連資料を配布する。また、適宜、参考文献を紹介する。					配布資料をもとに授業の復習をしっかりと行うこと。参考文献を読んでさらに理解を深めること。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1・2	【授業単元】 ・オリエンテーション ・心理的アセスメント総論～その1～ ・心理的アセスメント総論～その2～ 【到達目標】 ・本科目の目標・予定・進め方について理解し、説明することができる。 ・心理的アセスメントの目的・対象・内容・方法の概要について理解し、説明することができる。 ・心理的アセスメントのプロセスについて理解し、説明することができる。				17・18	【授業単元】 ・検査法の実際と事例～その7～ ・検査法の実際と事例～その8～ 【到達目標】 ・投映法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～バウム・テスト～。 ・投映法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～HTP他～。			
3・4	【授業単元】 ・心理的アセスメント総論～その3～ ・心理的アセスメント総論～その4～ 【到達目標】 ・心理的アセスメントと精神医学的診断の異同について理解し、説明することができる。 ・心理的アセスメントと病理水準の関連について理解し、説明することができる。				19・20	【授業単元】 ・検査法の実際と事例～その9～ ・検査法の実際と事例～その10～ 【到達目標】 ・投映法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる ～ロールシャッハ・テスト①②～。			
5・6	【授業単元】 ・心理的アセスメント総論～その5～ ・心理的アセスメント総論～その6～ 【到達目標】 ・行動観察法と面接法について理解し、説明することができる①。 ・行動観察法と面接法について理解し、説明することができる②。				21・22	【授業単元】 ・検査法の実際と事例～その11～ ・検査法の実際と事例～その12～ 【到達目標】 ・投映法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる ～ロールシャッハ・テスト③④～。			
7・8	【授業単元】 ・心理的アセスメント総論～その7～ ・心理的アセスメント総論～その8～ 【到達目標】 ・認知行動療法における心理的アセスメントについて理解し、説明することができる①。 ・認知行動療法における心理的アセスメントについて理解し、説明することができる②。				23・24	【授業単元】 ・検査法の実際と事例～その13～ ・検査法の実際と事例～その14～ 【到達目標】 ・投映法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～TAT・PFスタディ～。 ・投映法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～SCT～。			
9・10	【授業単元】 ・心理的アセスメント総論～その9～ ・心理的アセスメント総論～その10～ 【到達目標】 ・心理的アセスメントにおける検査法とその分類について理解し、説明することができる。 ・テスト・バッテリーについて理解し、説明することができる。				25・26	【授業単元】 ・検査法の実際と事例～その15～ ・検査法の実際と事例～その16～ 【到達目標】 ・知能検査の具体的方法と事例について理解し、説明することができる ～ウェクスラー法①②～。			
11・12	【授業単元】 ・検査法の実際と事例～その1～ ・検査法の実際と事例～その2～ 【到達目標】 ・質問紙法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～MMPI～。 ・質問紙法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～CMI他～。				27・28	【授業単元】 ・検査法の実際と事例～その17～ ・検査法の実際と事例～その18～ 【到達目標】 ・知能検査の具体的方法と事例について理解し、説明することができる ～ウェクスラー法③④～。			
13・14	【授業単元】 ・検査法の実際と事例～その3～ ・検査法の実際と事例～その4～ 【到達目標】 ・質問紙法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～SDS他～。 ・質問紙法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～MMSE他～。				29・30	【授業単元】 ・17回目～28回目までの振り返り ・定期試験 【到達目標】 ・17回目～28回目までの振り返りを行い、その内容を理解し、説明することができる。 ・定期試験を実施する。			
15・16	【授業単元】 ・検査法の実際と事例～その5～ ・前半15回の振り返り 【到達目標】 ・作業検査法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～内田クレーピン～。 ・前半15回の振り返りを行い、その内容を理解し、説明することができる。				【成績評価の方法と基準】 ・定期試験60%、毎回授業の小テスト40%の配分で総合し、A～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業内容を現場にどのように活かすことができるのかをつねに意識しながら臨むこと。また、随時、グループワークやロールプレイを実施するので積極的に参加すること。									

授 業 概 要

科目名	健康・医療心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	久保田 康文		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	講義・演習	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1 ストレスと心身の疾病との関係について理解できる。 2 医療現場における心理社会的課題及び必要な支援について理解できる。 3 保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援について理解できる。 4 災害時等に必要心理に關する支援について理解できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
精神科医療や教育現場(スクールカウンセラー・教育相談)の中で、認知行動療法をベースにした関わりをしてきた教員が、公認心理師を目指すために、具体的な取り組みを紹介しながら、障害者(児)の理解と支援方法を習得する授業を行う。さらに、グループでの発表やグループワークを通して、障害の支援のあり方を振り返り、今、どのような支援が必要か、自らの考えを理解を深め、心理師として多角的な視点と専門的な知識を併せ持つスペシャリストを目指して欲しい。講義は、パワーポイントを用いて行い、必要に応じて、発表やグループワークを取り入れ、DVDなどの映像や技法の実技を取り入れた授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用図書:健康医療心理学 遠見書房					授業を通して「理解」「考え」「体験」し、そしてそれらをより深めるための自主的な学習そして体験が、現場で役立つものとなるでしょう。自らの学びの中で疑問点などを積極的に質問してより学びを深めてください。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション、健康心理学の概論				9	【授業単元】 総合病院のチーム医療における公認心理師の活動(グループ発表)			
	【到達目標】 カリキュラムの中で、健康心理学の位置付けを説明できる。 健康心理学で学ぶ4つの目標を説明できる。 健康心理学の基本となる理念について説明できる。					【到達目標】 患者が抱える多様な心理の特徴や問題についてのアセスメントについて説明できる。 総合病院における心理的支援・介入・心理療法について説明できる。 身体疾患患者のメンタルケアの重要性について説明できる。			
2	【授業単元】 ストレスと生理学				10	【授業単元】 高齢者医療における公認心理師の活動(グループ発表)			
	【到達目標】 ストレスと生理的現象について説明できる。 心理社会的なストレス理論への展開について説明できる。 ストレスと健康について説明できる。					【到達目標】 認知症の予兆やBPSD(行動と心理の症状)について説明できる。 老年期の老化に伴う身体症状とストレスと対象について説明できる。 認知症のリスクや老年うつ病、せん妄について説明できる。 高齢者に対して適切な心理的支援の目的と意義、そして心理的支援や心理療法について説明できる。			
3	【授業単元】 ストレスによる心身の疾病と行動医学				11	【授業単元】 医療観察法指定医療機関における公認心理師の活動(グループ発表)			
	【到達目標】 ストレスと心身の疾病について説明できる。 心身症について説明できる。 行動医学、予防医学、ストレスチェックテスト制度について説明できる					【到達目標】 医療観察法の目的を説明できる。 医療観察法の対象者について説明できる。 多職種チーム・アプローチについて説明できる。			
4	【授業単元】 健康心理学とポジティブ心理学				12	【授業単元】 健康支援活動における心理学的支援(薬物依存)			
	【到達目標】 ポジティブ心理学の主要な3つのテーマについて説明できる。 ポジティブ心理学の意義・利点と実践方法を説明できる。 薬物の社会的影響の分類について説明できる。 心臓的ウェルビーイングの6次元について説明できる。					【到達目標】 薬物依存による健康への影響について説明できる。 薬物依存患者の心理的背景について説明できる。 薬物依存患者への心理学的支援法について説明できる。			
5	【授業単元】 精神科における公認心理師の活動(グループ発表)				13	【授業単元】 自殺対策			
	【到達目標】 精神科の患者の心理の特徴について説明できる。 精神科チーム医療におけるアセスメントと公認心理師の役割を説明できる。 精神科の心理的介入における基本的な考え方について説明できる。					【到達目標】 日本の自殺の現状と対策について説明できる。 自殺の心理学的背景を説明できる。 自殺対策に主体的に関わる事が重要であることを説明できる。			
6	【授業単元】 心身医学(心療内科など)における公認心理師の活動(グループ発表)				14	【授業単元】 災害被災者の心理と支援			
	【到達目標】 心身医学について説明できる。 心療内科のチーム医療について説明できる。 診療の経過について説明できる。 心療内科で使われる心理療法、心療療法について説明できる。					【到達目標】 被災後に生じる主な心理学的問題について説明できる。 災害後の心理プロセスについて説明できる。 災害直後の被災者支援(サイコロジカル・ファーストエイド)について説明できる。			
7	【授業単元】 小児医療・母子保健領域における公認心理師の活動(グループ発表)				15	【授業単元】 これからの公認心理師としてのあり方 定期試験			
	【到達目標】 小児医療で求められる心理師の役割について説明できる。 小児医療での診療報酬上の位置づけについて説明できる。 小児医療及び母子保健領域の課題について説明できる。					【到達目標】 これまで習った内容を説明できる。 これまで習ったことなどをどのように活かすことができるか自分の考えを説明できる。			
8	【授業単元】 中テスト(15満点)、脳神経内科・リハビリテーション領域における公認心理師の活動(グループ発表)				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 脳神経内科・リハビリテーション領域における主要疾患について説明できる。 脳神経内科・リハビリテーション領域における心理的アセスメントの重要性を説明できる。 主要疾患の精神・行動の特徴について説明できる。 主要疾患の心理的支援やリハビリテーションについて説明できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
心理師の多くは医療分野で働いています。つまり、医療分野の理解は不可欠です。自分なりに知識を深め、積極的に質問をしてください。グループ発表やロールプレーなどもしていきますので欠席や遅刻がないようにしてください。									

授 業 概 要

科目名	司法・犯罪心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	本 荘 繁		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
公認心理師の担当する5分野のうち、司法・犯罪領域について、司法・犯罪心理学の基礎的知識を学ぶことを目標とする。具体的には、非行・犯罪の原因論、犯罪・非行の加害者や被害者の心理と支援法、面接や取り調べの方法、犯罪のパーソナリティ要因、心の病と犯罪との関係等について自ら考え、適切な支援法を工夫できることである。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
長きにわたり専門学校で心理学、カウンセリングなどの科目を担当し、また、高齢施設、ホスピス等で研修を積み、関連著作を刊行している教員が、犯罪加害者のアセスメントと支援、被害者の理解と支援、少年保護、離婚と子どもの心理等への理解と支援法を考えていくための問題提起と知識を伝え、ともに考えていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
参考図書「司法・犯罪心理学」(岡本吉生編 遠見書房)「公認心理師分野別テキスト4 司法・犯罪分野 理論と支援の展開」(野島一彦監修 創元社)「公認心理師 必携テキスト」(福島哲夫ほか編 学研メディカル社)					新聞・テレビなどの事件や裁判に関する記事に関心を持って読んだり視聴して、公認心理師としてどのようなアプローチができるかを考えてみることを求める。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 犯罪とは何か 【到達目標】 犯罪の定義を説明できる。 犯罪の原因を生物・心理・社会モデルで考えることができる。 犯罪の発生の考え方を3つあげ、説明できる。				9	【授業単元】 犯罪のパーソナリティ要因 【到達目標】 特定の犯罪事象を生物学的、心理的、社会的文脈の3側面から判断、説明できる。 精神病質、反社会性パーソナリティ障害、サイコパスの概念を説明できる。 精神病質、パーソナリティ障害と犯罪の関係を説明できる。			
2	【授業単元】 事実への接近のための面接法 【到達目標】 司法・犯罪領域でなぜ、事実を重視するかを説明できる。 事例を通して、客観的事実と主観的事実を区別することができる。 臨床面接と調査面接の違いを説明できる。				10	【授業単元】 こころの病いと犯罪 【到達目標】 精神障害と犯罪の関係を説明できる。 精神障害者が裁判を受ける権利について、自分の意見を述べられる。 精神鑑定、心神喪失、心神耗弱を説明できる。 医療観察法指定医療機関における対象者への支援について説明できる。			
3	【授業単元】 少年犯罪における法律と制度 【到達目標】 少年法の理念を述べられる。 少年法手続きの大まかさを説明できる。 少年法の適用年齢引き下げについて、問題点を指摘できる。				11	【授業単元】 犯罪被害者への心理的支援① 【到達目標】 我が国の犯罪被害者支援制度の概略を説明できる。 PTSD、悲嘆の心理など、犯罪被害者にみられる心理的苦痛の特徴を説明できる。 刑事司法手続きにおける犯罪被害者支援、家庭・学校・地域における支援の例を説明できる。			
4	【授業単元】 犯罪類型と心理支援 【到達目標】 犯罪類型の主なものを列挙できる。 犯罪類型それぞれの概要を説明できる。 犯罪類型による理解の意義を述べられる。				12	【授業単元】 犯罪被害者への心理的支援② 【到達目標】 被害者学における犯罪に遭いやすい一般的な条件を指摘できる。 DV被害者がなりやすい心理状態を説明できる。 振り込み詐欺被害者に遭いやすい高齢者の心理を説明できる。 犯罪被害者と話しをし、面接を行う際の基本的姿勢を述べられる。			
5	【授業単元】 科学的な捜査と心理学 【到達目標】 犯罪者プロファイリングとはどのような技術であるか説明できる。 被疑者の取り調べ時に留意すべき心理学的観点を説明できる。 ポリグラフ検査のメカニズムと証拠としての意義を説明できる。				13	【授業単元】 離婚と子どもの心理 【到達目標】 統計から見た日本の離婚の現状を説明できる。 離婚の6側面が説明できる。 離婚のプロセスを説明できる。 親の離婚を経験する子どもの心理について説明できる。			
6	【授業単元】 犯罪加害者のアセスメント(情状鑑定) 【到達目標】 我が国の刑罰の考え方と意味を説明できる。 犯罪者の執行猶予中の心境の変化について、周囲の人間関係との関係から説明できる。 情状鑑定の目的と付随的効果を説明できる。				14	【授業単元】 離婚後の家族関係と子どもの支援 【到達目標】 日本の離婚家庭の現状を説明できる。 離婚後の単独親権制度を説明できる。 面会交流を説明できる。 ステップファミリーを説明できる。			
7	【授業単元】 非行少年の心理アセスメント 【到達目標】 犯罪・非行臨床場面の特徴とアセスメントの留意事項を説明できる。 リスク・ニーズアセスメント等の刑事司法分野②特有のアセスメント手法を説明できる。 保護観察官と保護司更生保護サポーター等による、更生保護制度について説明できる。				15	【授業単元】 定期試験 60点 【到達目標】 終了後に解答解説、および司法・犯罪心理学の内容総括。			
8	【授業単元】 非行少年への心理アセスメント(更生保護)【中テスト】 【到達目標】 非行少年に対する心理的支援の必要性和意義を述べられる。 少年非行に関連する機関で実施されている具体的な支援活動(処遇)を説明できる。 少年非行の処遇を担当する専門職の役割、及び地域サポーターの役割を説明できる。				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Eの5段階で評価する。 試験は筆記試験で行う。 毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
新聞やテレビで報道される犯罪・司法の問題について、折りに触れて注意すること。授業で出てきたテーマと関連づけてみるようにしてほしい。さらに授業に当たっては、ペアワーク、グループワーク中心になるので、積極的に意見を述べ									

授 業 概 要

科目名	心理演習	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	福井 博一		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
公認心理師として活動するための知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とする。 その際、次に掲げる事項について、心理学的支援における具体的な諸問題・事例を取り上げて検討する。 (1)心理面接、(2)心理査定									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士として、あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に応じながら心理学的支援を行ってきた講師が、クライアントや利用者とかかわるために必要とされる、心理学的支援の実践に関する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教科書は特に指定しない。必要に応じて関連資料を配布する。また、適宜、参考文献を紹介する。					配布資料をもとに授業の復習をしっかりと行うこと。参考文献を読んでさらに理解を深めること。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1・2	【授業単元】 心理演習総論1・2 【到達目標】 1 本科目の目的・予定・進め方について理解し、説明することができる。 2 心理学的支援において共通する諸事象について理解し、説明することができる。その1				17・18	【授業単元】 心理査定3・4 【到達目標】 19・20 描画法の事例を通して、心理学的支援および心理査定の基礎について理解し、説明することができる。その3・その4			
3・4	【授業単元】 心理演習総論3・4 【到達目標】 3 心理学的支援において共通する諸事象について理解し、説明することができる。その2 4 心理学的支援の事例を通して、心理学的支援の基礎について理解し、説明することができる。その1				19・20	【授業単元】 心理査定5・6 【到達目標】 19・20 描画法の事例を通して、心理学的支援および心理査定の基礎について理解し、説明することができる。その5・その6			
5・6	【授業単元】 心理演習総論5・6 【到達目標】 5・6 心理学的支援の事例を通して、心理学的支援の基礎について理解し、説明することができる。その2・その3				21・22	【授業単元】 心理査定7・8 【到達目標】 21・22 質問紙法(性格検査)の事例を通して、心理学的支援および心理査定の基礎について理解し、説明することができる。その1・その2			
7・8	【授業単元】 心理演習総論7・8 【到達目標】 7・8 心理学的支援の事例を通して、心理学的支援の基礎について理解し、説明することができる。その4・その5				23・24	【授業単元】 心理査定9・10 【到達目標】 23・24 質問紙法(性格検査)の事例を通して、心理学的支援および心理査定の基礎について理解し、説明することができる。その3・その4			
9・10	【授業単元】 心理面接各論1・2 【到達目標】 9・10 プレイセラピーの事例を通して、心理学的支援の基礎について理解し、説明することができる。その1・その2				25・26	【授業単元】 心理査定11・12 【到達目標】 25・26 質問紙法(性格検査)の事例を通して、心理学的支援および心理査定の基礎について理解し、説明することができる。その5・その6			
11・12	【授業単元】 心理面接3・4 【到達目標】 11・12 親子面接の事例を通して、心理学的支援の基礎について理解し、説明することができる。その1・その2				27・28	【授業単元】 心理査定13・14 【到達目標】 27・28 知能検査の事例を通して、心理学的支援および心理査定の基礎について理解し、説明することができる。その1・その2			
13・14	【授業単元】 心理面接5・6 【到達目標】 13・14 親子面接の事例を通して、心理学的支援の基礎について理解し、説明することができる。その3・その4				29・30	【授業単元】 心理査定15 定期試験 【到達目標】 29 知能検査の事例を通して、心理学的支援および心理査定の基礎について理解し、説明することができる。その3 30 授業の振り返りを行い定期試験を実施する。			
15・16	【授業単元】 心理査定1・2 【到達目標】 15・16 描画法の事例を通して、心理学的支援および心理査定の基礎について理解し、説明することができる。その1・その2				【成績評価の方法と基準】 ・定期試験60%、毎回授業の小テスト40%の配分で総合し、A～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点とし、その合計145点(5点×29回=135点)を40点満点に換算した点数(小数点切り上げ)を、小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業内容を現場にどのように活かすことができるのかをつねに意識しながら臨むこと。また、随時、グループワークやロールプレイを実施するので積極的に参加すること。									

授 業 概 要

科目名	心理実習	必修 選択の別	必修	開講 区分	前・後期	担当 教員	実習指導者				
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	実習	単位数	1	単位	総時間数	80	時間
【授業を通じての到達目標】											
保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野における見学等による実習を通して、①心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、②多職種や地域連携、③支援に際する職業倫理や法的義務についての理解する。											
【学習内容】 （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
各実習先において、心理に関する実務経験（法第2条各号に掲げる行為の業務に5年以上従事）のある実習指導者が、心理演習担当教員および学科教員と連携し、見学および実習先事業所における心理的支援に関する講義や説明・支援対象者とのコミュニケーション・支援対象者の事例に基づく支援方法の検討・学びの振り返りや学生同士のディスカッションのファシリテート等を通して指導を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項 公認心理師指定科目 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に活かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
<p>○現場実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健医療分野（精神科病院・診療所等）、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の領域 <p>※医療機関については必須</p> <p>○実習事前・事後指導を受けることとする。</p> <p>各現場実習先においては、到達目標の達成のために各実習先の実情に応じて以下について機会を提供および指導を行う。</p> <p>①心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業省における面接や日常場面についての観察 ・対象者に対する支援者の対応についての観察やミーティング等の見学 ・事業所における支援の事例についての理解 <p>②多職種連携及び地域連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所で働く他の専門職の連携の実際についての講義や業務の見学 ・事業所においてチームで取り組んでいる事例についての理解 <p>③公認心理師としての職業倫理及び法的義務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理的支援場面における職業倫理の実際についての学び ・心理的支援場面に関連する法的義務の実際について学び <p>なお、事業所の見学と合わせて以下を行うことにより、各学生の理解を促進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可能な範囲での対象者とのコミュニケーション 											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
心理師としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢で取り組むことが求められる。						・実習指導者による評価（実習施設ごと）、自己評価（実習施設ごと）、演習担当教員による評価（実習全体を通して）を換算し、A～Fの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク特別演習Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通期	担当 教員	学科教員 他						
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の 方法	演習	単位数	12	単位		総時間数	360	時間	
【授業を通じての到達目標】													
精神保健福祉士国家試験指定科目の振り返り教育を行い、指定科目の知識を深める。 3年時に行った卒業研究の集大成としての振り返りと発表を行う													
【学習内容】													
各科目について国家試験の出題範囲と出題傾向に関して知見のある教員が、ポイントの講義と模擬問題の提供、解答解説等を通して、合格に必要な知識の習得と定着に向けた指導を行う。 卒業研究の集大成として振り返りを行い、発表の準備を行う													
【使用教科書・教材・参考図書】							【授業時間外における学習】						
精神保健福祉士国家試験過去問解説集 精神保健福祉士国家試験受験ワークブック2024(共通科目・専門科目) 目で見て覚える！ 精神保健福祉士 国試ナビ2024 各授業にて配布されるレジュメ・模擬問題							既習内容の全般的な復習および苦手科目の克服に向けて、主体的かつ計画的な学習が必要である。						
授業計画													
<p>卒業研究の集大成として振り返り及び発表 ○前期前半・後半 演習形式で振り返り ○7月28日 発表</p> <p>以下の受験対策講座および年4回の模擬試験により、国家試験合格に必要な回答力を養成する。 ○後期前半 受験対策講座(オンライン) <共通科目> 人体の構造と機能及び疾病、心理学理論と心理的支援、現代社会と福祉、地域福祉の理論と方法、福祉行財政と福祉計画、社会保障、障害者に対する支援と生活保護制度、保健医療サービス <精神専門科目> 精神保健の課題と支援、精神保健福祉相談援助の基盤、精神保健福祉の理論と相談援助の展開、精神障害者の生活支援システム</p> <p>○後期後半 直前対策講座</p>													
【履修に当たっての心構え・留意点】							【成績評価の方法と基準】						
各科目に関して自身の習得内容をふまえ、国家試験合格を見ずえた計画的な学習が必要である。							各コマにおける小テストと、各科目の最終授業内で行う定期試験の点数を積算し、A~Eにて評価する。なお、テストについては、国家試験の出題形式に沿った形で行う。						

授 業 概 要

科目名	社会理論と社会システム	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	内藤 博幸	
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
社会理論としての社会システムのしくみ、文化、規範を理解する。法が社会の中で果たす役割を述べることができる。経済と社会システムの関係を理解する。社会変動と労働力の関係を説明できる。人口構造について我が国の特徴を理解する。都市化や過疎化など地域のあり方を概説できる。社会集団と組織を理解する。家族のあり方と機能について説明できる。生活様式とライフスタイルの変遷について考察する。人と社会との関係(役割、行為、ジレンマ)を理解する。具体的な社会問題(差別、貧困、社会的排除、ハラスメント、児童虐待、いじめなど)について解決策を提案する。								
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
10年以上の社会学の教員経験を持つ教員が、福祉的視野から社会システムを理解するための授業を行う。								
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】			
『新・社会福祉士養成講座4 社会理論と社会システム』中央法規					授業を受けたその日のうちに、今一度内容を確認することが重要です。そこで、必ず疑問点が、見えてくるはずですよ。			
授業計画					回	授業計画		
1	【授業単元】 1 社会学とは 2 社会学の発展 3 社会システム論 P2～20				9	【授業単元】 社会的行為と社会的役割		
	【到達目標】 ・コントの三段階の法則を説明できる ・ウェーバーの方法論的個人主義を説明できる ・デュルケイムの 方本論的集合主義を説明できる					【到達目標】 ・ウェーバーの社会的行為理論を説明出来る ・ゴッマンの演劇的行為論を説明出来る ・ハーバーマスのコミュニケー ション的行為論を説明出来る		
2	【授業単元】 1 社会指標 2 社会移動と社会階層 3 社会階級 P21～31				10	【授業単元】 社会集団と組織 P164～175		
	【到達目標】 ・社会階層と社会階級の違いを説明できる ・マルクスの史的唯物論を説明できる ・社会移動の種類を4点指摘できる					【到達目標】 ・ゲゼルシャフトとゲマインシャフトを説明出来る ・第一次集団と第二次集団を説明出来る ・コミュニティとアソシエーション の違いが言える		
3	【授業単元】 法と社会システム P32～44				11	【授業単元】 官僚制と社会的ジレンマ P170～186		
	【到達目標】 ・ウェーバーの支配の3類型を説明出来る ・ノベの方のあり方の変遷を述べることができ る ・パーソンズの意志主義的行為理論を説明出来る					【到達目標】 ・ウェーバーの支配システムを説明出来る ・マートンの官僚制批判を通じて、官僚制の弱点を指摘できる ・「共有地の悲劇」と「囚人のジレンマ」を開設で きる		
4	【授業単元】 経済と社会システム P45～57				12	【授業単元】 社会関係資本と社会的連帯 P187～197		
	【到達目標】 ・簡単な経済学理論の変遷を語る事ができる ・ジニ係数と相対的貧困率を説明出来る ・大 衆消費社会の特徴を述べることが出来る					【到達目標】 ・大衆社会の特徴を説明出来る ・権威主義的パーソナリティを説明 出来る ・なぜ注目されているかを解説できる ・社会関係資本		
5	【授業単元】 社会変動 P58～71				13	【授業単元】 社会問題のとらえ方 P200～210		
	【到達目標】 ・社会変動の意味を説明出来る ・情報化社会の特徴を述べることが出来る ・リスク社会の意味を 説明出来る					【到達目標】 ・社会的構築主義を説明出来る ・ゴッマンのスティグマを説明出来る ・ベッカーのラベリング理論を説明出来る ・サザーラ ンドの分化社会学理論を説明出来る		
6	【授業単元】 人口からみた社会変動 P72～80				14	【授業単元】 日本社会と社会問題 P211～225		
	【到達目標】 ・リースマンの理論を述べることが出来る ・少子高齢化社会に関して概要を説明できる。 ・人口動態の特徴 を説明出来る					【到達目標】 ・我が国の貧困問題に関して、解説することができる ・児童虐待について語る事が出来る ・不登校の問題を解 説できる		
7	【授業単元】 家族 P82～112				15	【授業単元】 全ての講義の総復習として振り返り授業 定期試験 60点		
	【到達目標】 ・家族の種類を3つ言える ・2種類の核家族を言える ・家族の機能を7つ言える					【到達目標】 ・すべての項目に関する疑問点を明確にして、課題を解決する ・定期試験では60%以上の正答率を目指す		
8	【授業単元】 ジェンダー 中テスト15点				【成績評価の方法と基準】 小テスト 毎回 5点満点 中テスト 第8回授業 15点満点 定期試験 15回授業 60点満点 * 小テスト・中テストは合計点を ÷2とする。			
	【到達目標】 ・ジェンダーフリーについて語る事が出来る ・フェミニズム運動について説明出来る ・日本のジェンダーフリー のレベルについて語れる							
【履修に当たっての心構え・留意点】								
配布プリントに解答を書き込むだけでなく、気が付いたことや理解に役立つこと と思ったら、どんどんメモを取っていくことです。								

授 業 概 要

科目名	福祉行財政と福祉計画		必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	吉成孝夫	
学科 コース	心理カウンセラー科		学年	4年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> 福祉行財政の実施体制(国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織、及び団体、専門職の役割を含む)について理解する。 福祉行財政の実際について理解する。 祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。 									
<p>行政や社協で計画策定などに携わった経験はないが、大学院の修士論文で特別養護老人ホームの介護保険財政について検討した経験がある。 また障害者グループホームで仕事をしながら財政と計画の重要性について痛感した経験がある。講義の中でそうした経験も共有したい。</p>									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
新・社会福祉士養成講座編集委員会 『福祉行財政と福祉計画』第5版 中央法規					毎回の小テストは講義の核心問題であるので、必ず復習すること、定期試験までにはすべての小テスト問題について確実に解説できるようになってほしい				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション及び社会福祉の概念(教科書第1章pp1～33)				9	【授業単元】 福祉計画の目的と意義(教科書第5章第1節～第2節pp107～117)			
	【到達目標】 ①本講座を学習する意義と到達目標及び評価法を理解し、学習の意欲が持てる ②社会福祉の概念について理解する ③日本における社会福祉制度の展開及び福祉計画の概要を理解する					【到達目標】 ①福祉計画とは何かを理解する ②日本における福祉計画の立場とその変遷を理解する ③地域福祉における福祉計画の意義を理解する			
2	【授業単元】 社会福祉基礎構造改革(教科書第1章p19、第2章p58、第4章pp82～83)				10	【授業単元】 福祉計画における市民・住民参加(教科書第6章第5節)			
	【到達目標】 ①憲法25条と措置制度の関係を理解する ②措置制度からいわゆる「基礎構造改革」に至るプロセスを理解する ③契約制度とは何かを理解し、福祉サービスの多様な利用方式を理解する					【到達目標】 ①社会福祉における住民参加とは何かを理解する ②住民(市民参加)の次元と機能を理解する ③地域福祉における住民参加の技法を理解する			
3	【授業単元】 福祉行政(教科書第3章pp36～55)				11	【授業単元】 福祉計画の理論と技法(教科書第6章pp121～162)			
	【到達目標】 福祉行政における中央政府(国)と地方政府(地方)の役割分担を理解する ②地方自治の歴史的変遷を学び、地方自治体とは何かを理解する ③福祉行財政制度における地方自治体の役割を理解する					【到達目標】 ①福祉計画の基本的視点を理解する ②福祉計画の過程と留意点を理解する ③福祉計画におけるニーズ把握と評価について理解する			
4	【授業単元】 福祉行政機関の役割と組織体制(教科書第4章pp81～105)				12	【授業単元】 福祉計画の実際①(教科書第7章第5節pp245～256)			
	【到達目標】 ①福祉事務所の組織及び役割を理解する ②児童相談所と身体及び知的障害者更生相談所の組織及び役割を理解する ③婦人相談所の組織及び役割を理解する					【到達目標】 ①社会福祉協議会の地域福祉活動計画について理解する ②社会福祉法における地域福祉計画の位置づけと内容を理解する ③市町村地域福祉計画及び都道府県地域福祉支援計画について理解する			
5	【授業単元】 地域の相談システムと専門職(教科書第4章第5節～第6節 pp96～105)				13	【授業単元】 福祉計画の実際②(教科書第7章第2節pp170～194)			
	【到達目標】 ①地域包括システム及び地域包括支援センターについて理解する。 ②児童、母子、障害者分野の相談システムと組織体制について理解する。 ③福祉事務所の現業員、査察指導員、児童福祉司、等について理解する。					【到達目標】 ①老人福祉計画の変遷を理解する ②老人福祉計画の概要を理解する ③介護保険事業計画について理解する			
6	【授業単元】 福祉財政①(教科書第3章福祉財政 第1節～第2節pp66～73)				14	【授業単元】 福祉計画の実際③(教科書第7章第3節pp195～226)			
	【到達目標】 ①財政とは何かを理解する ②一般会計予算と社会保障関係費の動向を 理解する ③社会保障と税の一体改革について理解する					【到達目標】 ①障害者基本計画と障害者計画の概要を理解する ②障害福祉計画における厚生労働大臣の役割を理解する ③市町村障害福祉計画及び都道府県障害福祉計画の概要を理解する			
7	【授業単元】 福祉財政②(教科書第3章福祉財政第3節～第5節pp74～80)				15	【授業単元】 福祉計画の実際④(pp227～244)			
	【到達目標】 ①地方自治体の財政と民生費の動向を理解する ②民間社会福祉事業における財源を理解する ③福祉サービスの利用と利用者負担について理解する					【到達目標】 ①子ども・子育て支援事業計画の概要を理解する ②次世代育成支援行動計画の概要を理解する			
8	【授業単元】 福祉財政③補論(教科書第3章第1節p67)				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 ①社会保障の仕組みについて理解する ②介護保険財政の財源について理解する ③後期高齢者医療制度における財源を理解する				<p>科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。</p>				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
<ul style="list-style-type: none"> 日々の新聞・テレビなどでの福祉行政・福祉財政の動向に敏感になる。政府統計などについては自分で確かめる位の気構えが必要です。また、何ことも雑呑みにせず疑問を持つことが大切です。 									

授 業 概 要

科目名	低所得者に対する支援と生活保護制度	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	吉成孝夫		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】 ・公的扶助制度の歴史及び生活保護法・生活保護制度の内容、実施体制、専門職の役割を理解する ・低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解する ・相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度にかかわる他の法制度について理解する。 自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。									
福祉事務所などでの行政事務経験はないが、2008年12月の年越し派遣村の活動や、墨田区でボランティアとして、ホームレス支援活動に参加した経験がある。貧困や格差問題の解決は今や日本社会の最重要課題である。問題を抱える人々の視点からこれらの問題に接近する態度を共に学びたい									
【使用教科書・教材・参考図書】 講座編纂委員会編『低所得者に対する支援と生活保護制度』第5版(中央法					【授業時間外における学習】 ・確認問題、復習問題は知識を定着目的で作成されていますので必ず、丁寧に時間をかけて取り組んでほしい。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ・授業オリエンテーション : 公的扶助とは何か 【到達目標】 ①本講座で具体的に何を学ぶのかを理解し、学習意欲が高まるようになる ②日本及び諸外国の公的扶助制度を概観する中で、公的扶助の概念を理解する ③公的扶助制度と社会保険制度の違いを理解する				9	【授業単元】 生活保護の財源と予算(教科書第4章第9節) 【到達目標】 ①生活保護費の基本的性格を理解する ②生活保護費に関する費用を理解する ③国家予算と保護費の関係を理解する			
	【授業単元】 貧困・低所得者問題と社会的排除(教科書第2章) 【到達目標】 ①貧困・低所得とは何か(概念定義)を生活および社会階層の観点から理解する ②貧困の定義および社会的排除に関して欧米の研究結果と貧困の実態調査を理解する ③現代における貧困・低所得者問題の諸相について理解する					【授業単元】 最低生活保障水準と生活保護基準(教科書第5章) 【到達目標】 ①最低生活保障水準の考え方を理解する ②生活保護基準について理解する ③最低生活および生活保護最低基準の実際を学ぶ			
2	【授業単元】 公的扶助制度の歴史①—欧米—(教科書第3章・第1節) 【到達目標】 ①イギリスを中心に旧教養法制定の背景と内容及び社会情勢上の意義について理解する ②1834年の新教養法の歴史的背景とその内容及びその影響について学ぶ ③資本主義経済体制の進展の中で、貧困問題の解決に教養法では解決できず、やがて様々な要因の下で、公的扶助が誕生、さらに現代的展開を理解する				10	【授業単元】 生活保護の動向(教科書第6章) 【到達目標】 ①被保護者の数及び被保護世帯数の最近の動向を理解する ②保護の開始及び廃止について最近の動向を理解する ③特に医療扶助・介護扶助の最近の動向について理解する			
	【授業単元】 公的扶助制度の歴史②—日本—(教科書第3章・第2節) 【到達目標】 ①日本近代史における教養法の歴史的変遷とその内容を理解する ②第2次世界大戦後の生活保護法の制定とその内容及び意義について理解する ③近年の貧困問題の深刻化に伴う生活保護法の改正について理解する					【授業単元】 生活保護の運営・実施体制(教科書第8章) 【到達目標】 ①中央政府・地方自治体の役割を理解する ②福祉事務所の役割を理解する ③社会福祉主事の役割を理解する			
3	【授業単元】 公的扶助の役割と意義(教科書第1章第2節) 【到達目標】 ①社会保障体系の中の公的扶助の位置と役割を理解する ②セーフティネット機能としての公的扶助の意義を理解する ③ナショナルミニマムとしての公的扶助の意義と役割を理解する				11	【授業単元】 低所得者対策の概要①(教科書第7章第1節～第3節) 【到達目標】 ①生活困窮者自立支援法の概要とその事業について理解する ②生活福祉資金制度の成立過程とその概要について理解する ③社会手当制度の沿革および内容について理解する			
	【授業単元】 生活保護制度の仕組み①(第4章第1節～第2節) 【到達目標】 ①生活保護法の目的を理解する ②生活保護法の基本原則を理解する ③保護の原則を理解する					【授業単元】 低所得者対策の概要②(教科書第7章第4節～第5節pp187～203) 【到達目標】 ①ホームレス自立支援法の法制化プロセスとホームレス自立の内容について理解する ②公営住宅制度や民事法律扶助制度について理解する ③無料低額診療制度及び無料定額宿泊所その他について理解する			
4	【授業単元】 保護の種類・内容・方法及び保護施設(第4章第3節～第4節) 【到達目標】 ①生活扶助をはじめとした8種類の扶助について理解する ②生活保護における方法の意味を理解する ③保護施設の種類と種類及び主な役割を理解する				12	【授業単元】 貧困・低所得者に対する相談援助活動(教科書第9章) 【到達目標】 ①生活保護制度における相談援助活動の特徴とプロセスを理解する ②多職種との連携・協同について理解する ③相談援助活動の具体例を通して実際の援助例を理解する			
	【授業単元】 被保護者の権利と義務(教科書第4章第5節～第7節) 【到達目標】 ①被保護者の権利と義務を理解する ②いわゆる不正受給問題についての実態を調べ、どうあるべきかを学ぶ ③裁判例を通して不服申し立て及び行政事件訴訟について理解する					【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験80%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの8段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】 ・問題意識をもって授業に臨まれるのが望ましい ・貧困低所得者問題に関するテレビやニュースに関心を持ちメモを取っておくようにする。									

授 業 概 要

科目名	権利擁護と成年後見制度	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	上本昌昭	
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】 ・成年後見人、保佐人、補助人それぞれに付与される権限の違いを説明できる。 ・法定後見と任意後見の利用手続きとその違いについて説明できる。 ・行政不服審査制度と行政事件訴訟との違いと、その違いに基づく具体的利用手続きについて説明できる。 ・消費者保護における消費者契約法と特定商取引法との違いを説明できる。								
【学習内容】 (どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 大学などで基礎法学の教育に携わり、権利保障や紛争処理の仕組みについて研究する教員が、成年後見制度、相談援助に必要な法律の知識など、成年後見制度などを通じて裏支援者の権利を擁護できる力を身につけるための授業を行う。								
【使用教科書・教材・参考図書】 社会福祉士養成講座編集委員会編(中央法規) 『新・社会福祉士養成講座19 権利擁護と成年後見制度』				【授業時間外における学習】 法律は表現が回りくどく理解しづらいので、言葉や表現の理解に努める。また、授業で配布された問題は復習し、確実に解答できるようになっておく。				
回	授業計画			回	授業計画			
1	【授業単元】 科目ガイダンス／相談援助の活動と法①－憲法①－			9	【授業単元】 相談援助の活動と法③－行政法①－			
	【到達目標】 ・なぜ権利擁護や権利救済の知識が必要なのかを説明できる。 ・憲法が保障する人権の種類と関連する代表的判例を列挙できる。				【到達目標】 ・裁量行為と司法審査の関係について説明できる。 ・行政救済制度の全体像を説明できる。			
2	【授業単元】 相談援助の活動と法②－憲法②－／成年後見制度①			10	【授業単元】 相談援助の活動と法④－行政法②－			
	【到達目標】 ・抽象的権利説および朝日訴訟と堀木訴訟の内容を説明できる。 ・「権利能力」「意思能力」「行為能力」の違いを説明できる。 ・法定後見と任意後見の相違点について対比できる。				【到達目標】 ・審査請求とは何か説明できる。 ・不服申立前置主義による行政救済手続きの違いを説明できる。 ・行政事件訴訟の訴訟類型を説明できる。			
3	【授業単元】 成年後見制度②			11	【授業単元】 相談援助の活動と法⑤－民法①－			
	【到達目標】 ・成年後見人、保佐人、補助人が有する権限の違いを説明できる。 ・後見人等の「事務」と「義務」の内容について説明できる。				【到達目標】 ・契約の成立要件について説明できる。 ・各種の典型契約の特徴を列挙できる。			
4	【授業単元】 成年後見制度③			12	【授業単元】 相談援助の活動と法⑥－民法②－			
	【到達目標】 ・法定後見の「申立権者」について列挙できる。 ・法定後見人等の「辞任」と「解任」の各手続きについて説明できる。				【到達目標】 ・消費者契約法における意思表示解除の要件を列挙できる。 ・特定商取引ごとのクーリングオフ制度の特徴について説明できる。			
5	【授業単元】 成年後見制度④			13	【授業単元】 相談援助の活動と法⑦－民法③－			
	【到達目標】 ・任意後見が開始されるまでの手続きについて説明できる。 ・任意後見受任者、任意後見人、任意後見監督人を説明できる。				【到達目標】 ・不法行為責任の成立要件について説明できる。 ・債務不履行責任、不法行為責任、国家賠償責任を説明できる。			
6	【授業単元】 成年後見制度⑤			14	【授業単元】 相談援助の活動と法⑧－民法④－			
	【到達目標】 ・成年後見制度の今日的課題を列挙できる。 ・『成年後見関係事件の概況』の内容を知っている。 ・成年後見制度全体を復習し理解を深める。				【到達目標】 ・婚姻、離婚、実子関係、養子縁組などの制度を説明できる。 ・扶養義務の範囲と強度の違いを説明できる。 ・遺産の法定相続分を計算できる。			
7	【授業単元】 日常生活自立支援事業と成年後見制度利用支援事業			15	定期試験			
	【到達目標】 ・日常生活自立支援事業の利用手続きと事業内容を説明できる。 ・日常生活自立支援事業と成年後見制度の異同を説明できる。 ・成年後見制度利用支援事業の内容を説明できる。				【到達目標】 ・知識が不足している部分、自分が弱い事項を確認する。			
8	【授業単元】 権利擁護にかかわる組織や団体および専門職の役割			【成績評価の方法と基準】 評価は、筆記試験で行う。筆記試験は、授業内で扱った内容の理解や定着を確認するもので、5肢択一式30問からなる。内容およびレベルは国家試験に準ずる。また、授業終了時に5点満点の小テストを実施する(第8回のみは15点満点)。成績は、小テストの合計点を2で除した点数(40点満点)と定期試験(60点満点)を合算した100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。				
	【到達目標】 ・家事調停の対象となる家事審判事項を判別できる。 ・調停前置主義の対象となる事項を列挙できる。							
【履修に当たっての心構え・留意点】 毎回の授業では、ノートはしっかりととり、また、配布したプリントは整理して、後から見直せるようにしておくこと。分からないところは放置せず、説明できることを諦めない。								

授業概要

科目名	精神保健福祉援助演習(専門)	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	西園寺弘久 宮路雄大		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業 形態	演習	総単位数	単位	総時間数	8 時間
【授業を通じての到達目標】									
精神保健福祉士が、ソーシャルワークの現場で求められる基礎的な援助技法、知識について、演習形式で学び理解を深め、身につける。									
【学習内容】									
精神保健福祉士が求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術について、実践的に習得する。担当講師は、精神保健福祉士として、認知症専門病院、単科精神科病院に勤務歴がある。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
ソーシャルワーク演習(中央法規) 適宜、レジュメを配布					授業後に課題を提示する。教科書、レジュメ、インターネットなどを用いて調べてほしい。次回の授業の際に確認する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 精神保健福祉援助演習の意義				9	【授業単元】			
	【到達目標】 ・演習科目の意義、ねらいを理解する。 ・講師の現場経験を通して、自分自身のキャリアについて考察する。 ・精神保健福祉士が求められる役割を列挙し、説明できる。					【到達目標】			
2	【授業単元】 精神保健福祉士の実践における原理原則				10	【授業単元】			
	【到達目標】 ・精神保健福祉士が常に念頭に置くべき、自己決定の尊重について、日本の精神科医療の歴史、Y問題などから考察する。 ・Y問題について、精神保健福祉士の立場に立ち意見交換を行う。					【到達目標】			
3	【授業単元】 インテーク(予診)				11	【授業単元】			
	【到達目標】 ・インテーク面接の目的、役割、精神保健福祉士の姿勢、情報収集について学ぶ。・ロールプレイ形式で、実際に現場で使用するインテーク用紙を用いて面接を体験する。					【到達目標】			
4	【授業単元】 中テスト				12	【授業単元】			
	【到達目標】 1～3回目の授業を振り返り、中テストを記述式、選択式にて行う。知識の定着と理解度を図る。					【到達目標】			
5	【授業単元】 精神科病院からの地域移行支援と福祉サービスの利用				13	【授業単元】			
	【到達目標】 ・精神科病院に長期入院している患者の心理、退院の意欲に思いを馳せて、支援者として、退院に消極的な患者にどのようにアプローチをして、退院支援に取り組むか考察する。					【到達目標】			
6	【授業単元】 アルコール依存症の支援				14	【授業単元】			
	【到達目標】 ・精神保健福祉士として、アルコール依存症者の支援をどのように展開するのか学ぶ。自助グループの役割、期待する効果などを説明できるようにする。・アルコール依存症者の家族心理、介入方法について学ぶ。					【到達目標】			
7	【授業単元】 精神保健福祉士の実践力の獲得				15	【授業単元】			
	【到達目標】 ・1～6回目の授業を振り返る。 ・精神保健福祉士の専門性、求められる力を説明できるようになる。自身のキャリアデザインを行う。					【到達目標】			
8	【授業単元】 期末テスト				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 1～7回目の授業を振り返り、期末テストを実施。選択式、記述式で行う。今までの知識の定着、理解度を確認する。				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小点数以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
グループワーク、ロールプレイでは、積極的な姿勢を期待する。授業で発生した不明な点は、教員に質問する。									

授 業 概 要

科目名	精神保健福祉援助実習指導	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	前・後期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の 方法	演習	単位数	3	単位	総時間数	90	時間
【授業を通じての到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉援助実習の意義について理解する。 ・精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ・精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。 ・精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ・具体的な体験や援助活動を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 											
【学習内容】 （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
精神保健福祉士としての実務経験が5年以上もしくは実習教員講習会を修了した教員が、集団および個別指導にて実習先における事前理解や実習終了後の現場体験を踏まえた総括等をおこなう。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項 精神保健福祉士指定科目 各教科書						実習オリエンテーションに参加するとともに、実習先についての事前学習等、実習に向けた各自の学習が必要である。					
授業計画											
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]											
実習開始前と実習終了後に下記の内容にて実施する											
<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉援助実習と精神保健福祉援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義 ・精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む）に関する基本的な理解 ・実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ・現場体験学習及び見学実習 ・実習先で必要とされる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解 ・精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解 ・実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（個人情報保護法の理解を含む） ・「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解 ・実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成 ・巡回指導（訪問指導、スーパービジョン） ・実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成 ・実習の評価全体総括会 											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むための心がまえが求められる。						実習前試験の結果をふまえ、A～Eの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	精神保健福祉援助実習	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	前・後期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の 方法	実習	単位数	4	単位	総時間数	210	時間
【授業を通じての到達目標】											
<p>・精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。・精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。・精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。・総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。</p>											
【学習内容】 （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
精神保健福祉士としての実務経験が3年以上かつ実習指導者講習会を修了した実習担当者が、相談援助実習担当教員の巡回指導と合わせ、実習中の取り組みについてフィードバックとスーパービジョンを行うなかで、実践を通して学んだ知識や経験を理論としてまとめる能力の涵養を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項 精神保健福祉士指定科目 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
以下の内容について、各実習施設における実習計画書に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。											
1. 精神科病院等の病院 患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。 <ul style="list-style-type: none"> ・入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助 ・退院又は地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助 ・多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助 											
2. 精神科診療所 患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。 <ul style="list-style-type: none"> ・治療中の患者及びその家族への相談援助 ・日常生活や社会生活上の問題に関する、患者及びその家族への相談援助 ・地域の精神科病院や関係機関との連携を通じた援助 											
3. 地域の障害福祉サービス事業を行う施設等・精神科病院等の医療機関 次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ・利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との支援関係の形成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワーメントを含む。）とその評価 ・精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践 ・精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解 ・施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解 ・施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実践 ・当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解 											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習指導者による評価、実習巡回教員による評価、自己評価を換算し、A～Eの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク応用実習指導	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	前期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の 方法	演習	単位数	3	単位	総時間数	90	時間
【授業を通じての到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ ソーシャルワーク実習の意義について理解する。 ・ ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術を体得する。 ・ 相談員として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ・ 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。 											
【学習内容】 （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
相談員としての実務経験が5年以上もしくは実習教員講習会を修了した教員が、集団および個別指導にて実習先における事前理解や実習終了後の現場体験を踏まえた総括等をおこなう。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項 精神保健福祉士科目 各教科書						実習オリエンテーションに参加するとともに、実習先についての事前学習等、実習に向けた各自の学習が必要である。					
授業計画											
実習開始前と実習終了後に下記の内容にて実施する											
<ul style="list-style-type: none"> ・ ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導における個別指導及び集団指導の意義 ・ 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ・ 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解 ・ 現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む。） ・ 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解 ・ 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解（個人情報保護法の理解を含む。） ・ 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解 ・ 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成 ・ 巡回指導 ・ 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成 ・ 実習の評価全体総括会 											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むための心がまえが求められる。						実習前試験(100点満点)の結果をふまえ、A～Eの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク応用実習	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	前期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の 方法	実習	単位数	4	単位	総時間数	210	時間
【授業を通じての到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ ソーシャルワーク実習を通じて、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。 ・ 相談員として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ・ 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 											
【学習内容】 （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
相談員としての実習担当者が、ソーシャルワーク実習担当教員の巡回指導と合わせ、実習中の取り組みについてフィードバックとスーパービジョンを行うなかで、実践を通して学んだ知識や経験を理論としてまとめる能力の涵養を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項 精神保健福祉士指定科目 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
<p>以下の内容について、各実習施設における実習計画書に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ・ 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 ・ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成 ・ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む。）とその評価 ・ 多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際 ・ 相談員としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解 ・ 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際 ・ 当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解 											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとらむことが求められる。						実習指導者による評価、実習巡回教員による評価、自己評価を換算し、A～Eの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	産業・組織心理学	必修 選択の別		開講 区分	前期	担当 教員	佐々木 将人		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
産業・組織心理学は、仕事に従事する人たちやその組織(会社)に関する心理学の分野です。ワークライフを本格的に経験していない皆さんにとっては、いまひとつイメージがつかみにくい内容かもしれません。そのため、本授業では「組織(会社)はどのような課題を抱えており、支援者はどんなことができるのか」という実践的な視点に立ちながら①職場における問題(キャリア形成に関することを含む。)に対して必要な心理に関する支援、②組織における人の行動について、それぞれ学んでいくことを目標とします。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
担当教員は、医療・産業領域において5年以上の実務経験があり、なかでもEAP事業に携わってきました。本授業では、その経験を活かし、教員が一方向的に講義をするのではなく、生徒との積極的なやり取りを重視した授業を実施します。したがって、毎回の授業では、授業計画に基づき、ディスカッションやグループワークを取り入れた形式で知覚・認知心理学について考えていくことになります。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用教科書：公認心理師必携テキスト(学研) 教材：各回での配布資料 参考図書：適宜、授業で指示します。					授業で本科目のすべてを網羅することはとても難しく、本授業はあくまできっかけの1つに過ぎません。本科目に関する文献は教科書以外にもたくさんありますので、いくつか読み比べてみてください。さらに可能であれば、研究論文に触れることも望ましいです。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 産業領域における心理支援について①				9	【授業単元】 健康経営について①			
	【到達目標】 職場での問題に対して必要な心理的支援とその方法について説明することができる。					【到達目標】 健康経営について理解し、企業が順守しなければならない法令について説明することができる。			
2	【授業単元】 産業領域における心理支援について②				10	【授業単元】 健康経営について②			
	【到達目標】 専門家目線で職場で生じている問題を説明することができる。					【到達目標】 健康経営について理解したうえで、支援者としてのふるまいを説明することができる。			
3	【授業単元】 人事総務の役割について				11	【授業単元】 企業が抱える課題へのアプローチについて①(リサーチ)			
	【到達目標】 人事総務の役割について理解し、そこから心理支援を説明することができる。					【到達目標】 企業が抱える課題に対し、既存のサービスにはどのようなものがあるか説明することができる。			
4	【授業単元】 人事に求められる心理学について①				12	【授業単元】 企業が抱える課題へのアプローチについて②(問題点の洗い出し)			
	【到達目標】 産業領域で特に重要な心理学について説明することができる。					【到達目標】 既存のサービスについて理解し、そのサービスの問題点について説明することができる。			
5	【授業単元】 人事に求められる心理学について②				13	【授業単元】 企業が抱える課題へのアプローチについて③(解決策の提案)			
	【到達目標】 産業領域で特に重要な心理学について理解し、支援者としての在り方を説明することができる。					【到達目標】 既存のサービスが抱える問題点について解決策を説明することができる。			
6	【授業単元】 企業が抱える課題について①				14	【授業単元】 企業が抱える課題へのアプローチについて④(解決策の検証)			
	【到達目標】 企業が抱える課題をリサーチし、どのようなことが課題になっているか、説明することができる。					【到達目標】 企業が抱える課題に対し、新たなサービスを提示することができる。			
7	【授業単元】 企業が抱える課題②				15	【授業単元】 定期テスト			
	【到達目標】 企業が抱える課題を理解したうえで、課題を解決するための方法を説明することができる。					【到達目標】 第1回目から13回目までの内容を習得できている。			
8	【授業単元】 中間テスト				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 第1回から第6回までの内容を習得できている。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
毎回の授業は、教員と生徒の双方向なやり取りによって展開していきます。そのため、本科目に興味関心を持って授業に臨むことを期待します。また、事前に教科書を何度か読んでおくとうれしいです。									

授 業 概 要

科目名	関係行政論	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	上本昌昭	
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】 ・公認心理師の役割を法的視点から説明できる。 ・公認心理師が業務を行う主要5分野における法律や制度を説明できる。 ・臨床判断する上で必要な法律や制度の知識を有効に活用できる。 ・関連する法令や制度を通じて、多職種との専門家や行政機関などと協同することができる。								
【学習内容】 (どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 大学などで基礎法学の教育に携わり、権利保障や紛争処理の仕組みについて研究する教員が、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の各分野の法律や制度、多職種連携に必要な法律の知識などを通じて、公認心理師として要心理支援者を支援できる力を身につけるための授業を行う。								
【使用教科書・教材・参考図書】 『公認心理師 必携テキスト』(学研メディカル秀潤社)				【授業時間外における学習】 法律は表現が回りくどく理解しづらいので、言葉や表現の理解に努める。また、授業で配布された資料は復習し、確実に理解しておく。				
回	授業計画			回	授業計画			
1	科目ガイダンス／法学大意 <small>【到達目標】</small> ・科目のガイダンス ・社会規範によってわれわれの社会が成り立っていることを説明できる。 ・制定形式の違いに基づいて法が分類されていることを説明できる。			9	教育分野に関する法① <small>【到達目標】</small> ・子どもの学習権と教育基本法を説明できる。 ・教育機会の提供に関する諸法の概要と学校制度を説明できる。 ・学校における健康管理について説明できる。			
	公認心理師法 <small>【到達目標】</small> ・公認心理師という資格の概要を説明できる。 ・法的責任の概要について説明できる。 ・公認心理師の職責と法的責任について説明できる。				教育分野に関する法② <small>【到達目標】</small> ・教育関連職種とスクールカウンセラーについて知る。 ・いじめや発達障害といった学校の対応課題に関する法律を説明できる。			
2	クライアント(患者)の権利 <small>【到達目標】</small> ・インフォームドコンセントと患者の自己決定権の関係を説明できる。 ・守秘義務の背景にあるプライバシー権について説明できる。 ・医療情報の管理に関する各種の法律、指針の内容を説明できる。			11	司法・犯罪分野に関する法① <small>【到達目標】</small> ・日本の司法制度について説明できる。 ・犯罪被害者を支援する法律の概要を説明できる。			
	保健医療分野に関する法① <small>【到達目標】</small> 「医療」および「医療提供施設」の種類と機能について説明できる。 医療安全を確保する仕組みについて説明できる。 医療関連職種の業務について説明できる。				司法・犯罪分野に関する法② <small>【到達目標】</small> ・少年非行と少年法の概要を説明できる。			
3	保健医療分野に関する法② <small>【到達目標】</small> ・精神保健福祉法の概要を説明できる。 ・心神喪失者等医療観察法の概要を説明できる。			13	産業・労働分野に関する法 <small>【到達目標】</small> ・勤労権、労働基本権と働き方についての法律を説明できる。 ・労働者の健康を保護するための法律を説明できる。 ・各種ハラスメントの防止策を知る。			
	福祉分野に関する法① <small>【到達目標】</small> ・民法の親子関係に関する規定を説明できる。 ・児童福祉法の概要を説明できる。 ・児童虐待防止法の概要を説明できる。				関係行政論のまとめ <small>【到達目標】</small> ・これまでに学んだ諸法令の目的と内容について振り返る。			
4	福祉分野に関する法② <small>【到達目標】</small> ・障害者基本法と障害者総合支援法の概要を説明できる。 ・障害者虐待防止法について説明できる。 ・障害者差別解消法の概要を説明できる。			15	定期試験 <small>【到達目標】</small> 関係行政論について振り返り、知識が不足している部分、自分が弱い事項を確認する。			
	福祉分野に関する法③ <small>【到達目標】</small> ・高齢者福祉の背景と後見制度の概要について説明できる。 ・介護保険制度と老人福祉法の概要について説明できる。 ・高齢者虐待防止法の概要を説明できる。				【成績評価の方法と基準】 評価は、筆記試験で行う。筆記試験は、授業内で扱った内容の理解や定着を確認するものである。内容およびレベルは国家試験に準ずる。また、各回の授業で5点満点の小テストを実施する(第8回のみは15点満点)。成績は、小テストの合計点に1/2を乗じた点数(40点満点)と定期試験(60点満点)を合算した100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。			
【履修に当たっての心構え・留意点】 国試受験は卒業後になるので、この授業を国試対策というよりも、公認心理師として必要な法学的知識の概要を知るものと位置づけてください。授業内で行う課題の提出は不要ですが、積極的に取り組み、理解に努めてください。								